



デジタルビデオレコーダー

ユーザーマニュアル

法的情報

この文書について

- この文書には、製品の操作および管理に関する説明が含まれています。以下に記載されている写真、図、画像、およびその他の情報は、説明および解説のみを目的としています。
- 本ドキュメントに記載されている情報は、ファームウェアのアップデートなどの理由により、予告なく変更される場合があります。最新バージョンのドキュメントは、Hikvision のウェブサイト (<https://www.hikvision.com>) をご覧ください。別段の合意がない限り、Hangzhou Hikvision Digital Technology Co., Ltd. またはその関連会社 (以下「Hikvision」) は、明示的または黙示的を問わず、いかなる保証も行いません。
- 本ドキュメントは、製品をサポートする専門家の指導と支援を受けて使用してください。

本製品について

- この製品は、購入した国または地域でのみアフターサービスサポートを受けることができます。
- お選びいただいた製品がビデオ製品の場合は、以下の QR コードをスキャンして「ビデオ製品の使用に関する取り組み」を入手し、よくお読みください。



知的財産権の承認

- 本ドキュメントに記載される製品に組み込まれた技術に関する著作権および/または特許権は、Hikvision が所有しています。これには、第三者から取得したライセンスを含む場合があります。
- 本文書の一部（テキスト、画像、グラフィックなど）は、Hikvision に帰属します。本文書のいかなる部分も、書面による許可なく、その全部または一部を、いかなる手段によっても、抜粋、複製、翻訳、または改変することはできません。
- **HIKVISION** およびその他のヒクビジョンの商標およびロゴは、各管轄区域においてヒクビジョンの財産です。
- 本文書で言及されるその他の商標およびロゴは、それぞれの所有者の財産です。
- **HDMI**™ HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interface、および HDMI ロゴは、米国およびその他の国における HDMI Licensing Administrator, Inc. の商標または登録商標です。

法的免責事項

- 適用される法律で認められる最大限の範囲において、本書および本書に記載されている製品、そのハードウェア、ソフトウェア、およびファームウェアは、「現状有姿」および「すべての欠陥およびエラーを含む」状態で提供されます。HIKVISION は、明示的または黙示的を問わず、商品性、満足のいく品質、または特定の目的への適合性を含むがこれらに限定されない、いかなる保証も一切行いません。

明示的または黙示的ないかなる保証も提供しません。これには、商品性、満足のいく品質、または特定の目的への適合性に関する保証が含まれますが、これらに限定されません。製品の使用は、お客様の責任において行ってください。いかなる場合においても、HIKVISION は、事業利益の損失、事業の中断、データの損失、システムの破損、または文書の損失を含むがこれらに限定されない、特別、結果的、偶発的、または間接的な損害について、契約違反、不法行為（過失を含む）、製品責任、その他に基づくものであるかを問わず、お客様に対して一切の責任を負いません。システムの破損、または文書の損失を含む損害について、契約違反、不法行為（過失を含む）、製品責任、またはその他の理由に基づくものであっても、製品の使用に関連して生じた場合、HIKVISION は一切の責任を負いません。これは、HIKVISION がそのような損害または損失の可能性について事前に通知を受けていた場合でも同様です。

- お客様は、インターネットの性質上、セキュリティ上のリスクが内在していることを認識し、サイバー攻撃、ハッカーの攻撃、ウイルス感染、その他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常な動作、プライバシーの漏洩、その他の損害について、HIKVISION は一切の責任を負わないことを認めます。ウイルス感染、またはその他のインターネットセキュリティリスクに起因する異常動作、プライバシー漏洩、またはその他の損害について一切の責任を負いません。ただし、HIKVISION は、必要に応じてタイムリーな技術サポートを提供します。
- お客様は、本製品を適用されるすべての法律に準拠して使用することに同意し、その使用が適用される法律に準拠していることを確保する責任はお客様にのみあります。特に、お客様は、パブリシティ権、知的財産権、データ保護およびその他のプライバシー権を含むがこれらに限定されない、第三者の権利を侵害しない方法で本製品を使用する責任があります。お客様は、大量破壊兵器の開発または製造、化学兵器または生物兵器の開発または製造、核爆発または安全でない核燃料サイクルに関連するいかなる活動、または人権侵害を支援する目的での使用を含みます。
- 本文書と適用法との間に矛盾がある場合は、適用法が優先するものとします。

©杭州海康威視デジタルテクノロジー株式会社。著作権所有。

規制情報

FCC情報

コンプライアンス担当者が明示的に承認していない変更または改造は、本機器の操作に関するユーザーの権限を無効にする場合がありますのでご注意ください。

FCC 準拠: この機器は、FCC 規則のパート 15 に準拠した試験を受け、その制限に準拠していることが確認されています。これらの制限は、住宅環境における有害な干渉を合理的に防止するために設定されています。この機器は、無線周波エネルギーを発生、使用、および放射します。指示に従って設置および使用しなかった場合、無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。ただし、特定の設置において干渉が発生しないという保証はありません。この機器がラジオやテレビの受信に有害な干渉を与えている場合（機器の電源をオフにして確認してください）、ユーザーは次のいずれかの方法で干渉の解消を試みてください。

- 受信アンテナの向きや位置を変更する。
- 機器と受信機との距離を離す。
- 受信機が接続されている回路とは異なる回路のコンセントに機器を接続してください。
- 販売店または経験豊富なラジオ/テレビ技術者に相談してください。

FCCの条件

この装置はFCC規則の第15部に準拠しています。動作は次の2つの条件に準拠しています：

- この装置は有害な干渉を引き起こしてはなりません。
- この装置は、受信した干渉（不要な動作を引き起こす可能性のある干渉を含む）をすべて受け入れる必要があります。

EU適合宣言



この製品および付属のアクセサリ（該当する場合）には、以下のマークが付いています。

CE」マークが付いており、EMC 指令 2014/30/EU、LVD 指令 2014/35/EU、RoHS 指令 2011/65/EU に記載された、適用される欧州統一規格に準拠しています。



2012/19/EU（WEEE指令）：このマークが付いた製品は、欧州連合内で未分別のごみとして廃棄できません。適切なリサイクルのため、同等の新品を購入する際は、この製品を地元の供給元に返却するか、指定の回収場所に廃棄してください。詳細については、

<http://www.recyclethis.info>。



EU規則2023/1542（バッテリー規則）：この製品には
バッテリーが含まれており、規制 (EU) 2023/1542 に準拠しています。このバッテリー
は、欧州連合では一般廃棄物として処分することはできません。バッテリーの具体的
な情報については、製品のドキュメントをご覧ください。バッテリーには、カドミウ
ム (Cd) または鉛 (Pb) を示す文字を含むこの記号が記載されています。適切なりサイ
クルのため、電池は販売店または指定の回収場所に返却してください。

詳細情報は、www.recyclethis.info をご覧ください。

適用モデル

このマニュアルは、以下のモデルに適用されます。

シリーズ	モデル
iDS-7200HUHI-M1/E	iDS-7208HUHI-M1/E
iDS-7200HUHI-M/PXT	iDS-7204HUHI-M1/PXT
	iDS-7208HUHI-M2/PXT
	iDS-7216HUHI-M2/PXT
iDS-7100HUHI-M1/S (E)	iDS-7108HUHI-M1/S (E)
iDS-7200HUHI-M1/X	iDS-7204HUHI-M1/X
	iDS-7208HUHI-M1/X
iDS-7200HUHI-M2/X	iDS-7204HUHI-M2/X
	iDS-7216HUHI-M2/X
	iDS-7208HUHI-M2/X
iDS-7100HQHI-M1/S (E)	iDS-7116HQHI-M1/S (E)
iDS-7200HQHI-M1/E	iDS-7216HQHI-M1/E
iDS-7200HQHI-M1/XT	iDS-7204HQHI-M1/XT
	iDS-7208HQHI-M1/XT
	iDS-7216HQHI-M1/XT
iDS-7200HQHI-M2/XT	iDS-7208HQHI-M2/XT
	iDS-7216HQHI-M2/XT
	iDS-7232HQHI-M2/XT
iDS-7208HTHI-M2/XT	iDS-7204HTHI-M1/XT
	iDS-7204HTHI-M2/XT
	iDS-7208HTHI-M2/XT

記号の規約

この文書で用いられる記号は、以下のとおり定義されます。

記号	説明
 危険	危険な状況を示し、回避しない場合、死亡または重大なけがを引き起こす可能性があります。
 注意	回避しない場合、機器の損傷、データ損失、性能の低下、または予期しない結果を引き起こす可能性がある危険な状況を示します。
 注意	本文の重要な点を強調または補足するための追加情報を提供します。

安全に関する指示

- すべてのパスワードおよびその他のセキュリティ設定の適切な設定は、設置者および/またはエンドユーザーの責任です。
- 本製品をご使用になる場合は、お住まいの国および地域の電気安全に関する規制を厳守してください。
- プラグは電源コンセントにしっかりと差し込んでください。1つの電源アダプタに複数の機器を接続しないでください。アクセサリや周辺機器を接続または取り外す場合は、製品の電源をオフにしてください。
- 感電の危険があります。メンテナンスを行う場合は、すべての電源を切ってください。
- 機器は接地された電源コンセントに接続する必要があります。
- コンセントは機器の近くに設置し、容易にアクセスできる位置に配置してください。
- 危険を示すマークが付いた機器の場合  表示がある機器の場合、端子に接続される外部配線は、指示を受けた者によって設置する必要があります。
- 装置を不安定な場所に置かないでください。装置が落下し、重大な人身事故や死亡事故を引き起こす可能性があります。
- 入力電圧は、IEC62368 による SELV (安全低電圧) および LPS (制限電源) を満たす必要があります。
- 高接触電流！電源に接続する前に、アースに接続してください。
- 本機から煙、異臭、異音が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源コードをコンセントから抜き、サービスセンターにご連絡ください。
- 本機は UPS と組み合わせて使用し、可能であれば工場推奨の HDD を使用してください。
- この機器は、子供が立ち入る可能性のある場所での使用には適していません。
- 注意：バッテリーを誤ったタイプのもので交換すると、爆発の危険があります。
- 電池を飲み込まないでください。化学やけどの危険があります！
- この製品にはコイン型/ボタン型電池が含まれています。コイン型/ボタン型電池を誤飲した場合、2時間以内に重度の内部やけどを引き起こし、死亡する可能性があります。
- 誤った種類の電池に交換すると、安全装置が機能しなくなる可能性があります（例：一部のリチウム電池タイプの場合）。
- 電池を火の中や熱いオープンに捨てたり、機械的に潰したり切断したりしないでください。爆発の危険があります。
- バッテリーを極端に高温の環境に放置しないでください。爆発や可燃性液体・ガスの漏出の原因となる場合があります。
- バッテリーを極端に低い気圧にさらさないでください。これにより、爆発や可燃性液体またはガスの漏洩が発生する可能性があります。
- 使用済みのバッテリーは、指示に従って処分してください。
- ファンブレードやモーターに身体の一部が触れないようにしてください。メンテナンス中は電源を切ってください。
- モーターに身体の一部が触れないようにしてください。メンテナンス中は電源を切ってください。
- 元のモデルと同じ電源、または同じ電圧および電流の LPS 電源のみを使用してください。
- データの漏洩を防ぐため、SSD デバイスを廃棄する前に、Secure Erase 機能を使用してデータを消去してください。

予防措置と注意事項

デバイスを接続および使用する前に、以下の注意事項をご確認ください：

- このデバイスは、屋内での使用のみを目的として設計されています。換気の良い、ほこりのない、液体のない環境に設置してください。
- レコーダーは、ラックや棚にしっかりと固定してください。レコーダーを落下させるなどして大きな衝撃や振動を与えた場合、レコーダー内部の敏感な電子部品が損傷するおそれがあります。
- 本装置は、水滴や水しぶきがかからない場所に設置し、花瓶などの液体が入った容器を置かないでください。
- 点灯したろうそくなどの裸火は、本機器の上に置かないでください。
- 換気口を新聞紙、テーブルクロス、カーテンなどにより覆って換気を妨げないでください。換気口は、ベッド、ソファ、ラグ、または類似の表面の上に機器を置くことで絶対に塞がないでください。
- 一部のモデルでは、AC電源に接続する際の端子接続が正しいことを確認してください。
- 一部のモデルでは、必要に応じて、IT 電源分配システムに接続するために機器が設計、改造されています。
-  バッテリーホルダー自体を識別し、バッテリーホルダー内のセルの位置を識別します。
- **+** は、直流を使用するまたは生成する機器の正極を示します。**-** は、直流を使用するまたは生成する機器の負極を示します。
- 本機の電源を長時間切ったり、長期間放置したりすると、コイン/ボタン電池の電源が切れる場合があります。
- コイン/ボタン電池の電源が切れると、システム時刻が不正確になります。電池の交換については、アフターサービスにご連絡ください。
- 機器の周囲に十分な換気のため、最低200 mm（7.87インチ）の距離を保ってください。
- 一部のモデルでは、AC電源に接続する際、端子の配線を正しく行ってください。
- 鋭利な部分や角に触れないでください。
- 本機器が 45 °C (113 °F) 以上で動作している場合、または S.M.A.R.T. の HDD 温度が指定値を超えている場合は、本機器を涼しい環境で動作させるか、HDD を交換して S.M.A.R.T. の HDD 温度が指定値以下になるようにしてください。
- 山岳地帯、鉄塔、森林など特殊な環境下では、デバイスの入力端子にサージプロテクターを装着してください。
- 電源を切った後も、電気が残っている場合がありますので、裸の部品（入力の金属接点など）には触れないで、5 分以上待ってください。
- 機器のUSBポートは、マウス、キーボード、USBフラッシュドライブ、またはWi-Fi dongle接続専用です。接続された機器の電流は0.1Aを超えてはいけません。
- デバイスのシリアルポートはデバッグ専用です。
- デバイスの電源出力ポートが限定電源に準拠していない場合、このポートから電源を供給する接続機器には防火エンクロージャを装備しなければなりません。
- デバイスのパッケージに電源アダプタが付属している場合は、付属のアダプタのみを使用してください。
-  または  のステッカーが貼付されたデバイスについては、以下の注意点を遵守してください：注意：高温

部品！触れないでください。部品を扱う際に指がやけどするおそれがあります。電源を切ってから30分待ってから部品を扱ってください。

- 装置を壁や天井に設置する必要がある場合、このマニュアルの指示に従って設置してください。
- 怪我を防ぐため、この装置は設置説明書に従って設置面にしっかりと固定してください。
- 高い動作温度（40 °C (104 °F) から 55 °C (131 °F)）では、一部の電源アダプタの電源が低下する場合があります。本装置の配線、設置、分解を行う前に、電源が切れていることを確認してください。
- ご自身で配線を行う場合は、本器に貼付されている電氣的パラメータに応じて、電源を供給する適切な配線を選択してください。標準のワイヤーストリッパーを使用して、適切な位置でワイヤーの被覆を剥がしてください。重大な事故を防ぐため、被覆を剥がす長さは適切にし、導体が露出しないようにしてください。
- デバイスから煙、異臭、異音が発生した場合は、直ちに電源を切り、電源ケーブルをコンセントから抜き、サービスセンターにご連絡ください。

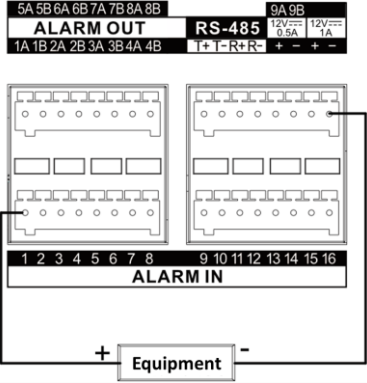
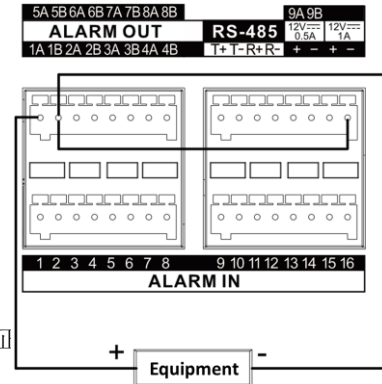
インジケータおよびインターフェースの説明

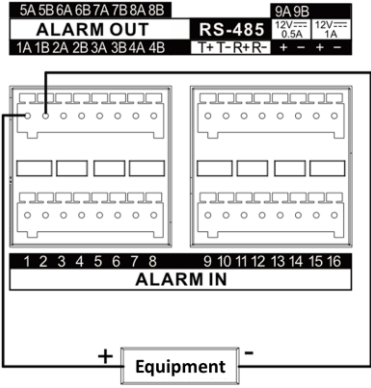
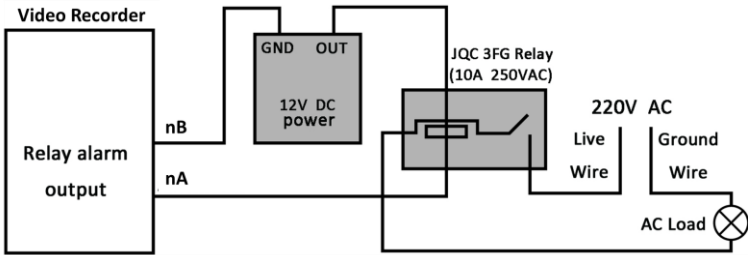
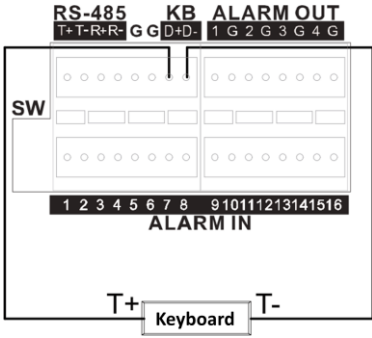
インターフェース 説明

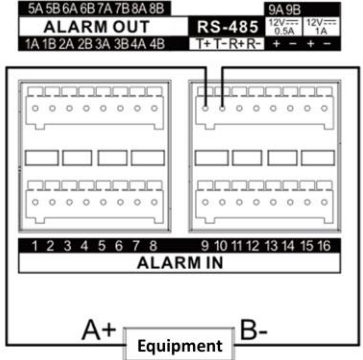
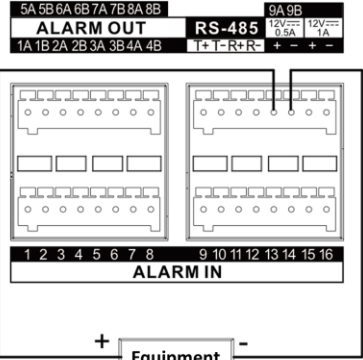
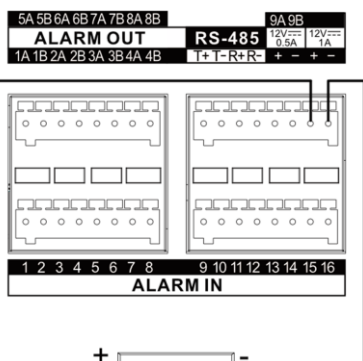
パネルのインターフェースは、モデルによって異なります。一般的なインターフェースの説明については、次の表を参照してください。

表 1-2 共通インジケータの説明

項目	説明
ビデオ入力	Turbo HD およびアナログビデオ入力用の BNC インターフェース。
ビデオ出力	ビデオ出力用 BNC コネクタ。
オーディオ入力	オーディオ入力用 RCA コネクタ。
オーディオ出力	オーディオ出力用 RCA コネクタ。
ライン入力	2ウェイオーディオ入力用RCAコネクタ。
USB	追加デバイス用ユニバーサルシリアルバス（USB）インターフェース。
VGA	ローカルビデオ出力およびメニュー表示用の DB15 コネクタ。
HDMI	ビデオ出力用 HDMI インターフェース。
RS-485	パン/チルトユニット、スピードドームなど用の RS-485 シリアルインターフェース。
RS-232	パラメータ設定用、またはトランスペアレントチャネル用の RS-232 インターフェース。
LAN	RJ-45 自動適応型イーサネット端子。
eSATA	記録またはバックアップ用のストレージおよび拡張インターフェース。
GND	接地。
電源スイッチ	デバイスの電源をオン/オフするスイッチ。
電源	100～240 VAC、48 VDC、または 12 VDC 電源。
USIMカード	UIM/SIMカードスロット。
▽	SMA アンテナインターフェース。
アラーム入力	アラーム入力は、アラーム入力信号を受信します。機器のプラス端子（+）は「+」に、マイナス端子（-）は「-」または「G」に接続してください。 アラーム入力の接続例は、次の図を参照してください。

項目	説明
	
アラーム出力	アラーム出力は、アラーム信号を出力します。 機器が直流電源を使用している場合は、その機器のプラス端子（+）を「A」の番号に、マイナス端子（-）を「B」の番号に接続し、その番号の「-」または「G」に接続してください。直流電源を使用する機器のアラーム出力の接続例については、次の図を参照してください。  機器が AC 電源を使用している場合は、機器の と番号に接続し、負極端子（-）は対応する「B」と表示番号に接続してください。 AC 機器のアラーム出力接続例として、次の図を参照してください。

項目	説明
	 注意 AC 負荷電圧が高くなる可能性があるため、安全のため外部リレーをご使用ください。 以下の図を参考として使用してください。  Note: n represents a number in nA or nB, n can be 1 to 9.
KB	KBはキーボードを表します。「D+」と「D-」をそれぞれ「T+」と「T-」に接続してください。以下の図を参考にしてください。 
RS-485	RS-485 は、2 線式、半二重、多点シリアル接続の電氣的仕様です。T+」と「T-」をそれぞれ「A+」と「B-」に接続してください。 以下の図を参考にしてください。

項目	説明
	
Ctrl 12V/ ^{12V} _{0.5A}	外部アラーム装置用の制御可能な 12 VDC および 0.5/1 A の電源出力。対応するアラーム出力がトリガーされると、電源がオンになります。 以下の図を参照してください。 
DC 12V/ ^{12V} _{1A}	12 VDC、1 A の電源出力を提供します。以下の図を参考してください。 

HDDの取り付け

お使いのデバイスがHDDのホットスワップに対応していない場合は、ハードディスクドライブ (HDD) をインストールする前に、デバイスの電源を切ってください。このインストールには、工場推奨の HDD を使用してください。HDD のインストールビデオをご覧になるには、以下の QR コードをスキャンしてください。



● 図1-1 HDDの取り付け

ブラケットの取り付け

ブラケットの取り付けは、デバイスカバーを取り外し、HDDを内部ブラケットにインストールする必要がある場合に適用されます。

手順

1. 背面のネジを緩め、カバーを後ろに押して取り外します。

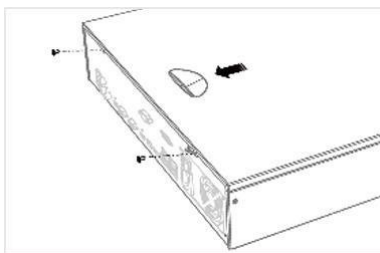


図1-2 カバーの取り外し

2. HDD をブラケットにネジで固定します。



注意

HDDを下の層のブラケットに取り付ける前に、まず上の層のブラケットを取り外してください。

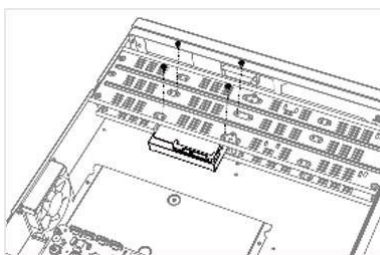


図 1-3 HDD の固定

3. データケーブルと電源ケーブルを接続します。

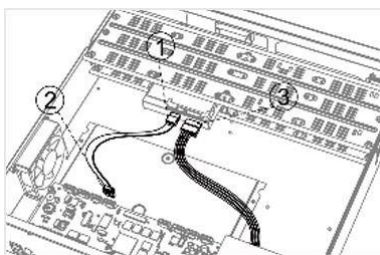


図1-4 ケーブルの接続



注意

上記のステップを繰り返し、他のHDDをインストールできます。

4. デバイスカバーを再取り付けし、ネジを締め付けます。

フロントパネルのプラグ引き抜き式取り付け

フロントパネルのプラグ引き抜き取り付けは、デバイスのフロントパネルを

HDDをインストールする必要がある場合です。

手順

1. 取り付け耳をネジで HDD に固定します。

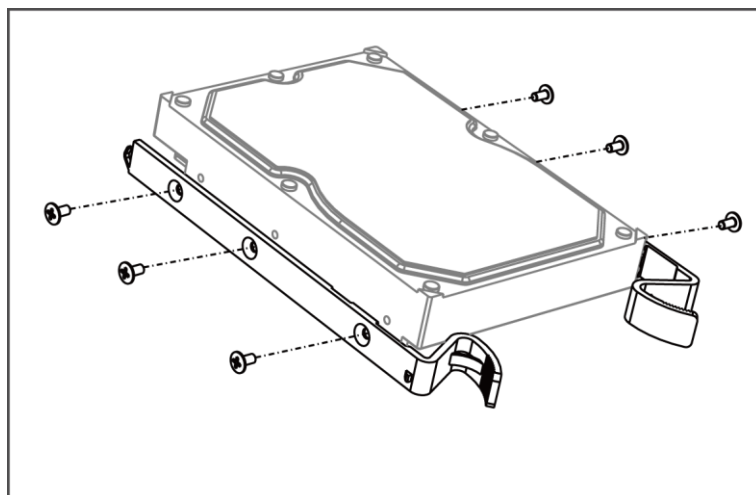


図 1-5 取り付け耳を HDD に固定する

2. 付属のキーでフロントパネルのロックを解除し、フロントパネルの両側のボタンを押して開きます。

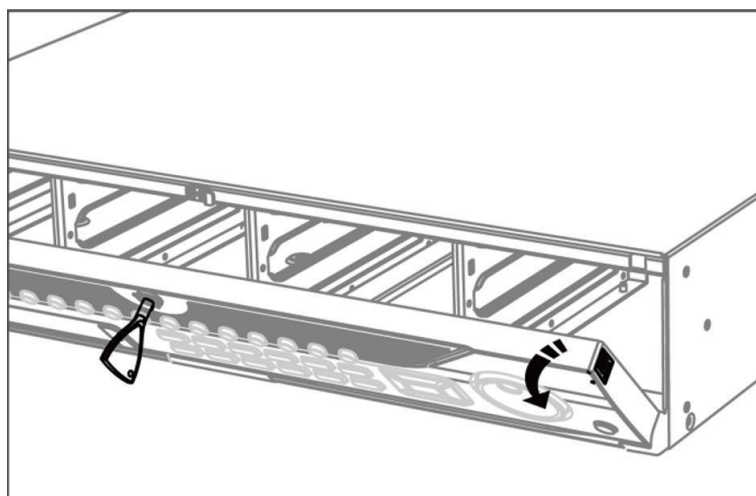


図1-6 前パネルを開ける

3. HDD がしっかりと固定されるまで挿入します。

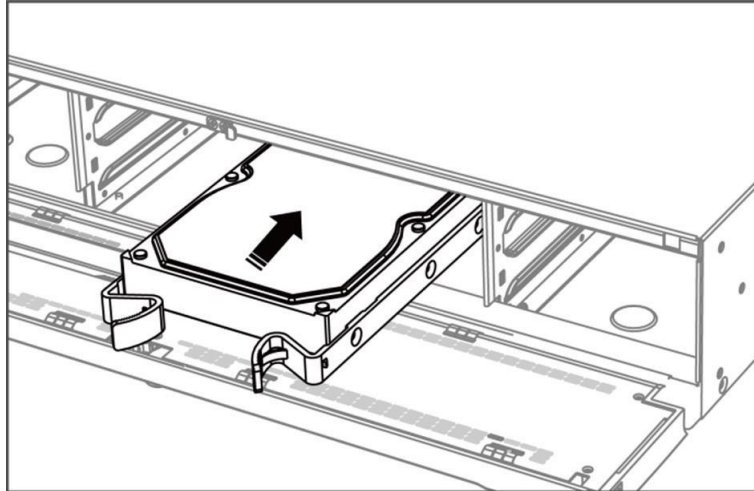


図1-7 HDDの挿入

4. オプション：上記の手順を繰り返して、他の HDD をインストールします。
5. 前面パネルを閉じて、鍵でロックします。

HDDケースの取り付け

HDDケースの取り付けとは、HDDをケースにインストールし、その後HDDケースをスロットに接続する方法を指します。

手順

1. パネルキーで前面パネルのロックを解除します。
2. 前面パネルをデバイスから引き出し、左のハンドルより少し上に持ち上げます。



注意

前面パネルとデバイスとの角度は10°以内である必要があります。

3. 青色のボタンを押してハンドルをポップアップさせ、ハンドルを持って HDD ケースをスロットから引き出します。
4. ハードディスクを HDD ケースに固定します。
 - 1) HDD をケースに配置します。SATA インターフェースはケースの底面に向くようにしてください。
 - 2) HDDの位置を調整します。ハードディスクの背面がHDDの底面と一致するようにします。
 - 3) ドライバーを使用して、両側のネジ穴に4本のネジを締め付けます。

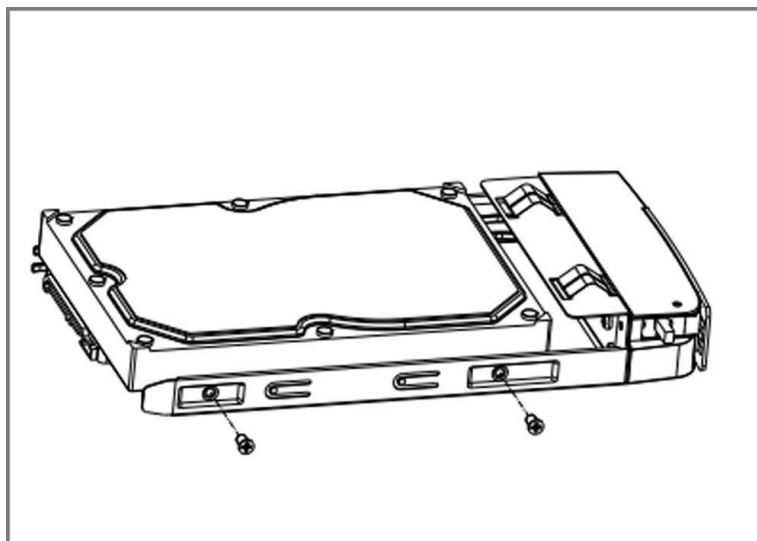


図 1-8 HDD の固定

5. HDDケースをスロットに戻します。

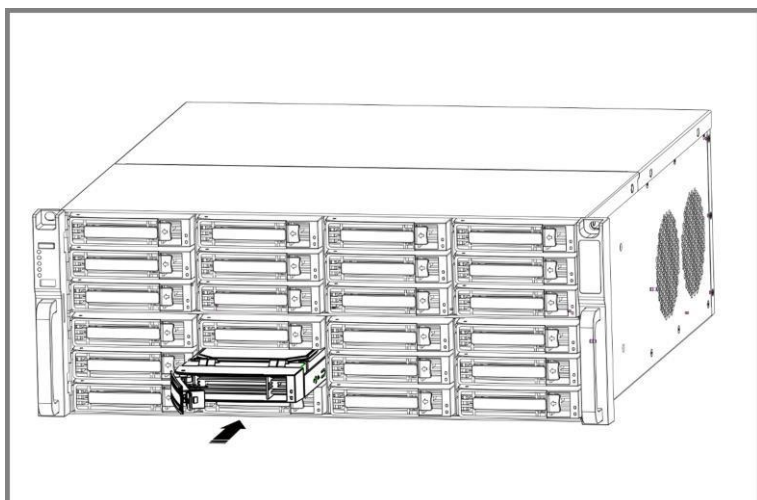


図1-9 HDDケースをスロットに押し込む

6. カチッと音がするまでハンドルを押します。これで、HDD ケースが固定されます。上記のステップを繰り返して、残りのハードディスクボックスを取り付けます。

7. 前面パネルを閉じて、パネルキーでロックします。

底面固定

底面固定は、HDD をデバイスの底面に取り付けて固定する場合に適用されます。

手順

1. パネルのネジを緩めて、デバイスからカバーを取り外します。

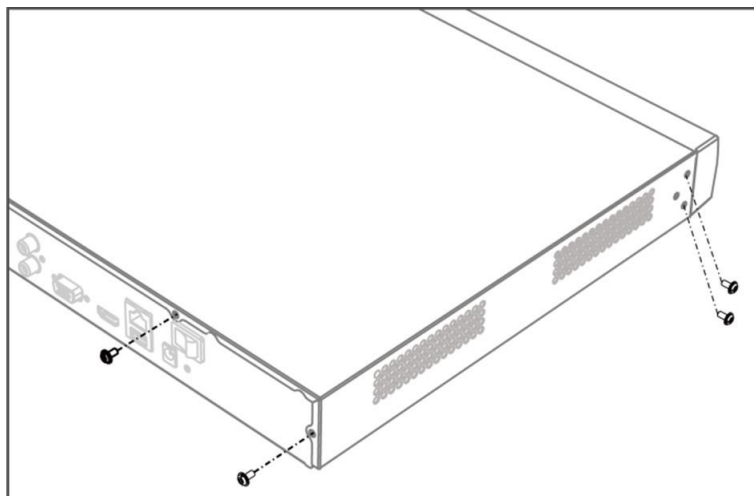


図1-10 カバーの取り外し

2. データケーブルと電源ケーブルを接続します。

1) データケーブルの一端をデバイスのマザーボードに接続します。

2) データケーブルのもう一方の端をHDDに接続します。

3) 電源ケーブルの一方の端をHDDに接続します。

4) 電源ケーブルのもう一方の端をデバイスマザーボードに接続します。

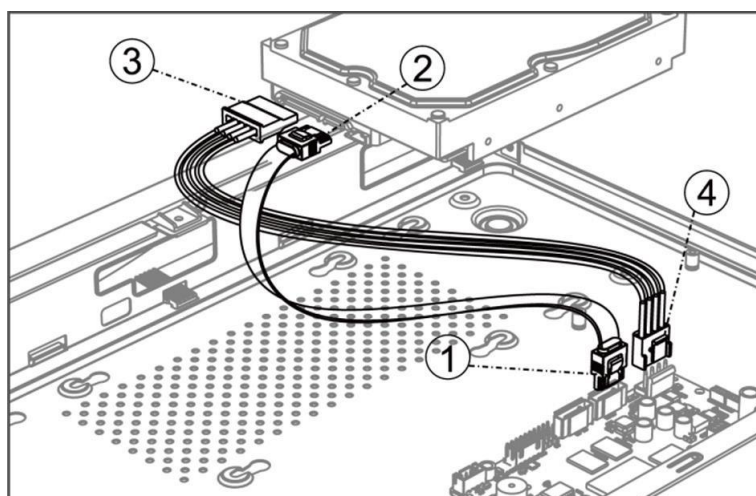


図1-11 ケーブルの接続

3. デバイスを設置し、HDD のネジ山をデバイスの底面の予約穴に合わせて、ネジで HDD を固定します。

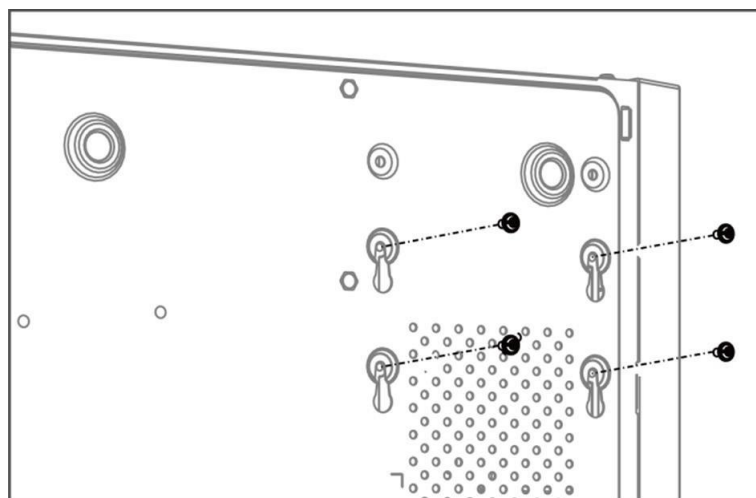


図 1-12 HDD をデバイスの底面に固定する

4. オプション：上記の手順を繰り返して、他の HDD をインストールします。
5. デバイスカバーを再取り付けし、ネジを締め付けます。

コイン/ボタン型電池の交換

コイン/ボタン電池は、デバイスの電源がオフになっている、または長期間放置され、システム時刻が正確でない場合に交換してください。

作業を開始する前にデバイスの電源を切ってください。手順

1. デバイスのシャーシカバーを外します。
2. マザーボード上のコイン型/ボタン型電池を探します。
3. 親指を電池スロットの外側に置き、人差し指でプラス側の接点スプリングをそっと外側に押します。電池が自動的に飛び出します。

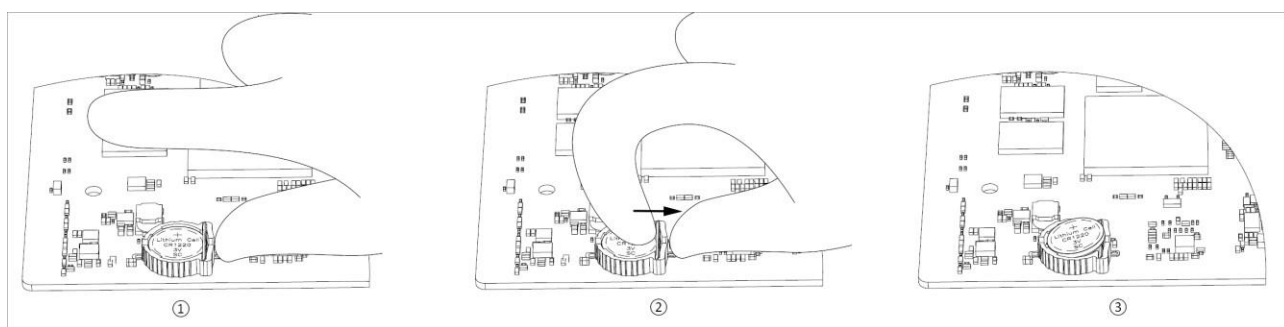


図1-1 電池の取り外し

注意

電池を取り外す際は、静電気防止手袋を着用してください。スプリングが外側に押し出す際に過度の力によって変形した場合、バッテリーを挿入する前に、スプリングを元の位置に戻して調整する必要があります。

4. バッテリーを、バッテリースロットのプラスチックのスナップポイントがある側に向かって斜めに挿入し、その後、バッテリーの正極接点スプリングの近くを押して、スプリングの下にスナップさせます。

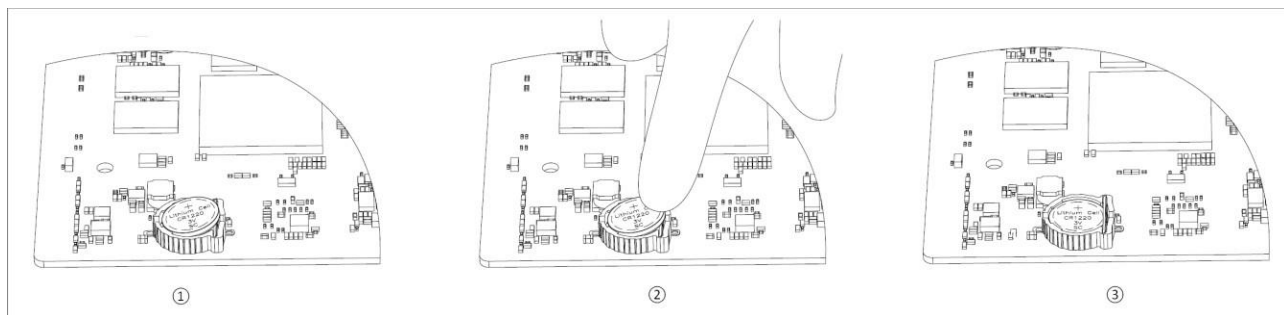


図1-2 バッテリーの交換



バッテリーを交換する際は、静電気防止手袋を着用してください。

5. デバイス筐体カバーを再取り付けます。

次にやるべきこと

システム時刻が正しくない場合は、時刻の設定に進んでください。

目次

第1章 起動	1
1.1 デバイスのアクティベーション	1
1.2 ログイン	3
1.2.1 アンロックパターンでログイン	3
1.2.2 パスワードでログイン	3
第2章 ライブビュー	5
2.1 GUI 概要	5
2.1.1 ウィンドウ分割のカスタマイズ	6
2.2 PTZ制御	7
2.2.1 PTZパラメーターの設定	7
2.2.2 PTZコントロールパネルの概要	8
2.2.3 プリセットのカスタマイズ	8
2.2.4 パトロールのカスタマイズ	8
2.2.5 パターンをカスタマイズ	9
第3章 再生	10
3.1 GUI 概要	10
3.2 通常再生	11
3.3 イベント再生	13
3.4 スライス再生	14
3.5 クリップのバックアップ	15
第4章 ファイル検索	17
4.1 顔写真で人物を検索	17
4.2 クイックバックアップ	19
第5章 設定（簡単モード）	20
5.1 システム設定	20
5.1.1 全般	20
5.1.2 ユーザー	20
5.1.3 例外	22
5.2 ネットワーク構成	23
5.2.1 全般	23

5.2.2 Hik-Connect.....	23
5.2.3 メール	25
5.3 カメラ	27
5.3.1 ネットワークカメラ	27
5.3.2 OSD設定	29
5.3.3 動体検知	30
5.4 アラームのリンク方法の設定	31
5.5 武装スケジュールを設定	31
5.6 記録管理	32
5.6.1 ストレージデバイス	32
5.6.2 記録スケジュールの設定	33
5.6.3 録画パラメーターの設定	35
第6章 設定（エキスパートモード）	37
6.1 システム設定	37
6.1.1 全般	37
6.1.2 ライブビュー	38
6.1.3 ユーザー	40
6.2 ネットワーク設定	40
6.2.1 全般	40
6.2.2 プラットフォームアクセス	47
6.2.3 メール	50
6.3 カメラ管理	50
6.3.1 信号入力の設定	50
6.3.2 ネットワークカメラ	50
6.3.3 表示設定	56
6.3.4 プライバシーマスク	58
6.4 イベント設定	59
6.4.1 多機能インテリジェンス	59
6.4.2 通常のイベント	61
6.4.3 境界保護	67
6.4.4 顔認識	70
6.4.5 武装スケジュールを設定	73

6.4.6 アラームのリンク方法の設定	73
6.5 インテリジェント検索.....	76
6.5.1 AcuSearch	76
6.6 記録管理	76
6.6.1 録音スケジュールの設定	76
6.6.2 録画パラメーターの設定	78
6.6.3 ストレージデバイス	80
6.6.4 ストレージモードの設定	81
6.6.5 詳細設定	83
6.7 顔写真ライブラリ管理.....	84
6.7.1 顔写真ライブラリを追加する	84
6.7.2 顔写真をライブラリにアップロードする	84
第7章 メンテナンス	86
7.1 デフォルトに戻す	86
7.2 検索ログ.....	86
7.3 システムサービス	86
7.4 ブザースイッチ	87
7.5 デバイスマンテナンス	88
7.5.1 スケジュール再起動	88
7.5.2 デバイス状態.....	88
7.5.3 タイムシンク診断	8
7.6 アップグレード	89
7.6.1 ローカルアップグレード.....	89
7.6.2 オンラインアップグレード	89
第8章 アラーム	90
8.1 イベントヒントの設定.....	90
8.2 アラームセンターでアラームを表示する	90
第9章 ウェブ操作.....	91
9.1 概要.....	91
9.2 ログイン.....	91
9.3 ライブビュー	92
9.4 再生	93

9.5 設定	94
9.6 ログ	94
第10章 付録	96
10.1 用語集.....	96

第1章 開始

1.1 デバイスのアクティベーション

初めてアクセスする場合は、管理者パスワードを設定してビデオレコーダーを起動する必要があります。起動するまでは、操作は一切できません。ビデオレコーダーは、ウェブブラウザ、SADP、またはクライアントソフトウェアからも起動できます。

開始前に

- デバイスの電源をオンにします。

初めてアクセスした場合、インターフェース上で 1 分間マウスを動かさない場合、解像度は 1280*720/60Hz (720P) に自動的に設定されます。

手順

1. 言語を選択します。
2. 「適用」をクリックします。
3. パスワードと確認パスワードに同じパスワードを入力します。

The screenshot shows the 'Activation' screen of a device. It has a dark background with white text. At the top, it says 'Activation'. Below that, there are several input fields: 'User Name' with the value 'admin', '*Password', '*Confirm Password', and 'Password Hint'. Below the 'Password Hint' field, there is a small note: 'When you forget your password, the hint will help you remember. It is recommended to set the hint.' Below this, there is a toggle switch for 'Unlock Pattern' which is currently turned off. At the bottom left is a 'Shutdown' button. At the bottom center is a line of text: 'Please respect other people's privacy and rights when using product.' To the right of this text are two buttons: 'Activate' and 'Auto'.

図1-1 アクティベーション

警告

強力なパスワードを推奨 - 製品のセキュリティを強化するため、以下のルールに従って、ご自身で強力なパスワードを設定することを強くお勧めします。

8～16 文字。パスワードには、ユーザー名、123、admin、4 桁以上の連続した昇順または降順の数字、または 4 桁以上の連続した同じ文字は使用しないでください。

連続する同じ文字を含まないこと。以下の種類の文字を少なくとも2種類含める必要があります：数字、大文字、小文字、特殊文字。危険なパスワードは使用できません。
特にセキュリティの高いシステムでは、パスワードを定期的に変更することをお勧めします。パスワードを毎月または毎週リセットすることで、製品をより確実に保護することができます。

4. オプション：パスワードのヒントを設定します。



パスワードを忘れた場合、ヒントが思い出せる手助けになります。パスワードのヒントを設定することをおすすめします。

5. オプション：ロック解除パターンを設定します。

1) ロック解除パターンを有効にする。

2) 画面上の9つの点の間でマウスでパターンを描きます。パターンが完成したらマウスを離してください。



パターンは少なくとも4つの点を含める必要があります。各点は1回だけ接続可能です。

3) 同じパターンをもう一度描いて確認してください。2つのパターンが一致した場合、パターンが正常に設定されました。

6. 「アクティベート」をクリックします。

7. オプション：[自動]をクリックすると、ウィザードのすべてのパラメータが自動的に設定されます。

次にやるべきこと

ウィザードに従って基本パラメーターを設定します。

- 基本的なシステムパラメータの場合。詳細については、「全般」を参照してください。
- 一般的なネットワークパラメータについては、「全般」を参照してください。
- ストレージデバイスの設定については、「ストレージデバイス」を参照してください。
- ネットワークカメラを追加する場合。詳細については、「ネットワークカメラ」を参照してください。
- プラットフォームの設定について。詳細については Hik-Connect をご参照ください。
- パスワードを忘れた場合、パスワードのリセットメール、Hik-Connect、セキュリティの質問の3つの方法でパスワードをリセットできます。パスワードのリセット方法を設定できます。詳細については、「パスワードのリセットメールの設定」 および 「Hik-Connect」 を参照してください。いずれの方法も設定していない場合、自動ログインウィンドウがポップアップ表示されます。「はい」をクリックすると、パスワードを入力せずにログインできます。

1.2 ログイン

1.2.1 アンロックパターンでログイン

手順

1. マウスを右クリックしてメニューを選択するか、ライブビュー上でマウスを左クリックします。

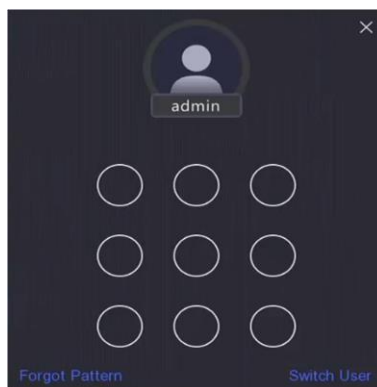


図1-2 アンロックパターンを描画

2. 事前に定義されたパターンを描画してメニュー操作に入ります。



- パターンを忘れた場合は、「パターンを忘れた」または「ユーザーを切り替える」をクリックし、パスワードでログインしてください。
 - パターンを5回以上間違えて入力した場合、システムは自動的に通常のログインモードに切り替わります。
-

1.2.2 パスワードでログイン

ビデオレコーダーがログアウトしている場合は、メニューやその他の機能进行操作する前にログインする必要があります。

手順

1. ユーザー名を選択します。

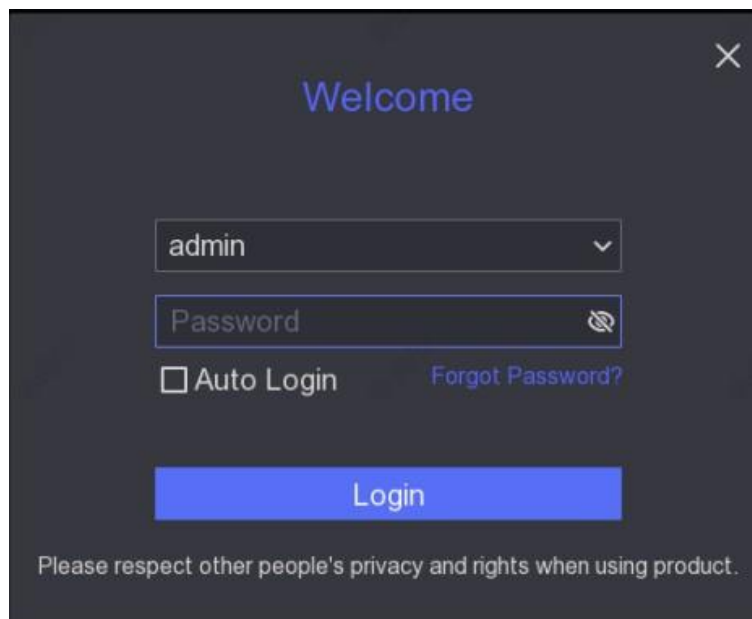


図 1-3 ログインインターフェース

2. パスワードを入力します。
3. ログインをクリックします。

 注意

- 管理者のパスワードを忘れた場合は、「パスワードを忘れた」をクリックしてパスワードをリセットできます。
- パスワードを7回間違えて入力すると、現在のユーザーアカウントが60秒間ロックされます。

「自動ログイン」にチェックを付けると、パスワードを入力せずにログインできます。

第2章 ライブビュー

2.1 GUI 概要

- 画面左上にある「Target Detection」をクリックし、「」または「」を選択して、指定したライブターゲット検出結果を表示します。結果の詳細を確認するには、「View More」をクリックしてください。



注意

- ターゲット検出は、一部のモデルでのみご利用いただけます。
 - ターゲット検出は、HDDがインストールされている場合に有効です。
 -  は、動体検知、ラインクロス検知、侵入検知、顔キャプチャに有効です。
-  をクリックして自動切り替えの開始/停止を行います。画面は自動的に次の画面に切り替わります。
 - 「」/「」/「」/「」/「」/「」/「」/「」/「」/「」/「」をクリックしてライブビューウィンドウの分割を選択します。「」をクリックしてフルスクリーンモードに入ります。
 - カメラをダブルクリックすると、シングルスクリーンモードで表示されます。もう一度ダブルクリックすると、シングルスクリーンモードが終了します。モードから退出します。
 - カメラライブビュー画面を、その画面から目的の画面までドラッグして変更します。
 - 上下にスクロールして、前の画面/次の画面に移動します。
 - カメラにカーソルを置くと、ショートカットメニューが表示されます。



図2-1 ショートカットメニュー

表 2-1 ショートカットメニューの説明

ボタン	説明
	過去5分間に録画したビデオの再生を開始します。
	デジタルズーム。ズームインの倍率を調整し、表示したい領域を表示できます。
	クリックしてPTZ制御モードに入ります。
	ライブビューのオーディオをオン/オフにします。
	ビデオストリームを切り替えます。

- ライブビューインターフェースでは、画面右上に各カメラの録画およびアラームの状態を示すアイコンが表示されます。

表 2-2 ライブビューアイコンの説明

アイコン	説明
	アラーム（通常イベントおよびスマートイベント）。
	録画中。

- マウスを右クリックしてショートカットメニューを表示します。

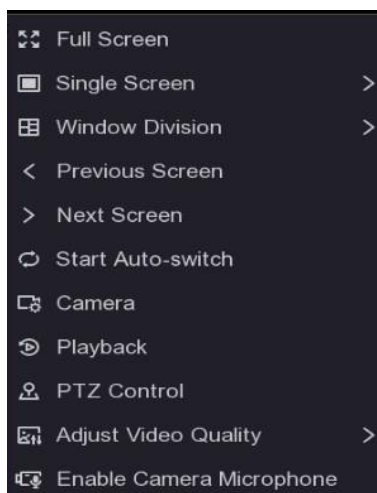


図2-2 右クリックショートカットメニュー

2.1.1 ウィンドウ分割のカスタマイズ

必要に応じてウィンドウの分割をカスタマイズすることもできます。

手順

1. ライブビューページを開きます。
2. Go to Live View → ウィンドウ分割 → shezhi をクリックして、ウィンドウ分割パネルを開きます。
3. 「名前を編集」をクリックしてレイアウトの名前を編集します。
4. オプション：マウスをドラッグして隣接するウィンドウを選択し、[結合] をクリックして、それらを 1 つのウィンドウとして結合します。
5. オプション：結合したウィンドウを選択し、[復元] をクリックして結合を解除します。
6. 「保存」をクリックします。
7. オプション：分割モードをクリックするか、表示ウィンドウにドラッグして、表示モードを適用します。

2.2 PTZ コントロール

2.2.1 PTZ パラメーターの設定

PTZ カメラを制御する前に、PTZ パラメータを設定する必要があります。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの「」をクリックします。



図2-3 PTZ設定

2. 「」をクリックします。
3. PTZ カメラのパラメータを設定します。

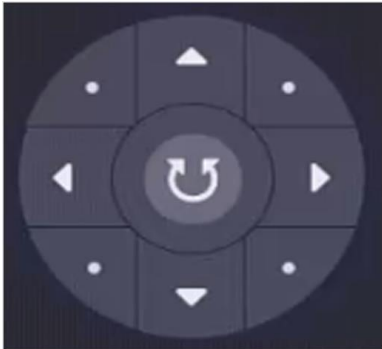


すべてのパラメータは、PTZ カメラと同じである必要があります。

4. OK をクリックします。

2.2.2 PTZ コントロール パネルの概要

表 2-3 PTZ パネルの説明

アイコン	説明
	方向ボタンと自動ループボタン。
	PTZの移動速度。
	ズーム -/+.
	フォーカス -/+.
	絞り -/+.

2.2.3 プリセットのカスタマイズ

イベントが発生したときに PTZ カメラが向く位置を事前に設定します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの  をクリックします。
2. プリセットリストから希望のプリセットを選択します。
3. 方向ボタンを使用して、カメラを必要な位置に移動します。必要に応じて、ズームとフォーカスを調整します。
4.  「」をクリックします。

次にやるべきこと

プリセットリストでプリセットをダブルクリックして呼び出します。

2.2.4 パトロールをカスタマイズします。

パトロールとは、指定した順序で一連のプリセットで構成される経路のことです。複数のプリセットを監視するためのダイナミックなライブ画像を提供します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、 ショートカットメニューをクリックします。
2. 「パトロール」をクリックします。
3. 希望するパトロールの  をクリックします。

4. 「」をクリックします。
5. キーポイントの番号、1つのキーポイントでの滞在時間、パトロールの速度などのキーポイントのパラメータを設定します。キーポイントはプリセットに対応しています。プリセット番号は、パトロールを循環する際にPTZが追従する順序を決定します。**滞在時間**は、対応するキーポイントでの滞在時間を指します。**速度**は、PTZが1つのキーポイントから次のキーポイントに移動する速度を定義します。

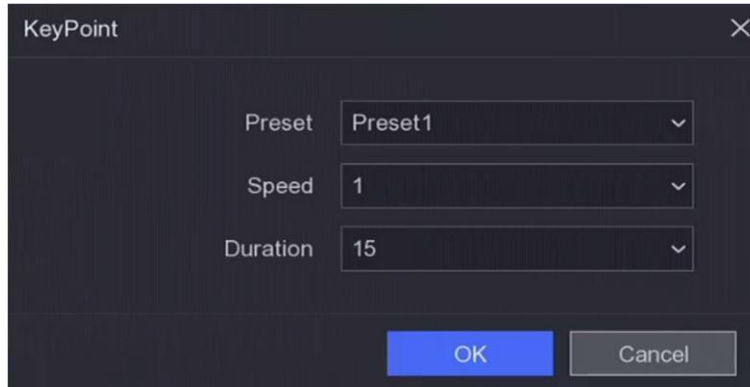


図2-4 パトロール設定

6. **OK**をクリックします。
 7. **保存**をクリック
- します。次に何を

すべきか



パトロールを選択し、 をクリックして呼び出します。PTZ カメラは、あらかじめ定義されたパトロール経路に従って移動します。

パスに従って移動します。

2.2.5 パターンのカスタマイズ

パターンは、特定の位置での移動経路と滞留時間を記録します。パターンを呼び出すと、PTZ カメラは記録された経路に従って移動します。

手順

1. ライブビューでカメラをプレビューし、ショートカットメニューの  をクリックします。
2. 「パターン」をクリックします。
3. パターンを選択します。
4. 「」をクリックします。
5. 方向ボタンを使用して、カメラを必要な位置に移動します。必要に応じて、ズームとフォーカスを調整します。
6.  をクリックします。以前の PTZ カメラの移動経路がパターンとして記録されます。

次にやるべきこと

パターンを選択し、 をクリックして呼び出します。PTZ カメラは、あらかじめ定義されたパターンに従って移動します。

第3章 再生

3.1 GUI 概要

Go to Playback をクリックします。

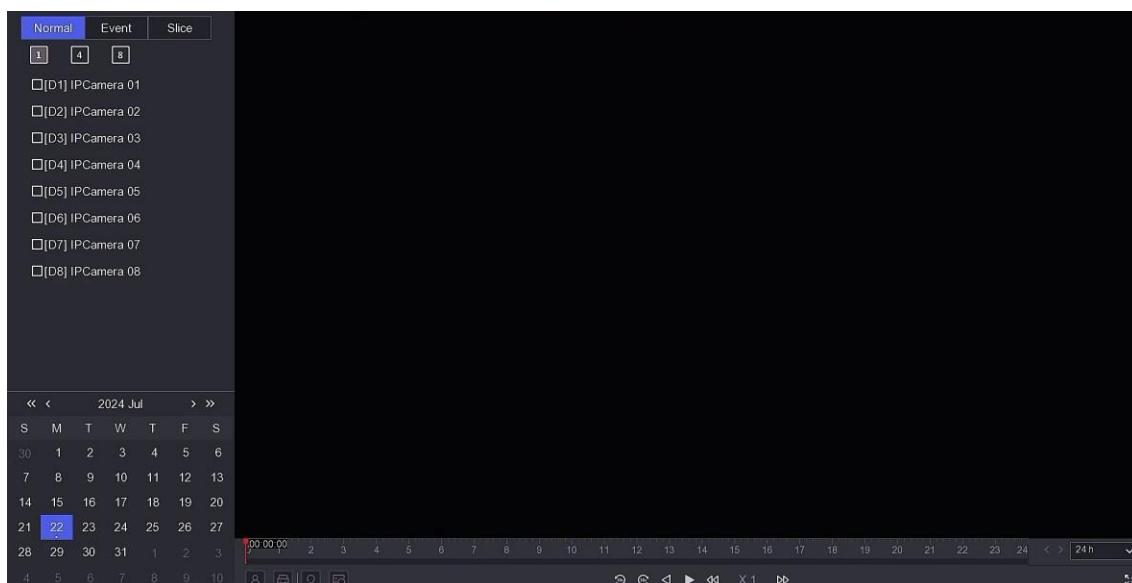


図3-1 再生

表 3-1 再生インターフェース 説明

ボタン	操作	ボタン	操作
	30秒逆再生。		30秒前進。
	全画面表示。		再生開始。
	速度を遅くする。		速度を上げる。
	速度。		再生を逆再生します。

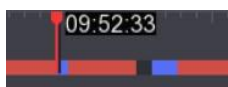


図3-2 タイムライン

- タイムライン上にカーソルを置き、タイムラインをドラッグして特定の時刻に移動します。
- 青いバーでマークされた期間にはビデオが含まれています。赤いバーは、その期間内のビデオがイベントビデオであることを示しています。
- 上下にスクロールすると、タイムラインが拡大/縮小されます。

3.2 通常再生

通常のビデオを再生します。

手順

1. Go to Playback
2. カメラリストからカメラを選択します。
3. 再生する日付をカレンダーから選択します。



注意

カレンダーの日付の隅にある青い三角形は、利用可能なビデオがあることを示しています。たとえば、**10** はビデオが利用可能であることを意味します。**11** はビデオがないことを意味します。

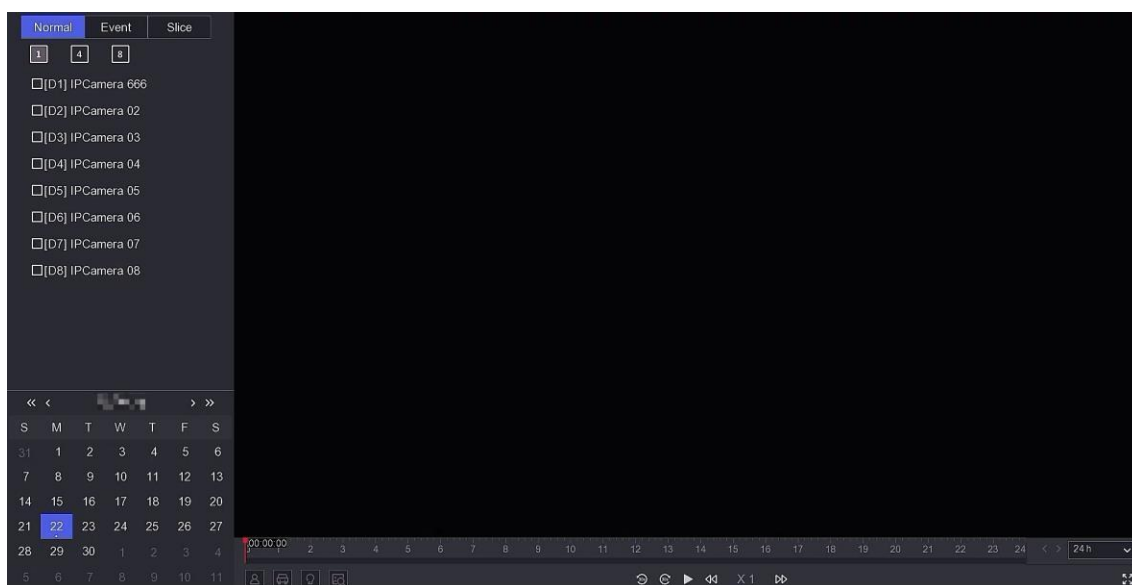


図3-3 再生

4. オプション: 再生ウィンドウにカーソルを置くと、コントロールバーが表示されます。

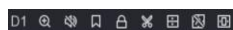


図 3-4 コントロールバー表 3-2

ボタンの説明

ボタン	説明	ボタン	説明
	ウィンドウ分割、チャンネルをグループ化し再生します。		再生画像のズームイン/ズームアウト。

ボタン	説明	ボタン	説明
	オーディオのオン/オフを切り替えます。		タグを追加します。
	ビデオをロック/ロック解除します。		ビデオをクリップします。
	人物が映っているビデオを表示する。		車両を含むビデオを表示する。
通常のビデオをスキップ	もし、以下のリンクをクリックした場合  /  をクリックすると、再生中に、そのデバイスは他のビデオを非表示にし、人物や車両が映っているビデオのみを表示して再生します。		表示ルールフレームとターゲットフレームを表示します。
	画面サイズに合わせて画像表示効果を調整します。	スマート検索 ()	クリックした場合  /  をクリックした場合、検出領域をクリックして設定し、この領域内の人物/車両情報を迅速に検索できます。
	ボタンをクリックすると、ターゲットが画面に表示されます。ターゲットをクリックすると、そのターゲットを含む画像が検索されます。画像をクリックすると、その瞬間の前後のビデオが再生されます。		マルチウィンドウ分割再生。

- カメラで**デュアル VCA** が有効になっていることを確認してください。これは、カメラのウェブブラウザのインターフェースで、**[設定]→ ビデオ/オーディオ→ ストリーム**に情報を表示することで有効にできます。
- ビデオレコーダーで **VCA データの保存**が有効になっていることを確認してください。これは、**[設定]、[ビデオ [ストリーム]、[ストリーム]、[ストリーム]、[ストリーム]、[スト → 記録 → 詳細設定]**

1. **[再生]** に移動します。
2. イベントをクリックします。
3. カメラを選択します。
4. 再生ウィンドウにカーソルを移動してコントロールバーを表示します。

5.  をクリックして、ラインクロス検知、侵入検知、動体検知の検知エリアを設定します。
6. クリッ  をクリックしてビデオを検索します。検出ルール of 要件を満たすビデオは、赤でマークされます。
7. クリッ  をクリックして再生戦略を設定します。

通常のビデオをスキップ

有効にすると、スマート情報のないビデオは再生されません。

通常のビデオ

通常のビデオの再生速度を設定します。このオプションは、[通常のビデオを再生しない] がオフの場合にのみ有効です。

スマート/カスタムビデオの再生速度

スマート情報を使用して、ビデオの再生速度を設定します。このオプションは、[通常のビデオを再生しない] が有効になっている場合にのみ有効です。

3.4 スライス再生

ビデオをスライスに分割して再生します。

手順

1. Go to Playback→ **Slice Playback**.



図3-5 スライス再生

2. カメラリストからカメラを選択します。
3. カレンダーから再生する月、日、時間を選択します。



カレンダーの日付の隅にある青い三角形は、利用可能なビデオがあることを示しています。たとえば、**10** はビデオが利用可能であることを意味します。**11** はビデオがないことを意味します。

検索されたビデオは、再生用に 1 時間ごとに分割されます。

4. オプション: 1 時間のセグメントを選択し、 をクリックすると、1 分間のセグメントに分割して再生することができます。
5. スライスをクリックすると、右側にビデオが再生されます。

表 3-4 スライス再生アイコンの説明

アイコン	名前	説明
	AcuSearch	ボタンをクリックすると、ターゲットが画面に表示されます。ターゲットをクリックすると、そのターゲットを含む画像が検索されます。画像をクリックすると、その瞬間前後のビデオが再生されます。
	ビデオのエクスポート	ビデオをエクスポートします。
	VCA 情報表示	ルールフレームとターゲットフレームを表示します。  注 前提条件: チャンネルが追加され、プレビュー可能になっている。カメラまたはデバイスで VCA 設定が完了している。
	自己適応解像度を有効にする	画面サイズに応じて画像表示効果を調整します。
	オーディオコントロール	オーディオのオン/オフを切り替えたり、音量を調整したりできます。

3.5 クリップのバックアップ

再生中にビデオをクリップすることができます。ビデオクリップは、バックアップデバイス（USB フラッシュドライブなど）にエクスポートすることができます。

開始前に

ビデオレコーダーにバックアップデバイスを接続してください。

手順

1. 再生を開始します。詳細については「通常再生」を参照してください。
2.  「」をクリックします。

3. 開始時間と終了時間を設定します。時間バー上のカーソルを調整して、期間を設定することもできます。
4. **保存**をクリックします。
5. バックアップデバイスとフォルダーを選択します。
6. **「保存」**をクリックして、クリップをバックアップデバイスにエクスポートします。

章4 ファイル検索

手順

1. Go をクリックします。
2. 検索タイプ（ビデオ、画像、イベントなど）を選択します。
3. 検索条件を設定します。
4. オプション：クイックバックアップをクリックして、ビデオをデバイスにすばやくエクスポートします。



クイックバックアップは、ビデオおよびイベント検索で使用できます。

5. 検索をクリックしてください。
 - クリック  をクリックしてビデオを再生します。
 - クリック  をクリックしてファイルをロックします。ロックされたファイルは上書きされません。
 - ファイルを選択し、エクスポートをクリックしてファイルをバックアップデバイスにエクスポートします。

4.1 顔写真で人物を検索

提供された顔写真で人物の記録を検索できます。

開始前に

顔写真比較機能が有効になっていることを確認してください。

手順

1. → Human に移動します。

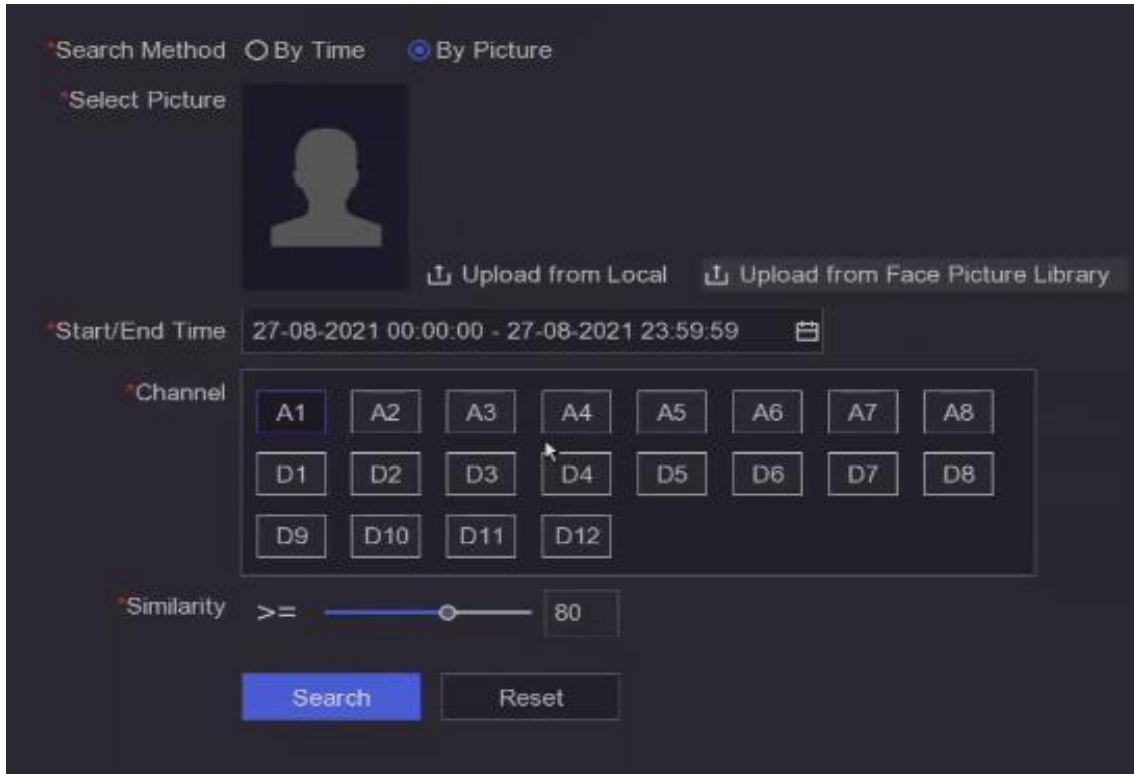


図4-1 顔写真で人間を検索

2. 検索方法を「画像で」に設定します。
3. 顔写真をアップロードします。
 - 「ローカルからアップロード」をクリックして、USB フラッシュドライブなどのローカルストレージデバイスから顔写真をアップロードします。
 - 「顔写真ライブラリからアップロード」をクリックして、顔写真ライブラリから顔写真をアップロードします。

注意

- JPGおよびJPEG形式のみがサポートされています。
- 各画像のサイズは1MB未満である必要があります。
- 画像の解像度は、80×80 から 1920×1080 の間で設定してください。

4. 開始時間と終了時間を設定してください。
5. 類似度を設定し

てください。類

似度

類似度値は0から100の範囲で表されます。デバイスは、検出された顔画像とライブラリ内の顔画像の類似性を分析します。類似性が閾値に達すると、顔画像の比較が成功し、顔画像が認識されます。

6. 検索をクリックします。

4.2 クイックバックアップ

開始前に

ビデオレコーダーにバックアップデバイスを接続します。

手順

1. Go] に移動します。
2. 検索条件を設定します。
3. クイックエクスポートをクリックします。
4. バックアップデバイスとパスを選択します。
5. エクスポートを開始するには「OK」をクリックします。

第5章 設定（簡易モード）

イージーモードには、基本的な設定が含まれています。**設定**に移動し、**イージーモード**をクリックしてください。

5.1 システム設定

5.1.1 全般

出力解像度、システム時刻などを設定できます。

手順

1. **設定** → 「→」 → 「システム」 → 「→」 → 「全般」に移動します。
2. パラメーターを希望の設定に設定します。

ウィザード

デバイスが起動すると、ウィザードがポップアップ表示されます。

パスワード不要のログイン

パスワードなしでログインできます。

NTP タイムシンクロナイズ

ネットワークタイムプロトコル（NTP）は、時刻を同期するためのネットワークプロトコルです。デバイスは、NTP（ネットワークタイムプロトコル）サーバーに接続して時刻を同期することができます。

間隔 (分)

NTPサーバーとの2回の時刻同期間の時間間隔。

NTPサーバー

NTPサーバーのIPアドレス。

3. **適用**をクリックします。

5.1.2 ユーザー

ユーザーを追加

デフォルトのアカウントは「Administrator」です。管理者ユーザーのユーザー名は「admin」です。管理者はユーザーを追加、削除、編集する権限を有します。ゲストユーザーはライブ表示、再生、ログ検索の権限のみを有します。

手順

1. **[Configuration]** (設定) に移動し、**[→] (システム) [→] (ユーザー)** を選択します。
2. 「**追加**」をクリックし、管理者パスワードを確認します。

3. ユーザー名を入力します。
4. ユーザーレベルを選択します。
5. 「パスワードの作成」と「確認」に同じパスワードを入力します。

警告

製品のセキュリティを強化するため、お客様ご自身で強力なパスワードを設定することを強くお勧めします。8～16文字。パスワードには、ユーザー名、123、admin、4桁以上の連続した昇順または降順の数字、4文字以上の連続した同じ文字を含めないでください。数字、大文字、小文字、特殊文字のうち、少なくとも2種類以上を使用してください。危険なパスワードは使用できません。特にセキュリティの高いシステムでは、パスワードを定期的リセットすることをお勧めします。パスワードを毎月または毎週リセットすることで、製品をより確実に保護することができます。

6. ユーザー権限を設定してください。
7. OKをクリックしてください。
- ユーザーを編集/削除するには、/をクリックしてください。

パスワードリセット用メールアドレスを設定してください。

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、デバイスはパスワードリセット用の検証コードを含むメールをメールアドレスに送信します。

手順

1. 「Configuration」→「→」→「System」→「→」→「User」に移動します。
2. パスワードリセットメールをクリックします。
3. 認証のため、管理者のパスワードを入力してください。
4. メールアドレスを入力します。
5. OKをクリックします。

パスワードのリセット

ログインパターンとパスワードを忘れた場合、パスワードをリセットできます。

手順

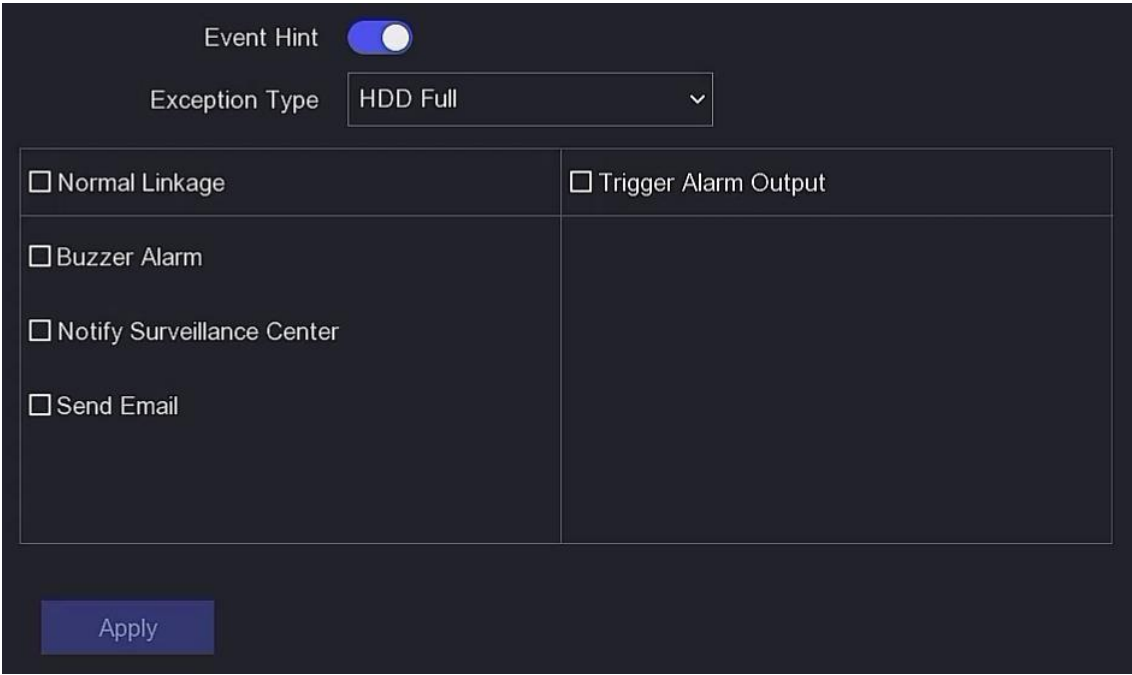
1. パスワードログインインターフェースで「パスワードを忘れた場合」をクリックします。
2. プライバシーポリシーに同意する場合は「次へ」をクリックし、QRコードをスキャンして内容を確認できます。
3. ウィザードの指示に従ってパスワードをリセットしてください。

5.1.3 例外

アラームセンターで例外イベントのヒントを受け取り、例外のリンク方法を設定することができます。

手順

1. **[Configuration]**、**[→]**、**[System]**、**[→]**、**[Exception]** の順に選択します。
2. オプション： イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターにヒントが表示されます。
 - 1) イベントヒントを有効にします。
 - 2) ローカルメニューの右上にある「」をクリックして、アラームセンターに入ります。
 - 3) イベントの種類を選択します。
 - 4) **[設定]** をクリックして、ヒントを表示するイベントを選択します。
3. **例外タイプ**を設定します。
4. 例外のリンク方法として、**[通常]**を選択します。



☐ Normal Linkage	☐ Trigger Alarm Output
☐ Buzzer Alarm	
☐ Notify Surveillance Center	
☐ Send Email	

Apply

図5-1 例外

5. 「適用」をクリックします。

5.2 ネットワーク構成

5.2.1 全般

ネットワーク経由でデバイスを操作する前に、ネットワーク設定を適切に構成してください。

手順

1. **[Configuration]**、**[→]**、**[Network]**、**[→]**、**[General]** の順に選択します。

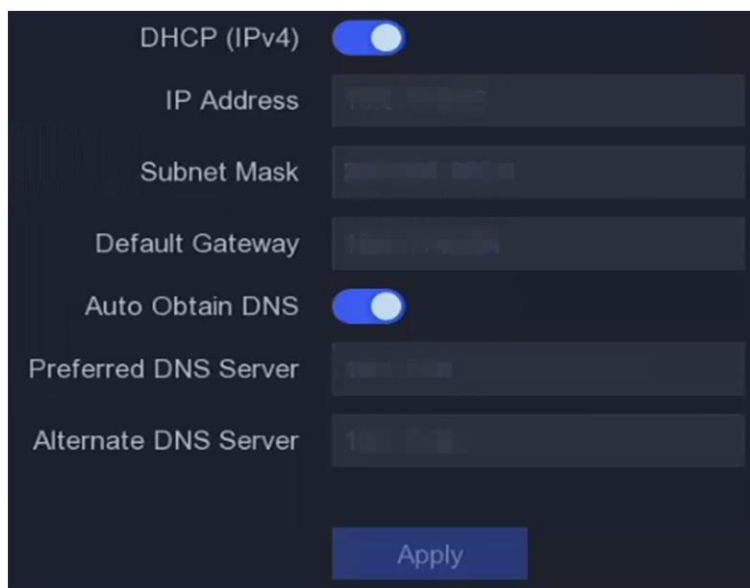


図 5-2 ネットワーク

2. ネットワークパラメータを設定します。

DHCP

DHCP サーバーが利用可能な場合は、**DHCP** を有効にして、そのサーバーから IP アドレスおよびその他のネットワーク設定を自動的に取得することができます。

DNSの自動取得

DHCP が有効になっている場合、**自動取得DNS** を有効にすると、**優先DNS** サーバーと **代替DNS** サーバーを自動的に取得できます。

3. **適用** をクリックします。

5.2.2 Hik-Connect

Hik-Connect は、接続されたデバイスにアクセスして管理するための携帯電話アプリケーションおよびプラットフォームサービスを提供し、ビデオセキュリティシステムへの便利なりモートアクセスを可能にします。

手順

1. **[設定]**→**[ネットワーク]**→**[Hik-Connect]** に移動します。

2. 「有効にする」をオンにします。サービス利用規約がポップアップ表示されます。
 - 1) サービス利用規約とプライバシーポリシーをご確認ください。
 - 2) 「サービス利用規約とプライバシーポリシーに同意します」にチェックを入れます。サービス利用規約とプライバシーポリシーに同意する場合。
 - 3) 「OK」をクリックしてください。
3. 「」をクリックして検証コードを設定します。
4. オプション：[Platform Time Sync] を有効にすると、デバイスは NTP サーバーではなくプラットフォームサーバーと時刻を同期します。
5. オプション：ストリーム暗号化を有効にします。この機能を有効にすると、リモートアクセスおよびライブビューで確認コードを入力する必要があります。
6. オプション：サーバー IP を編集します。
7. オプション：サブストリームの自己適応ビットレートを有効にします。ネットワーク環境が悪い場合、デバイスはビデオのビットレートを自動的に調整して、再生の滑らかさを確保します。
8. デバイスを Hik-Connect アカウントに連携してください。
 - 1) スマートフォンで QR コードをスキャンし、Hik-Connect アプリをダウンロードします。
<https://appstore.hikvision.com> または以下の QR コードからダウンロードすることもできます。詳細については、Hik-Connect モバイルクライアントのユーザーマニュアルを参照してください。



図5-3 Hik-Connectのダウンロード

- 2) Hik-Connectを使用してデバイスのQRコードをスキャンし、デバイスを連携させてください。



注意

- デバイスが既にアカウントと紐付けられている場合、現在のアカウントから解除するには「解除」をクリックしてください。
-  の左上にあるQRコードを使用して、Hik-Connectをダウンロードし、デバイスを連携させることができます。

9. 「適用」をクリックしてください。結果

- デバイスがHik-Connectプラットフォームに接続されている場合、接続状態は「オンライン」になります。
- デバイスが Hik-Connect アカウントに紐付けられている場合、[Bind Status] は「対応」になります。

次にやるべきこと

Hik-Connect からビデオレコーダーにアクセスできます。

5.2.3 メール

イベント通知を受信するメールアカウントを設定します。

開始前に

- メール用にSMTPサービスが利用可能であることを確認してください。
- ネットワークパラメータを設定します。詳細については、[\[全般\]](#)を参照してください。

手順

1. **[Configuration] (設定)** に移動し、**[→] (ネットワーク)** をクリックし、**[→] (電子メール)** をクリック

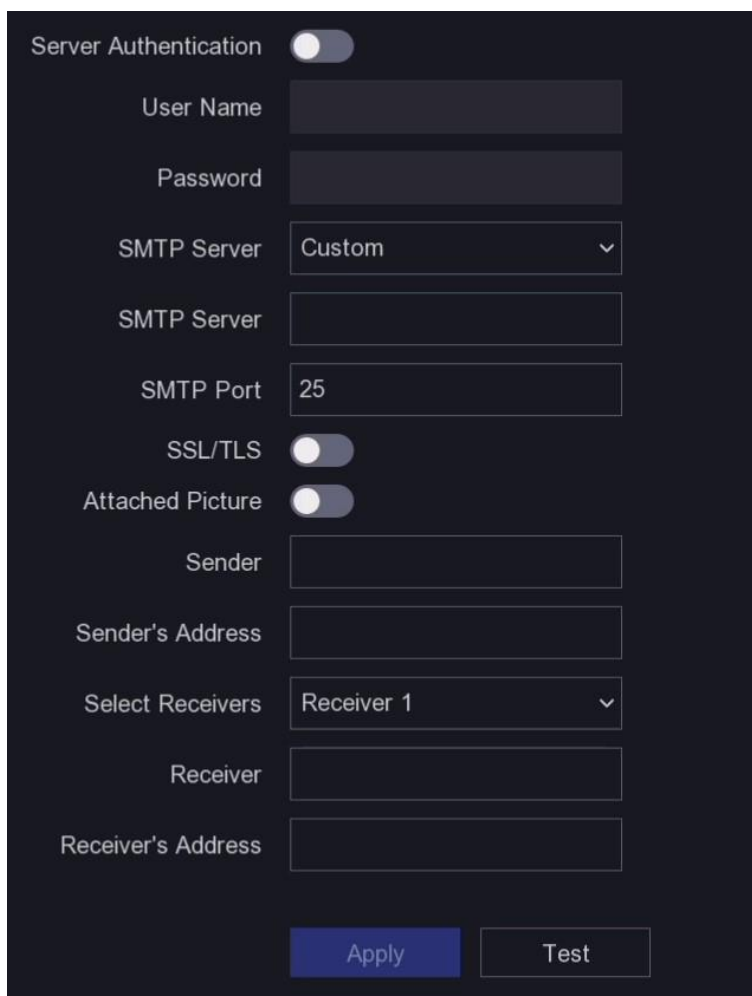


図5-4 メール

2. メールパラメーターを設定します

サーバー認証

サーバー認証機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。

ユーザー名

SMTPサーバー認証用のメール送信者のユーザーアカウント。

パスワード

SMTPサーバー認証用のメール送信者のパスワードです。

SMTP サーバー/SMTP ポート

SMTPサーバーを選択すると、そのアドレスとポートが自動的に表示されます。必要に応じて編集することも可能です。

SSL/TLS

(オプション) SMTP サーバーで SSL/TLS が必要な場合は、SSL/TLS を有効にします。

添付画像

(オプション) イベントがトリガーされた場合、画像を電子メールの添付ファイルとして送信します。

送信者

送信者の名前。

送信者のアドレス

送信者のメールアドレス。

受信者を選択

受信者を選択します。最大 3 人の受信者を選択できます。

受信者

受信者の名前。

受信者のアドレス

受信者のメールアドレス。



ネットワークカメラの場合、イベント画像は E メール の添付ファイルとして直接送信されます。1 台のネットワークカメラは 1 枚の画像しか送信しません。

3. オプション: **[テスト]** をクリックして、テストメールを送信します。

4. **[適用]** をクリックします。

5.3 カメラ

5.3.1 ネットワークカメラ

信号入力の設定

一部のデジタルビデオレコーダーモデルでは、アナログおよび IP 信号入力タイプを設定できます。

手順

1. **[Configuration]** (設定) に移動します。→ **(カメラ)→(アナログ)→(アナログ)** を選択します。
2. 各チャンネルの信号入力タイプを **HD/CVBS** または **IP** から選択します。

HD/CVBS

Turbo HD、AHD、HDCVI、CVBS の 4 種類のアナログ信号入力を、チャンネルごとに任意の組み合わせで接続できます。

IP

このチャンネルには、ネットワークカメラを接続することができます。

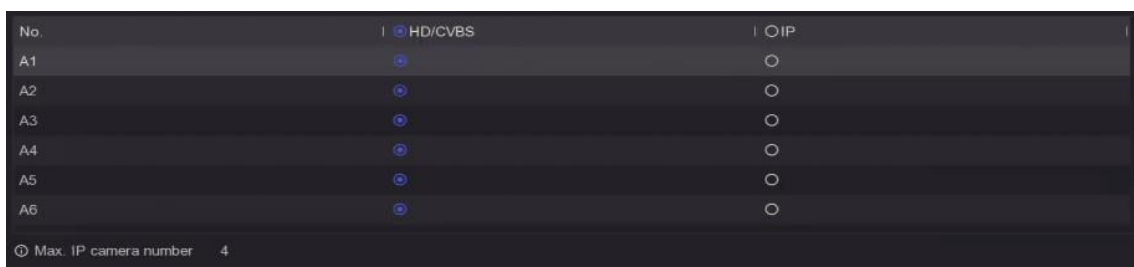


図5-5 信号入力タイプ

3. **適用** をクリックします。最大ネットワークカメラ接続可能台数は、**最大IPカメラ台数**で確認できます。

デバイスパスワードでネットワークカメラを追加

ビデオレコーダーと同じパスワードのネットワークカメラを追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認してください。詳細については、[「全般」](#)を参照してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

手順

1. Go to Configuration → **カメラ** → **IP Camera**. ビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあるオンラインカメラが、**オンラインデバイスリスト**に表示されます。
2. 目的のネットワークカメラを選択します。
3. **+** をクリックして、カメラを追加します。



カメラが非アクティブの場合、デバイスは、デバイスアクティベーション時に設定したパスワードを使用して、カメラを自動的にアクティブにします。

4. オプション：ネットワークカメラが DVR と同じネットワークセグメントにない場合、ONVIF プロトコルをサポートしている場合は、**[詳細検索]** をクリックし、カメラの IP アドレスの最初の 3 オクテットを入力して、カメラを追加します。

ネットワークカメラを手動で追加する

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが有効になっていることを確認してください。

手順

1. **[Configuration]** (設定) に移動します。→ **(カメラ)→(IP カメラ)** を選択します。
 2. **追加されたデバイス一覧**から「**+**」をクリックします。
 3. IP アドレス、プロトコル、管理ポートなど、ネットワークカメラのパラメータを設定します。
 4. オプション：**カメラ名**をダブルクリックして、名前を編集します。
-



カメラ名は、カメラのステータスがオンラインの場合にのみ編集できます。

5. オプション：**[カメラ起動パスワードを使用]** を有効にして、デバイスのパスワードを使用してネットワークカメラを追加します。
6. オプション：**[追加]** をクリックして、別のネットワークカメラを追加します。
7. 「**追加**」をクリックします。

Add IP Camera (Custom)

Refresh

No.	IP Address	Status	Protocol	Management Port	Device
-----	------------	--------	----------	-----------------	--------

IP Camera Address

Channel No. 2

Protocol HIKVISION

Management Port 8000

Transfer Protocol Auto

User Name admin

Camera Password

Use Camera Activation ...

Add More Add Cancel

図 5-6 ネットワークカメラの追加

接続済みネットワークカメラの編集

追加したネットワークカメラの IP アドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. **[Configuration]** (設定) に移動し、**[→] (ネットワークカメラ)** をクリックし、**[→] (IP カメラ)** をクリック
2.  をクリックして、選択したカメラを編集します。

チャンネルポート

接続した機器が複数のチャンネルを持つエンコーディング機器の場合は、チャンネルポート番号を選択して接続するチャンネルを選択できます。

3. **OK** をクリックします。

5.3.2 OSD設定

日付形式、カメラ名など、カメラの OSD (オンスクリーンディスプレイ) 設定を構成します。

手順

1. Go to Configuration→ Camera→ **OSD**
2. カメラを選択します。

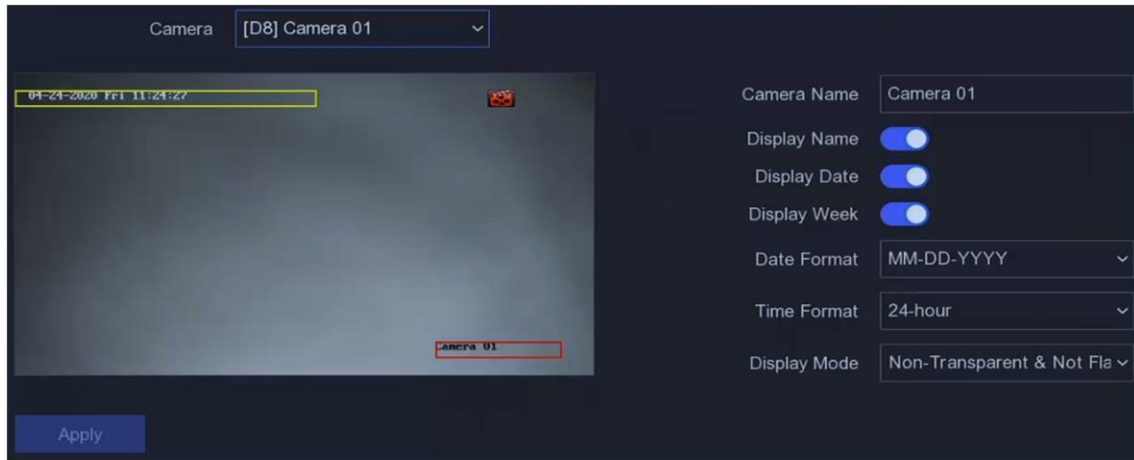


図5-7 OSD

3. パラメーターを任意の設定に設定します。
4. プレビューウィンドウのテキストフレームをドラッグして OSD の位置を調整します。
5. 適用をクリックします。

5.3.3 動体検知

動体検知機能により、ビデオレコーダーは監視エリア内の動く物体を検知し、アラームを鳴らします。

手順

1. [設定]→[カメラ]→[動体検知] に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 「有効」にチェックを入れます。
4. モーション領域を設定：領域を描画またはクリアするには「領域を描画」または「クリア」をクリックします。



注意

操作方法はモデルによって異なる場合があります。

5. **感度**を調整します。感度により、動きがアラームをトリガーする感度を調整できます。値が高いほど、動きに敏感に反応します。
6. 分析モードを**AI**または**PIR**に設定し

ます。**AI**

モーションイベントは、お使いのデバイスによって分析されます。

PIR

モーションイベントは、特定のアナログ PIR カメラによって分析されます。

7. オプション：**人間**または**車両を検出対象**として設定し、人間または車両によってトリガーされなかったアラームを無視します。
8. 武装スケジュールを設定します。詳細については、[「武装スケジュールの設定」](#)を参照してください。
9. リンク方法を設定します。詳細については、[「アラームのリンク設定」](#)を参照してください。

10. 適用をクリックします。

5.4 アラームのリンク動作の設定

アラームまたは例外が発生すると、アラームリンクアクションが起動します。

手順

1. リンク動作をクリックします。
2. 通常リンク動作、アラーム出力リンク動作、トリガーチャンネルなどを設定します。

アラームポップアップウィンドウ

アラームがトリガされると、ローカルモニターにアラーム発生チャンネルの画像がポップアップ表示されます。トリガチャンネルでアラーム発生チャンネルを選択しておく必要があります。

ブザーアラーム

アラームがトリガーされると、ブザーが鳴ります。

監視センターへの通知

アラームがトリガーされると、デバイスはリモートクライアントソフトウェアに例外またはアラーム信号を送信します。

メール送信

アラームが作動すると、アラーム情報を記載した電子メールを送信します。

トリガーチャンネル

選択したチャンネルが録画を開始します。チャンネルの録画スケジュールを設定するには、**設定→録画→スケジュール**で設定する必要があります。

3. 適用をクリックします。

5.5 アームスケジュールを設定

手順

1. 「Arming Schedule」を選択します。
2. 1週間の1日を選択し、時間枠を設定します。1日に最大8つの時間枠を設定できます。



注意

時間枠は重複または重ならないように設定してください。

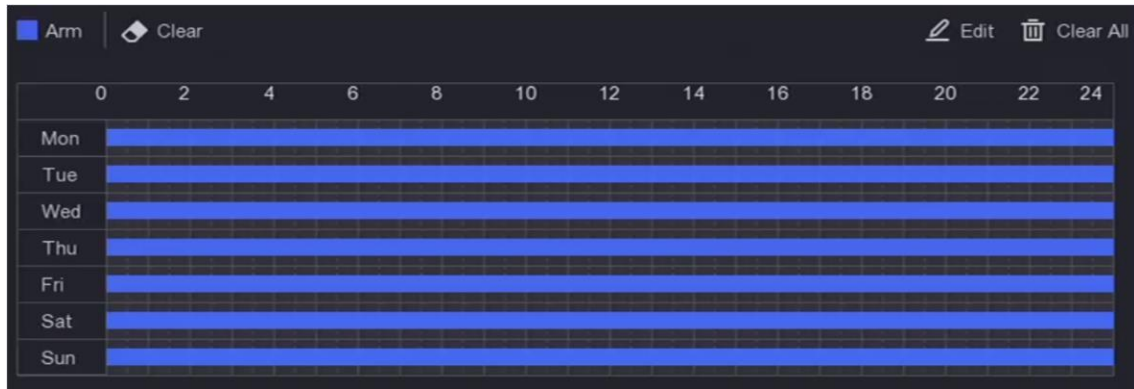


図5-8 警報設定スケジュールを設定

3. 適用をクリックします。

5.6 記録管理

5.6.1 ストレージデバイス

HDDの初期化

新しく取り付けたハードディスクドライブ (HDD) は、ビデオや情報を保存するために使用する前に初期化する必要があります。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも 1 台の HDD をインストールしてください。詳細な手順については、クイックスタートガイドを参照してください。

手順

1. Go to Configuration→Record→Storage.
2. HDDを選択します。
3. 「初期化」をクリックします。

データベースの修復

データベースにエラーがあるHDDを修復します。専門の技術サポートの支援を受けて操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当てた NAS または IP SAN ディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワーク HDD として使用することができます。

手順

1. [Configuration] (設定) に移動し、[→](ネットワーク)を選択します。[→](ストレージ)を選択
2. 「追加」をクリックします。
3. NetHDDを選択します。

4. タイプを**NAS**または**IP SAN**に設定します。
5. **NetHDD** の IP アドレスを入力します。
6. 「」をクリックして利用可能なディスクを検索します。

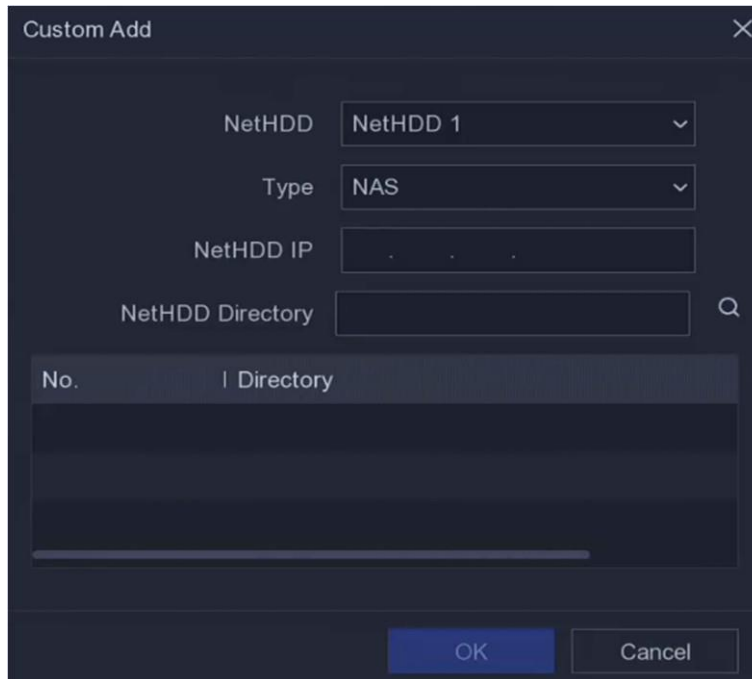


図5-9 NetHDDの追加

7. リストから**NAS**ディスクを選択するか、**NetHDDディレクトリ**に手動でディレクトリを入力します。
8. **[OK]**をクリックします。追加された **NetHDD** がストレージデバイス リストに表示されます。

5.6.2 録画スケジュールを設定

ビデオレコーダーは、設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. Go to Configuration→Record→ **パラメータ**。
2. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。詳細については、[「録画パラメーターの設定」](#)を参照してください。
3. **設定→記録→スケジュール**に移動します。
4. 記録タイプを「**連続**」に選択します。詳細については「[スケジュールの編集](#)」を参照してください。

イベント録画の設定

動体検知によって録画がトリガーされるように設定できます。

手順

1. [Configuration] (設定) に移動し、[→] (カメラ) をクリックし、[→] (モーション) をクリックします
2. イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするチャンネルを選択します。
3. [設定] の [→] [→] [Record] [Parameter] に移動します。
4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。詳細については、[「録画パラメーターの設定」](#)を参照してください。
5. 設定→録画→スケジュールに移動します。
6. 録画タイプを「イベント」に選択します。詳細については、「[スケジュールの編集](#)」を参照してください。

スケジュールを編集

手順

1. [Configuration] (設定) に移動し、[→] (スケジュール) をクリックします。→ (スケジュール) をクリックします。

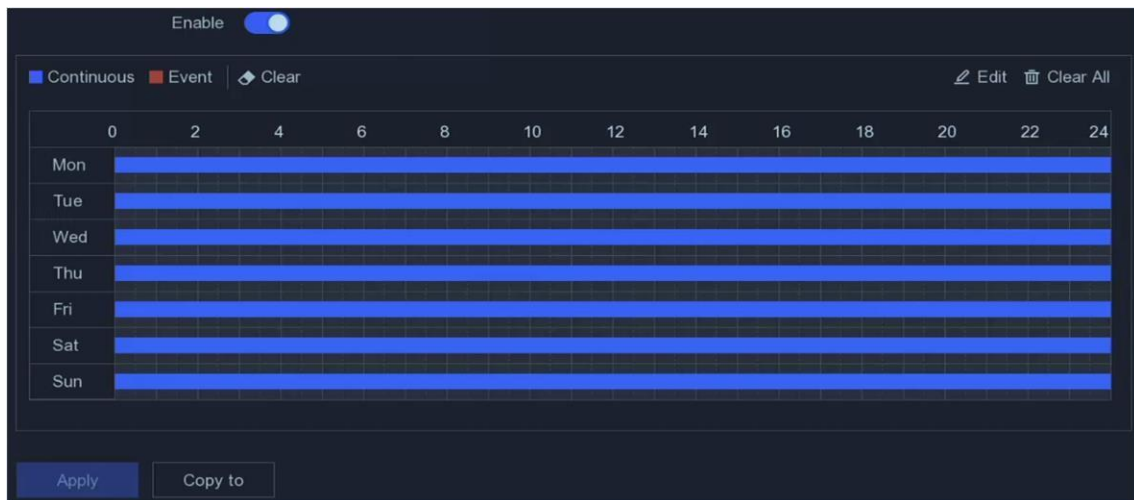


図5-10 記録スケジュール

連続

連続記録。

イベント

イベントによって録画がトリガーされます。

2. カメラ No.
3. 「有効」をオンにします。
4. 録画スケジュールを設定します。

スケジュールを編集

1. **編集** をクリックします。
2. 「平日」で設定する日を選択します。

3. 終日録画スケジュールを設定するには、「終日」にチェックを入れ、スケジュールタイプを選択します。
4. 他のスケジュールを設定するには、「終日」のチェックを外し、開始/終了時間とスケジュールタイプを設定します。



1日につき最大8つの時間帯を設定できます。また、時間帯は重複して設定することはできません。

5. **OK** をクリックして設定を保存し、上レベルのメニューに戻ります。

スケジュールを作成

1. クリックして、スケジュールタイプを「連続」または「イベント」から選択します。
2. テーブル上で、希望する期間にマウスをドラッグして、色付きのバーを描きます。

5. **適用** をクリックします。

5.6.3 記録パラメーターの設定

手順

1. **[Configuration] (構成)** に移動し、**[→] (イベント)** をクリックします。**[→] (イベントパラメータ)**
2. 記録パラメーターを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与えるプライマリストリームのことで、ビデオの画質や画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較すると、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで、より高品質のビデオを提供します。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して実行される2番目のコーデックです。これにより、直接の録画品質を犠牲にすることなく、送信するインターネットの帯域幅を削減することができます。サブストリームは、多くの場合、スマートフォンアプリケーションでライブビデオを表示するためにのみ使用されます。インターネットの速度に制限があるユーザーには、この設定が最も適しています。

解像度

画像解像度は、デジタル画像に表現できる細部の程度を表す尺度です。解像度が高いほど、細部の表現レベルが高くなります。解像度は、ピクセル列の数（幅）とピクセル行の数（高さ）で指定できます（例：1024×768）。

フレームレート

フレームレートとは、1秒間にキャプチャされるフレームの数です。フレームレートが高いほど、ビデオストリームに動きがある場合に有利です。

全体にわたって維持できます。

最大ビットレート

最大ビットレートを設定します。ビットレート（Kbit/sまたはMbit/s）は「速度」と呼ばれることがありますが、実際には時間単位あたりのビット数を表し、距離単位あたりの時間ではありません。

エンコードタイプ

ビデオのエンコードタイプを設定します。

H.265+ を有効にする

H.265+ を有効または無効にします。



注意

解像度、フレームレート、およびビットレートが高いほど、ビデオの品質は向上しますが、必要なインターネット帯域幅も増え、ハードディスクドライブのストレージ容量もより多く使用されます。

3. 適用をクリックします。

章6 設定（エキスパートモード）

[設定] に移動し、左下隅の [エキスパートモード] をクリックします。

6.1 システム設定

6.1.1 全般

基本設定を構成します。

ビデオの画質モード、出力解像度、マウスポインタの速度、ウィザードなどを設定できます。Go to **Configuration**→ **System**→ **General**→ **Basic Settings**で、必要に応じてパラメータを設定し、**Apply**をクリックします。

VGA/HDMI 解像度

出力解像度を選択します。これは、VGA/HDMI ディスプレイの解像度と同じである必要があります。

ビデオ品質モード

デフォルトモードは標準です。

マウスポインター速度

マウスポインタの速度を設定します。4つのレベルから選択できます。

パスワード不要ログイン

パスワードなしでログインできます。

ウィザード

デバイス起動後にウィザードがポップアップします。

地域と時間設定

言語、システム時刻、地域などを設定できます。

詳細設定を構成する

デバイス名、ロック画面の時間、出力モードなどを設定できます。

[設定] に移動します。→ **システム**→ **全般**→ **詳細設定**で、必要に応じてパラメータを設定し、[適用] をクリックします。

デバイス名

ビデオレコーダーの名前を編集します。

デバイス番号

この番号は、リモートコントロール、ネットワークキーボードなどとの接続時に必要です。ビデオレコーダーのシリアル番号を編集します。デバイス番号は 1 から 255 までの範囲で、デフォルト値は 255 です。

画面ロック

ロック画面のタイムアウト時間を設定します。

メニュー出力モード

ローカルメニューを表示するための出力先を選択します。

CVBS出力の明るさ

CVBS出力の明るさを設定します。

出力方式

NTSC または PAL に設定してください。ビデオ入力規格と同じである必要があります。

1080P ライトモード

1080P Lite モードを有効にすると、1080P Lite（リアルタイム）でのエンコード解像度がサポートされます。無効の場合、最大 1080P（非リアルタイム）がサポートされます。

6.1.2 ライブビュー

全般パラメータの設定

出力インターフェース、オーディオのミュートまたはオン、イベント出力インターフェースなどを設定できます。

手順

1. [Configuration] [→] [System] [→] [Live View] [→] [General] に移動します。

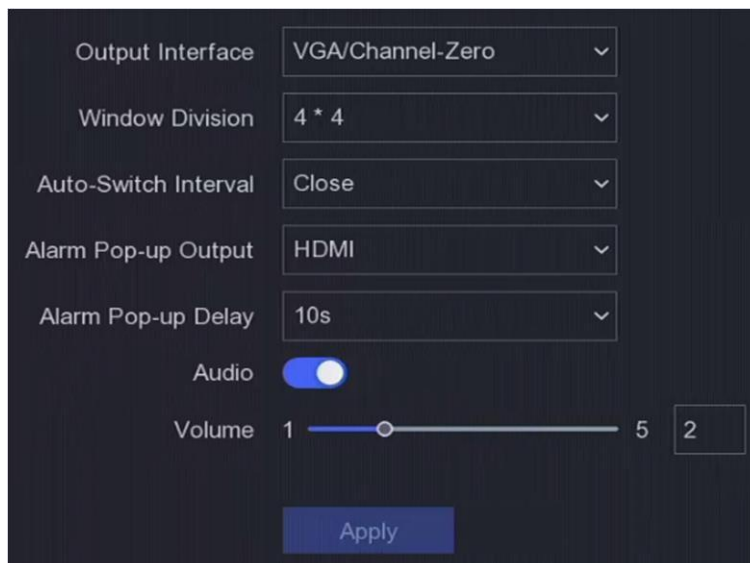


図 6-1 ライブビュー - 全般

2. ライブビューのパラメーターを設定します。

ウィンドウ分割

ライブビューのウィンドウ分割を選択します。

自動切り替え間隔

ライブビューの自動切り替えが有効になっている場合、次のカメラに切り替えるまでのカメラでの表示時間。

アラームポップアップ出力

アラームビデオを表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベントの画像を表示する時間を設定します。

オーディオ

選択したビデオ出力のオーディオ出力をオン/オフにします。

音量

選択したビデオ出力インターフェースのライブビュー、再生、および双方向オーディオの音量を調整します。

3. 適用をクリックします。

ライブビューのレイアウトを設定する

手順

1. **[Configuration] (設定)** に移動します。→ **(システム)** → **(ライブビュー)** → **View (ライブビューの表示)** を選択します。
2. 出力インターフェースを設定します。
3. ウィンドウを選択し、表示したいカメラをリストでダブルクリックします。**+** は、ウィンドウにカメラが表示されないことを意味します。
4. オプション:  または  をクリックして、すべてのカメラのライブビューを開始または停止します。
5. **適用** をクリックします。

チャンネルゼロエンコードの設定

ウェブブラウザまたは CMS (クライアント管理システム) ソフトウェアから、多くのチャンネルをリアルタイムでリモート表示する必要があり、画質に影響を与えずに帯域幅の要件を削減したい場合は、チャンネルゼロエンコーディングを有効にしてください。

手順

1. **[Configuration] (設定)** に移動します。→ **(システム)** → **Live View (ライブビュー)** → **General (全般)**。
2. ビデオ出力インターフェースを **Channel-Zero** に設定します。
3. **[Configuration] (設定)** に移動し、**[→] (システム)** を選択します。→ **(ライブビュー)** を選択し、**[→] (チャンネルゼロ)** を選択します。



図6-2 チャンネル-ゼロ

4. 「有効」をオンにします。
5. フレームレート、最大ビットレートモード、および最大ビットレートを設定します。フレームレートとビットレートが高いほど、必要な帯域幅も大きくなります。
6. 適用をクリックします。

6.1.3 ユーザー

詳細については [ユーザー](#) を参照してください。

6.2 ネットワーク

6.2.1 全般

TCP/IP

ネットワーク経由でビデオレコーダーを操作するには、TCP/IP が正しく設定されている必要があります。

手順

1. Go to 設定 → ネットワーク → 全般 → TCP/IP.
2. ネットワークパラメータを設定します。

動作モード

マルチアドレスモード

2つのNICカードのパラメーターは独立して設定可能です。パラメーター設定時に、NICタイプフィールドでLAN1またはLAN2を選択できます。デフォルトルートとして1つのNICカードを選択できます。その後、システムはエクストラネットに接続され、データはデフォルトルート経由で転送されます。

ネットワーク障害耐性モード

2つのNICカードは同じIPアドレスを使用し、メインNICをLAN1またはLAN2に選択できます。これにより、1つのNICカードに障害が発生した場合、ビデオレコーダーは自動的にもう1つのスタンバイNICカードを有効にして、システム全体の正常な動作を確保します。

ロードバランシングモード

同じIPアドレスを使用し、2つのNICカードが総帯域幅の負荷を分担することで、システムは2つのギガビットネットワーク容量を提供することができます。



動作モードは、一部のモデルでのみ使用可能です。

NICタイプ

NICの種類を任意のものを選択してください。デバイスがWi-Fi Dongle機能に対応している場合、適切なWi-Fi Dongleをインストールした後、そのWi-Fi DongleのNICが選択可能になります。

DHCP

DHCPサーバーが利用可能な場合は、**[DHCPを有効にする]**をオンにして、そのサーバーからIPアドレスおよびその他のネットワーク設定を自動的に取得することができます。

MTU

最大伝送単位 (MTU) は、1つのネットワークトランザクションで通信できる最大のネットワーク層プロトコルデータ単位のサイズです。

デフォルトルート

お好みのルートを選択してください。デバイスがWi-Fi Dongle機能に対応している場合、適切なWi-Fi Dongleをインストール後に、Wi-Fi Dongleのルートが選択可能になります。

DNSの自動取得

DHCPが選択されている場合、**[DNSを自動的に取得]**をチェックすると、優先DNSサーバーと代替DNSサーバーを取得できます。

3. **適用**をクリックします。

DDNS

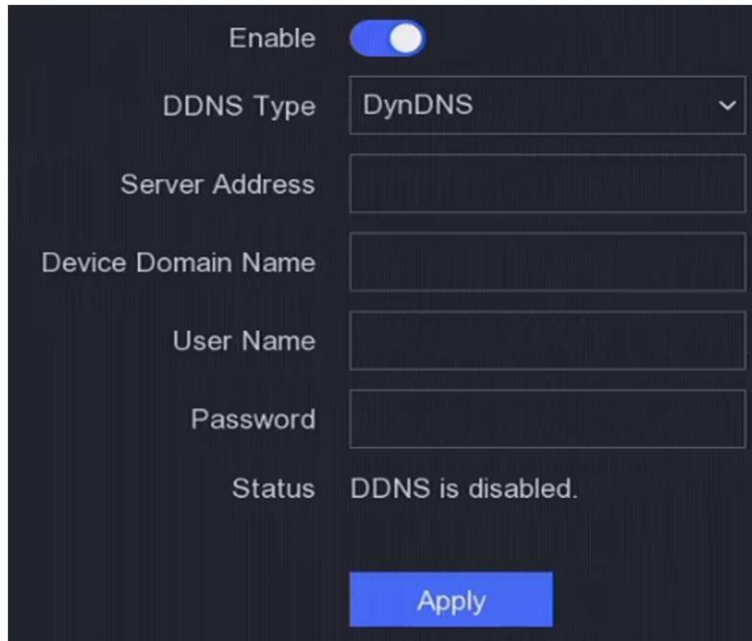
ダイナミックドメインネームサーバー (DDNS) は、動的なユーザーIPアドレスを固定のドメインネームサーバーにマッピングします。

開始前に

DynDNS、PeanutHull、NO-IP サービスをISPに登録してください。

手順

1. **[Configuration] (設定)** に移動します。→ **(ネットワーク)** → **(全般)** → **(DDNS)** に移動します。



Enable ☒

DDNS Type DynDNS ▼

Server Address

Device Domain Name

User Name

Password

Status DDNS is disabled.

Apply

図6-3 DDNS

2. 「有効」をオンにします。
3. DDNS タイプを選択します。
4. サービスアドレス、ドメイン名など、必要なパラメーターを入力します。
5. 適用をクリック

します。次に何を
すべきか

DDNSの状態は「ステータス」で確認できます。

NAT

セグメント間ネットワーク経由のリモートアクセスを実現するためのポートマッピングには、UPnP™ と手動マッピングの2つの方法があります。

開始前に

UPnP™ が必要な場合は、お使いのルーターの UPnP™ 機能を有効にしてください。デバイスのネットワーク動作モードがマルチアドレスの場合、デフォルトのデバイスルートは、ルーターの LAN IP アドレスと同じネットワークセグメントにある必要があります。

手順

1. 設定→ネットワーク→全般→NAT に移動します。

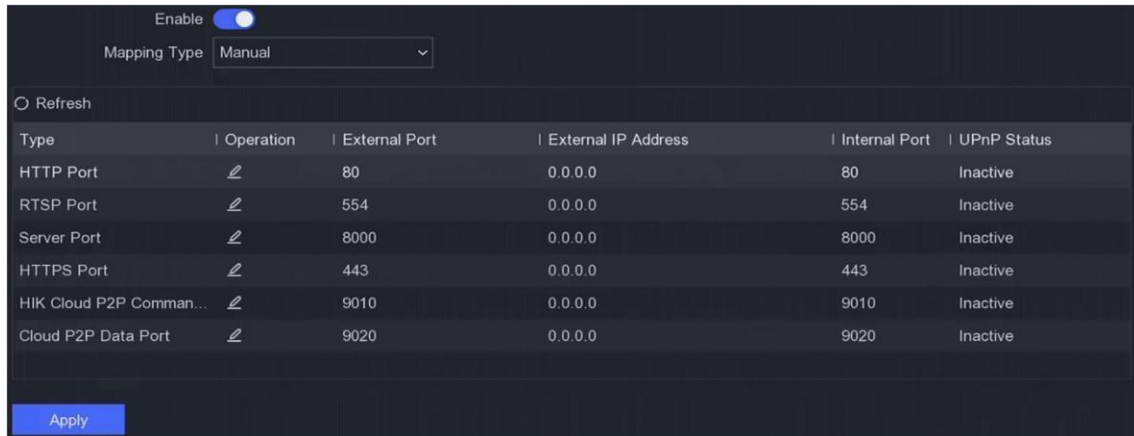


図6-4 NAT

2. 「有効」をオンにします。
3. マッピングタイプを「手動」または「自動」に選択します。

自動

ポートマッピング項目は読み取り専用であり、外部ポートは設定済みです。ルーターによって自動的に設定されます。ポートマッピングの最新の状態を確認するには、[リフレッシュ]をクリックしてください。

手動

外部ポートのタイプを選択します。 をクリックして、**外部ポート**を編集します。デフォルトの外部ポート番号を使用することも、実際の要件に応じて変更することもできます。**外部ポート**は、ルーターでのポートマッピング用のポート番号を示します。

RTSP ポート番号の値は 554 または 1024 から 65535 までの範囲である必要があります、その他のポートの値は 1 から 65535 までの範囲であり、各ポートの値は互いに異なる必要があります。複数の

同じルーターで複数のデバイスが UPnP™ 設定に設定されている場合、各デバイスのポート番号は、それぞれ異なる値に設定する必要があります。

4. ルーターの仮想サーバーを設定します。内部ソースポート、外部ソースポートなどを含みます。仮想サーバーのパラメーターは、デバイスのポートと一致する必要があります。

Wi-Fi

一部のモデルでは、Wi-Fi ドングルをデバイスにインストールすると、デバイスがワイヤレスネットワークに接続できるようになり、デバイスのチャンネルを Wi-Fi 経由で表示できるようになります。たとえば、デバイスが複数のネットワークカメラまたはアナログカメラ（Wi-Fi ネットワークカメラは現在接続できません）に接続されている場合、デバイスがワイヤレスネットワークに接続されると、Wi-Fi 経由でデバイスにアクセスし、接続されたチャンネルを表示できるようになります。

開始前に

- 適切な Wi-Fi ドングルを用意し、背面パネルの USB インターフェースに挿入してください。
- デバイスがこの機能に対応していることを確認してください。

手順

1. 設定→ネットワーク→全般→Wi-Fi



注意

Wi-Fi ドングルを初めて挿入すると、Wi-Fi 設定インターフェースが自動的にポップアップ表示されます。

2. ワイヤレスネットワークに接続します。

接続する
自動的に検索された
ワイヤレスネットワ
ークに接続する

1. リストから目的のワイヤレスネットワークをダブルクリックします。
2. ワイヤレスネットワークのパラメータを設定します。
3. **OK**をクリックします。

カスタムワイヤレスネ
ットワークに接続する

1. 「**カスタム追加**」をクリックします。
2. ワイヤレスネットワークのパラメータを設定します。
3. **OK**をクリックします。

**WPS (Wi-Fi
保護された設定)** を使用し
てワイヤレスネットワー
クに接続する

1. **WPS設定**をクリックします。
2. **WPSを有効にする**にチェックを入れます。
3. ワイヤレスネットワークのパラメータを設定します。
4. 「**適用**」をクリックします。



注

ネットワークを編集したり、ネットワークを削除したい場合は、接続しているネットワークをダブルクリックして、必要に応じて編集してください。

利用可能なワイヤレスネットワークに接続すると、接続結果が
接続状態。

3. [設定]→[ネットワーク]→[全般]→[TCP/IP] を選択します。
4. **NICの選択**と**デフォルトルート**を**WLAN0**に設定します。
5. **Wi-Fi**を有効にします。
6. その他のネットワークパラメータを設定します。
7. **適用**をクリックします。

NTP

お使いのデバイスは、ネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバーに接続して、システム時刻が正確であることを確認することができます。

手順

1. [Configuration]、[→]、[Network]、[→]、[General]、[→]、[NTP] の順に選択します。

2. 有効にするをオンにします。
3. パラメーターを入力します。

間隔

NTP サーバーとの時間同期の間隔（時間）。

NTP サーバー

NTP サーバーの IP アドレス。

4. 適用をクリックしてください。

ログサーバー設定サーバーに

ログをアップロード

システムログをサーバーにバックアップ用にアップロードできます。

手順

1. [Configuration] (構成) [→ (ネットワーク)] [→ (サーバー)] [→ (ログサーバー設定)] へ移動します。

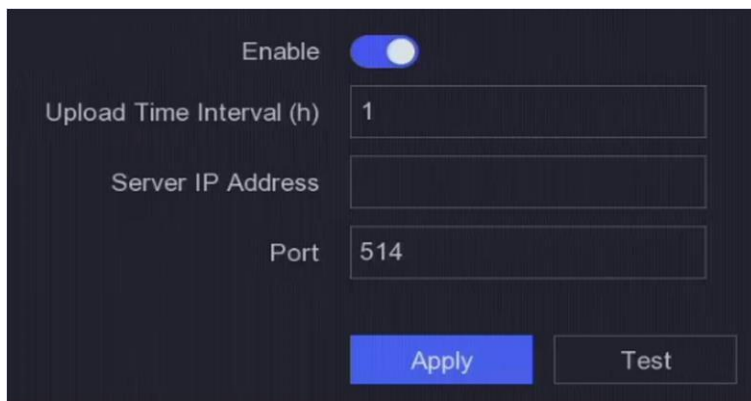


図6-5 ログサーバー設定

2. 「有効」をオンにします
3. アップロード間隔、サーバーのIPアドレス、およびポートを設定します。
4. オプション: [テスト]をクリックして、パラメータが有効であるかどうかをテストします。
5. 「適用」をクリックします。

ポート（詳細設定）

必要に応じて、さまざまなポートタイプを設定して、関連する機能を有効にします。「設定」→「ネットワーク」→「一般」→「詳細設定」に移動します。

アラームホスト IP/ポート

アラームがトリガーされると、デバイスはアラームイベントまたは例外メッセージをアラームホストに送信します。リモートアラームホストには、クライアント管理システム (CMS) ソフトウェアがインストールされている必要があります。

アラームホスト IP は、CMS ソフトウェア (iVMS など) がインストールされているリモート PC の IP アドレスを指します。

4200) がインストールされており、アラームホストポート（デフォルトは 7200）がソフトウェアで設定されているアラーム監視ポートと同じである必要があります。

サーバーポート

リモートクライアントソフトウェアアクセス用。2000 から 65535 までの範囲。デフォルト値は 8000 です。

HTTP ポート

リモートウェブブラウザアクセス用。デフォルト値は 80 です。

マルチキャスト IP

ネットワークで許可される最大数を超えるカメラでライブビューを有効にするために、マルチキャストを設定できます。マルチキャスト IP アドレスは、224.0.0.0 から 239.255.255.255 までのクラス D IP をカバーしており、239.252.0.0 から 239.255.255.255 までの IP アドレスを使用することをお勧めします。

CMS ソフトウェアにデバイスを追加する際は、マルチキャストアドレスをデバイスのものと一致させる必要があります。

RTSP ポート

RTSP (Real Time Streaming Protocol) は、エンターテインメントおよび通信システムでストリーミングメディアサーバーを制御するために設計されたネットワーク制御プロトコルです。デフォルトのポートは 554 です。

出力帯域幅制限

チェックボックスをオンにすると、出力帯域幅制限を有効にできます。

IP アドレスの自動適応

有効にすると、デバイスの IP アドレスが競合した場合、自動的に変更されます。ネットワークカメラと LAN が同じ IP アドレスセグメントにない場合、接続されたネットワークカメラの IP アドレスは、現在の IP アドレスセグメントに自動的に編集されます。

出力帯域幅

出力帯域幅制限を有効にした後、出力帯域幅を入力してください。



注意

- 出力帯域幅制限は、リモートライブビューと再生に使用されます。
- デフォルトの出力帯域幅は、最大制限値です。

Alarm Host IP	
Alarm Host Port	0
Server Port	8000
HTTP Port	80
Multicast IP	
RTSP Port	554
Apply	

図6-6 ポート設定

6.2.2 プラットフォームアクセス

Hik-Connect

[Configuration]、[→]、[Network]、[→]、[Platform Access] の順に選択します。詳細については、[Hik-Connect](#)を参照してください。

ISUP

SDK は、Intelligent Security Uplink Protocol (ISUP) に基づいています。サードパーティのプラットフォームが NVR、スピードドーム、DVR、ネットワークカメラ、モバイル NVR、モバイルデバイス、デコードデバイスなどのデバイスにアクセスするための API、ライブラリファイル、およびコマンドを提供します。このプロトコルを使用すると、サードパーティのプラットフォームは、ライブビュー、再生、双方向オーディオ、PTZ 制御などの機能を実現できます。

手順

1. [Configuration] (設定) に移動し、[→] (ネットワーク) を選択します。→ (プラットフォームアクセス) を選択します。
2. タイプを ISUP に設定します。

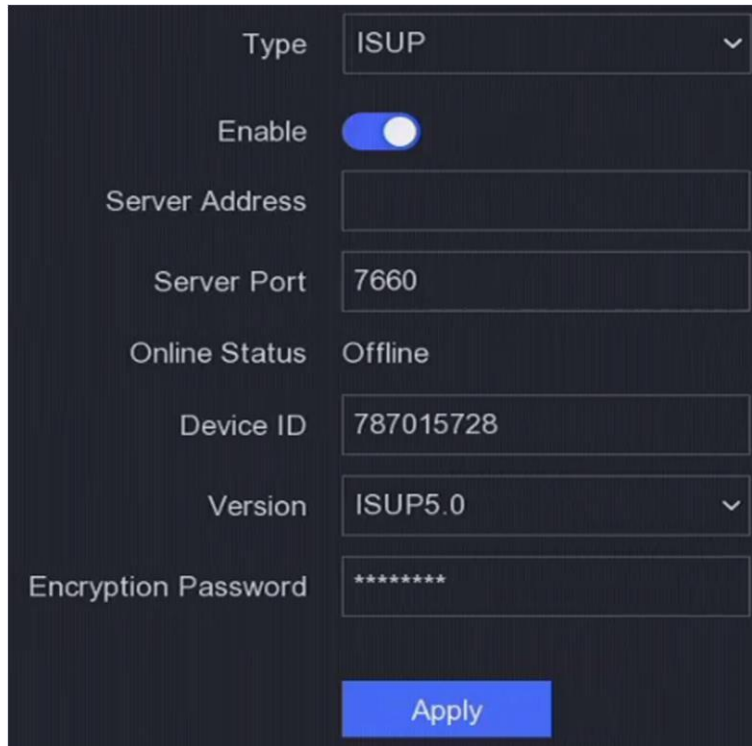


図6-7 ISUP

3. 有効をオンにします。



ISUPを有効にすると、他のプラットフォームへのアクセスが無効になります。

4. 関連するパラメーターを設定します。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバーのIPアドレス。

サーバーポート

プラットフォームサーバーのポート番号。範囲は 1024 から 65535 です。実際のポート番号はプラットフォームから提供されます。

デバイスID

デバイスIDはプラットフォームから提供されます。

バージョン

ISUPプロトコルのバージョン。V5.0のみ使用可能です。

暗号化パスワード

ISUP V5.0 バージョンを使用する場合は、暗号化パスワードが必要です。これにより、デバイスとプラットフォーム間の通信のセキュリティが強化されます。デバイスが ISUP プラットフォームに登録された後、確認のためにパスワードを入力してください。

5. 設定を保存し、デバイスを再起動するには「適用」をクリックしてください。

次にやるべきこと

デバイスを再起動した後、オンライン状態（オンラインまたはオフライン）を確認できます。

OTAP サービス

手順

1. **[Configuration] (構成)** に移動します。→ **(ネットワーク)** → **(プラットフォームアクセス)** を選択します。
2. タイプを **OTAPサービス** に設定します。
3. **有効** をオンにします。



注意

OTAP サービスを有効にすると、他のプラットフォームへのアクセスが無効になります。

4. 関連するパラメーターを設定します。

サーバーアドレス

プラットフォームサーバーのIPアドレス。

ポート

プラットフォームサーバーのポート番号は 1 から 65535 までです。デフォルト値は 7800 です。実際のポート番号はプラットフォームから提供されます。

デバイスID

デバイスIDはデバイスから提供されます。

キー

サーバーが登録情報を受信した際に検証に使用されます。キーには6文字から12文字まで入力可能です。デフォルトのキーは「abc12345」です。

5. 設定を保存してデバイスを再起動するには、**[適用]** をクリックしてください。

次にやるべきこと

デバイスを再起動後、登録状態（オンラインまたはオフライン）を確認できます。

6.2.3 メール

[設定]→[ネットワーク]→[Eメール]に移動します。詳細については、[「Eメール」](#)を参照してください。

6.3 カメラ管理

6.3.1 信号入力の設定

一部のデジタルビデオレコーダーモデルでは、アナログおよび IP 信号入力タイプを設定できます。

手順

1. **[Configuration]** (設定) に移動し、**[→]** (**カメラ**) をクリックし、**[→]** (**アナログ**) を選択するか、**[Edit]** (編集) をクリックします。
設定→カメラ→カメラ]の右上隅にある

2. 信号入力タイプを**HD/CVBS**または**IP**を選択します。**HD/CVBS**

Turbo HD、AHD、HDCVI、CVBSの4種類のアナログ信号入力チャンネルごとに任意に接続できます。

IP

ネットワークカメラを接続できます。

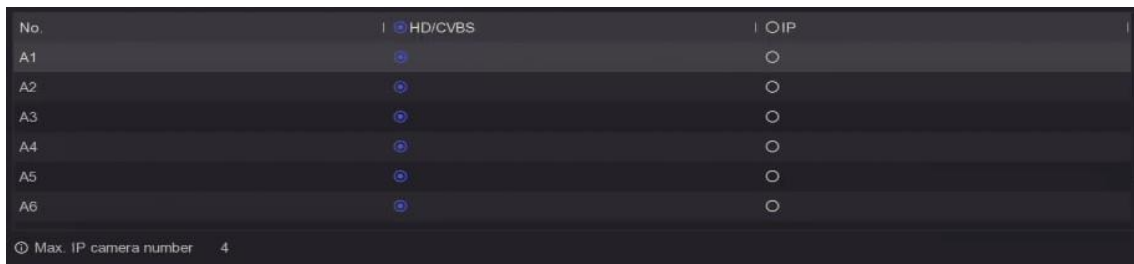


図6-8 信号入力タイプ

3. **[適用]** をクリックします。**最大ネットワークカメラ接続台数**に、接続可能なネットワークカメラの**最大台数**が表示されます。**IP カメラ台数**をクリックすると、接続されているネットワークカメラの台数が表示されます。

6.3.2 ネットワークカメラ

自動的に検索されたオンラインネットワークカメラを追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認してください。

- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーと同じであることを確認してください。

手順

1. Go to Configuration→カメラ→カメラ。
2. オンラインデバイスリストをクリックします。同じネットワークセグメントにあるオンラインカメラがリストに表示されます。

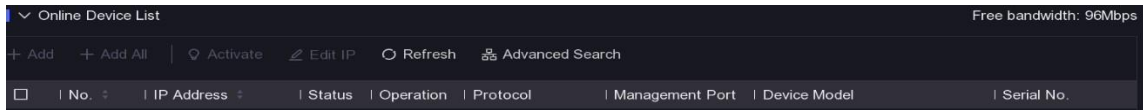


図6-9 オンラインデバイス

3. オプション: [IP の編集] をクリックして、カメラの IP アドレスをバッチで編集します。システムは、選択したカメラに順番に IP アドレスを割り当てます。



注意

- 選択したカメラが有効になっていることを確認してください。
- ネットワークカメラがオンラインの場合は、カメラ名をダブルクリックして編集できます。

4. ネットワークカメラを選択し、[追加] をクリックして追加します。

ネットワークカメラを手動で追加

ネットワークカメラをビデオレコーダーに追加します。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラが有効になっていることを確認してください。

手順

1. [Configuration] (設定) に移動し、[→] (ネットワークカメラ) をクリックし、[→] (カメラ) をクリック
2. 「+」をクリックします。

Add IP Camera (Custom)

Refresh

No.	IP Address	Status	Protocol	Management Port	Device
-----	------------	--------	----------	-----------------	--------

IP Camera Address

Channel No. 1

Protocol HIKVISION

Management Port 8000

Transfer Protocol Auto

User Name admin

Camera Password

Use Camera Activation ...

Add More Add Cancel

図 6-10 IP カメラの追加

3. ネットワークカメラのパラメータを入力します。

カメラの起動パスワードを使用する

有効にすると、ビデオレコーダーは、設定されたチャンネルのデフォルトパスワードを使用してカメラを追加します。

4. 「追加」をクリックします。

別のネットワークセグメントのネットワークカメラを追加する

ネットワークカメラが別のネットワークセグメントにある場合、デバイスはその IP アドレスの範囲内で IP アドレスを検索し、追加することができます。

開始前に

- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認してください。
- ネットワークカメラのパスワードがビデオレコーダーのパスワードと同じであることを確認してください。

手順

1. [Configuration (設定)]、[→ (ネットワークカメラ)]、[→ (ネットワークカメラ)] の順に移動します。
2. 「詳細検索」をクリックします。
3. ネットワークセグメントを入力します。

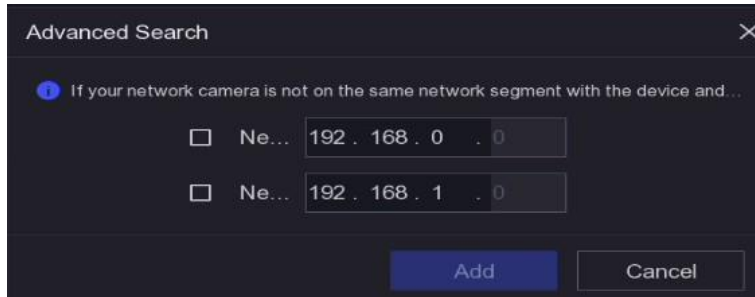


図 6-11 ネットワークセグメントの入力

4. 「追加」をクリックします。

プラグアンドプレイでネットワークカメラを追加する

非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製の ONVIF カメラがネットワークに接続されている場合、ビデオレコーダーは自動的にそのカメラを検出して追加するか、手動で追加するよう通知します。

手順

1. Go to Configuration→→ **Camera**.
2. 「詳細」をクリックします。
3. 「プラグアンドプレイ」を選択します。
4. オプション: ネットワークカメラの自動追加を有効にします。ビデオレコーダーは、非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製の ONVIF カメラを自動的に検出して追加します。

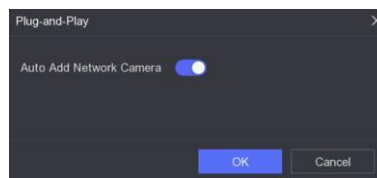


図 6-12 ネットワークカメラの自動追加



注

ネットワークカメラの自動追加をオフにすると、非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティの ONVIF カメラがネットワークに接続されると、ビデオレコーダーはそれを自動的に検出し、追加するよう通知します。

ネットワークカメラの編集

ネットワークカメラの IP アドレス、プロトコル、その他のパラメータを編集できます。

手順

1. [設定]→[カメラ]→[カメラ]に移動します。
2. 追加したネットワークカメラの「」をクリックします。

チャンネルポート

接続されたデバイスが複数のチャンネルを持つエンコーディングデバイスである場合は、ドロップダウンリストからチャンネルポート番号を選択して、接続するチャンネルを選択できます。

3. オプション: **[IP の編集]** をクリックして、カメラの IP アドレスを一括で編集します。システムは、選択したカメラに順番に IP アドレスを割り当てます。
4. **OK** をクリックします。

ネットワークカメラのアップグレード

ネットワークカメラは、デバイスを介してリモートでアップグレードできます。

開始前に

- USB フラッシュドライブがデバイスに挿入されており、ネットワークカメラのアップグレードファームウェアが含まれていることを確認してください。
- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認してください。

手順

1. **[Configuration]** (設定) に移動し、**[→](カメラ)** をクリックし、**[→](カメラ)** をクリックします
2.  「」 をクリックします。
3. 確認のために「はい」をクリックします。
4. ストレージデバイスからカメラのアップグレードファームウェアを選択します。
5. **アップグレード** をクリックして、アップグレードを開始します。アップグレードが完了すると、カメラは自動的に再起動します。

カメラの高度なパラメータを設定する

カメラの IP アドレス、カメラのパスワードなどの高度なカメラパラメータを設定できます。

開始前に

- ネットワークカメラがビデオレコーダーと同じネットワークセグメントにあることを確認してください。
- ネットワーク接続が有効で正しいことを確認してください。

手順

1. **[Configuration]** (設定) に移動し、**[→](カメラ)** をクリックし、**[→](カメラ)** をクリックします
2.  「」 をクリックします。
3. IP アドレス、カメラのパスワードなどのカメラパラメータを設定します。
4. **適用** をクリックします。

IP カメラ設定ファイルのインポート/エクスポート

追加したネットワークカメラの情報は、IP アドレス、ポート、管理者パスワードなど、Excel ファイルに生成してローカルデバイスにエクスポートしてバックアップすることができます。エクスポートしたファイルは、コンテンツの追加や削除など、お使いのコンピュータで編集することができ、その設定を

他のデバイスにエクスポートしたExcelファイルをインポートすることで設定をコピーできます。

開始前に

USB フラッシュドライブなどのバックアップデバイスをビデオレコーダーに接続します。

手順

1. Go to Configuration→ Camera→ **Camera**.
2. 「詳細」をクリックします。
3. 「エクスポート/インポート」をクリックして、接続されたバックアップデバイスに設定ファイルをエクスポート/インポートします。
4. 保存先デバイスとフォルダーパスを設定します。
5. 「エクスポート/インポート」をクリックします。

次にやるべきこと

インポートが完了したら、ビデオレコーダーを再起動する必要があります。

詳細設定

手順

1. [Configuration] (設定) に移動します。→ (カメラ)→ (カメラ) をクリックします。
2. 「詳細」をクリックします。
3. パラメーターを好みの設定に設定します。

H.265 自動切り替え設定

このオプションを有効にすると、デバイスは、最初のアクセス時に、ネットワークカメラ（H.265 ビデオフォーマットをサポートしているもの）のストリームを自動的に H.265 に切り替えます。

アップグレード

追加したネットワークカメラをアップグレードします。

エクスポート/インポート

追加したネットワークカメラの情報は、IP アドレス、ポート、管理者パスワードなど、Excel ファイルに生成してローカルデバイスにエクスポートしてバックアップすることができます。エクスポートしたファイルは、コンピュータで編集（内容の追加や削除など）したり、Excel ファイルをインポートして他のデバイスに設定をコピーしたりすることができます。

カメラの起動パスワードの設定

ネットワークカメラの起動および追加用のデフォルトのパスワードを変更します。すでに接続されているネットワークカメラについては、次のポップアップウィンドウで、そのパスワードをこのパスワードに変更することを選択できます。

一括設定

このデバイスでは、SVC 機能を有効にしたり、選択したネットワークカメラの時刻を自動的に同期したりすることができます。

プラグアンドプレイ

プラグアンドプレイページで、[ネットワークカメラを自動的に追加] を有効にします。ビデオレコーダーは、非アクティブなネットワークカメラまたはサードパーティ製の ONVIF カメラを自動的に検出して追加します。

6.3.3 表示設定

OSD（オンスクリーンディスプレイ）、画像設定、露出設定、デイ&ナイト切り替え設定などを設定します。

手順

1. Go to Configuration→カメラ→Display.
2. カメラを設定します。
3. パラメーターを好みの設定に設定します。

OSD設定

日付、時刻、カメラ名など、カメラの OSD (オンスクリーンディスプレイ) 設定を構成します。

画像設定

ライブビューおよび録画効果の明るさ、コントラスト、彩度などの画像パラメータをカスタマイズします。

露出

カメラの露出時間（1/10000～1 秒）を設定します。露出値が大きいほど、画像は明るくなります。

デイ&ナイト切り替え

カメラは、周囲の照度や時間スケジュールに応じて、デイ、ナイト、自動、またはスケジュール切り替えモードに設定できます。

バックライト

カメラのワイドダイナミックレンジ（0～100）を設定します。周囲の照度と被写体の明るさに大きな差がある場合は、WDR 値を設定してください。

画像処理

画像のコントラストを最適に強調します。

カメラパラメータ設定

デイ/ナイトモード、補助照明モードなど、カメラパラメータを設定できます。詳細については、「カメラパラメータ設定の構成」を参照してください。

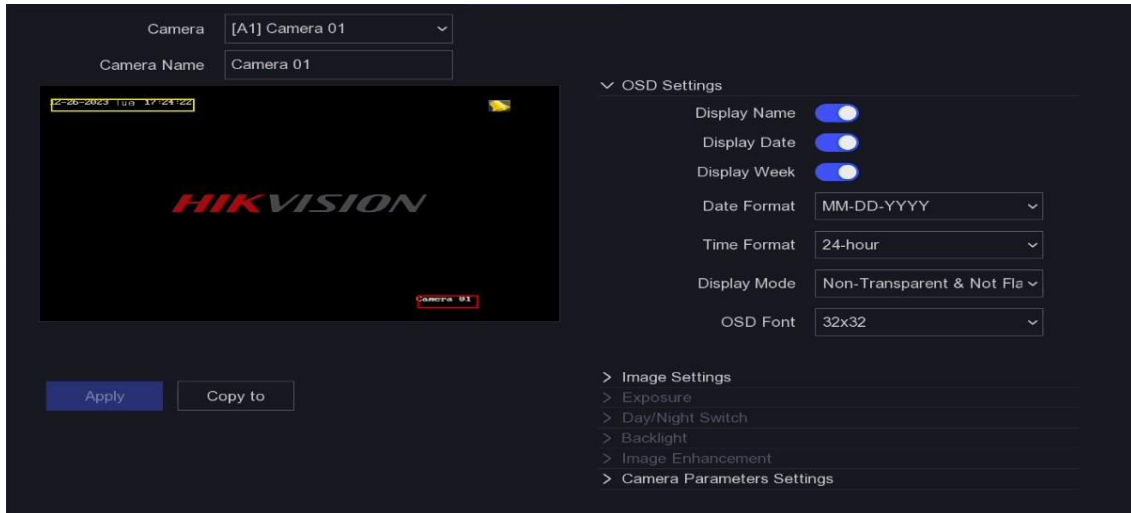


図6-13 OSD

4. プレビューウィンドウ内のテキストフレームをドラッグして、OSDの位置を調整できます。
5. 「適用」をクリックします。

カメラパラメータの設定

デイ&ナイト機能、補助ライトモードなど、カメラのパラメータを設定できます。

手順

1. Go to Camera→ Display.
2. ご希望のカメラを選択します。
3. カメラ名で名前を編集します。
4. パラメーターを設定します。

信号切り替え

信号スイッチで 4 MP または 5 MP の信号を切り替えます。4 MP 25/30 fps および 5 MP 20 fps を選択できます。4 MP 25 fps および 4 MP 30 fps 信号は、カメラに自動適応します。

デフォグを有効にする

除霧を有効にするで、選択したカメラの除霧機能を有効にします。そして、除霧レベルを 1 から 4 まで設定します。

デイ&ナイト感度/ナイト&デイ感度

デイ&ナイト感度、ナイト&デイ感度、IR ライトの明るさなどのパラメータをカメラごとに調整します。デイ&ナイト感度、ナイト&デイ感度、IR ライトの明るさのデフォルト値は 5 です。有効値の範囲は 1 から 9 です。

デイ/ナイトモード

ドロップダウンリストからカメラのデイ/ナイトモードを選択します。デイモードでは、画像は常にカラーで表示されます。ナイトモードでは、画像は白黒で表示されます。

WDRスイッチ

WDR スイッチをオンにして、カメラの機能を有効にします。

5. オプション: [コピー] をクリックして をクリックして、現在のカメラのパラメータを他のカメラにコピーします。
6. オプション: [適用] をクリックして設定を保存します。



注意

パラメータは、接続されたカメラに保存され、DVR には保存されません。インターフェースを終了して再度入力すると、前回設定したパラメータが表示されます。カメラパラメータの設定は、これらの機能をサポートするカメラにのみ適用されます。

6.3.4 プライバシーマスク

表示または録画できないプライバシーマスク領域を設定することができます。

手順

1. Go to Configuration→ カメラ→プライバシーマスク。
2. カメラを選択します。
3. 「有効」をオンにします。

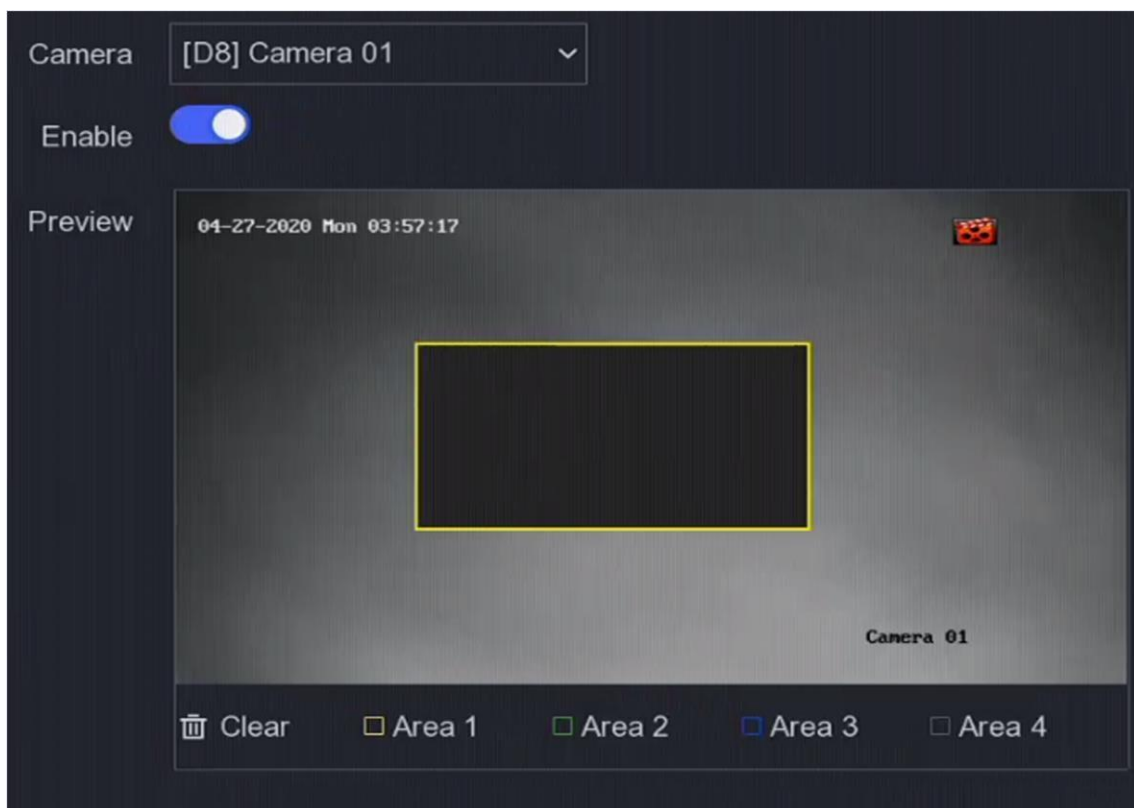


図 6-14 プライバシーマスク

4. ウィンドウ上で領域をドラッグして描画します。領域の枠は異なる色で表示されます。



注意

最大4つのプライバシーマスク領域を設定できます。各領域のサイズは調整可能です。

5. **適用**をクリックします。

6.4 イベント設定

6.4.1 マルチ機能インテリジェンス

マルチ機能インテリジェンスモードが有効になっている場合、デバイスは同時に複数のスマート機能を実行できます。

開始前に

デバイスがこの機能に対応していることを確認してください。

手順

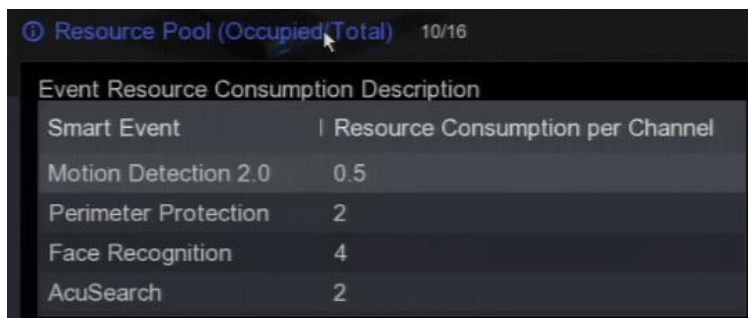
1. **設定**→**イベント** →マルチ機能インテリジェンス。

Channel	Motion Detection 2.0	Perimeter Protection				Face Recognition		AcuSearch
		Line Crossing	Intrusion	Region Entrance	Region Exiting	Face Capture	Face Picture Comparis...	
[A1] Cafffffhfhf...	✓	✗	✗	--	--	✗	✗	✗
[A2] Camera 02	✗	✓	✗	--	--	✗	✗	✓
[A3] Camera 03	✗	✗	✗	--	--	✓	✗	✗
[A4] Camera 04	✗	✗	✗	--	--	✗	✗	✗
[A5] Camera 05	✗	✗	✗	--	--	✗	✗	✗
[A6] Camera 06	✗	✗	✗	--	--	✓	✗	✗
[A7] Camera 07	✗	✗	✗	--	--	✗	✗	✗

図6-15 マルチ機能インテリジェンスの設定

2. マルチ機能インテリジェンスモードを有効にします。

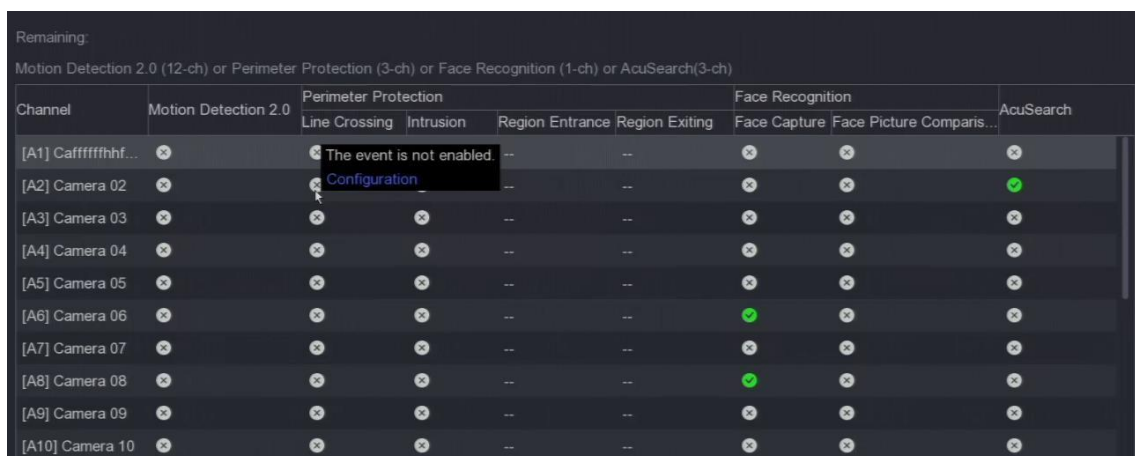
3. オプション: リソースプールの合計リソースと残りのリソースを表示します。プログレスバーの下にある **[リソースプール (使用中/合計)]** をクリックすると、各スマートイベントのリソース消費量を確認できます。



Smart Event	Resource Consumption per Channel
Motion Detection 2.0	0.5
Perimeter Protection	2
Face Recognition	4
AcuSearch	2

図 6-16 各スマートイベントのリソース消費量

4. テーブル上でカーソルを移動し、チャンネルとイベントタイプに応じて希望の位置を選択します。
5. 選択したチャンネルとイベントタイプの「設定」をクリックします。



Remaining:
Motion Detection 2.0 (12-ch) or Perimeter Protection (3-ch) or Face Recognition (1-ch) or AcuSearch(3-ch)

Channel	Motion Detection 2.0	Perimeter Protection				Face Recognition		AcuSearch
		Line Crossing	Intrusion	Region Entrance	Region Exiting	Face Capture	Face Picture Comparis...	
[A1] Cafffffhfhf...	×	×	The event is not enabled. Configuration	--	--	×	×	×
[A2] Camera 02	×	×	×	--	--	×	×	✓
[A3] Camera 03	×	×	×	--	--	×	×	×
[A4] Camera 04	×	×	×	--	--	×	×	×
[A5] Camera 05	×	×	×	--	--	×	×	×
[A6] Camera 06	×	×	×	--	--	✓	×	×
[A7] Camera 07	×	×	×	--	--	×	×	×
[A8] Camera 08	×	×	×	--	--	✓	×	×
[A9] Camera 09	×	×	×	--	--	×	×	×
[A10] Camera 10	×	×	×	--	--	×	×	×

図 6-17 イベントとチャンネルの選択

6. 対応するイベントを設定します。設定の詳細については、この章の他のセクションを参照してください。



リソースが不足している場合、リソースを解放するために、他のイベントの一部を無効にするよう通知されます。

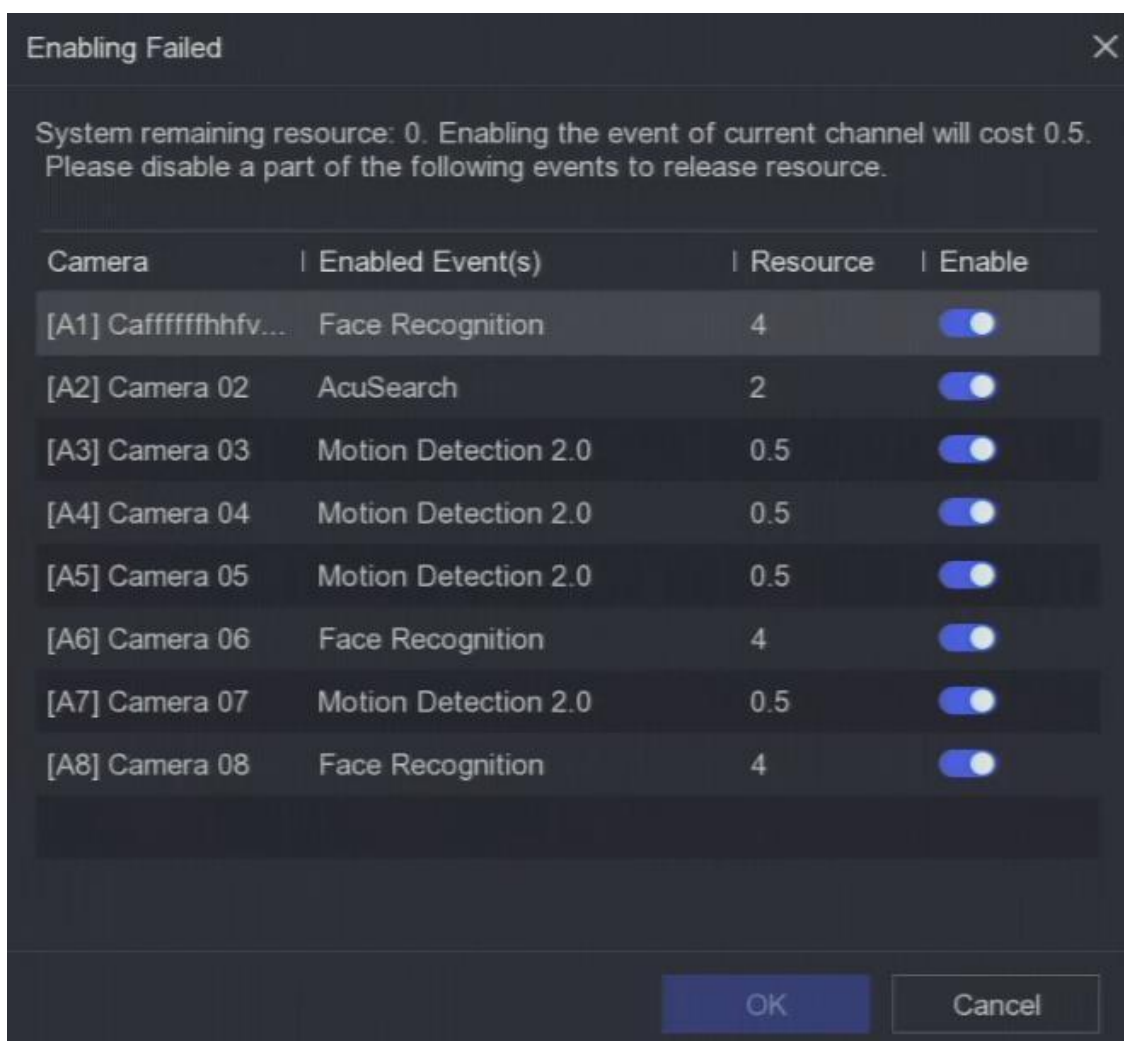


図6-18 システムリソースの解放

6.4.2 通常のイベント

動体検知

動体検知は、ビデオレコーダーが監視エリア内の動く物体を検知し、アラームをトリガーする機能です。

アラームをトリガーします。

手順

1. 設定→カメラ→動体検知に移動します。
2. カメラを選択します。
3. 「有効」にチェックを入れます。
4. モーション領域を設定：領域を描画またはクリアするには「領域を描画」または「クリア」をクリックします。



注意

操作方法はモデルによって異なる場合があります。

5. 感度を調整します。感度により、動きがアラームをトリガーする感度を調整できます。値が高いほど、動きに反応しやすくなります。
6. 分析モードをAIまたはPIRに設定します。AI

モーションイベントは、お使いのデバイスによって分析されます。

PIR

モーションイベントは、特定のアナログ PIR カメラによって分析されます。

7. オプション：検出対象を「人間」または「車両」に設定して、人間や車両によってトリガーされないアラームを無視します。
8. 武装スケジュールを設定します。詳細については [「武装スケジュールの設定」](#) を参照してください。
9. リンク方法を設定します。詳細については、[「アラームのリンク動作の設定」](#) を参照してください。
10. 適用をクリックします。

ビデオ改ざん

レンズが覆われたときにアラームをトリガーし、アラーム対応アクションを実行します。

手順

1. [Configuration] (設定) に移動し、[→] (イベント) をクリックします。→ (イベント) をクリックし、[Normal Event] (通常イベント) をクリックします。→ (ビデオ

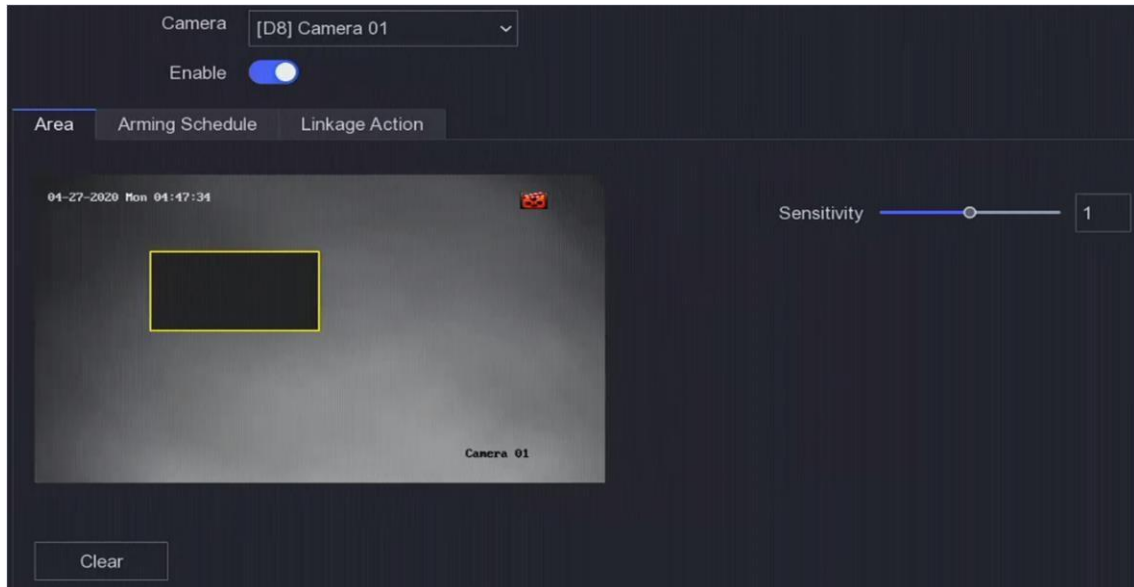


図 6-19 ビデオ改ざん

2. カメラを設定します。
3. 有効をオンにします。
4. 必要に応じて感度を調整します。値が高いほど、ビデオ改ざんがトリガーされやすくなります。
5. 武装スケジュールを設定します。詳細については「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
6. リンク方法を設定します。詳細については、「[アラームのリンク動作の設定](#)」を参照してください。
7. 適用をクリックします。

ビデオ損失

カメラのビデオ損失を検出し、アラーム対応アクションを実行します。

手順

1. →[**Configuration**] (設定) に移動し、[→] (イベント) をクリックします。→ (イベント) をクリックし、[**Normal Event**] (通常イベント) をクリックします
2. カメラを設定します。
3. 有効をオンにします。
4. 武装スケジュールを設定します。詳細については「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
5. リンク方法を設定します。詳細については、「[アラームのリンク設定](#)」を参照してください。
6. 適用をクリックします。

アラーム入力

外部センサーアラームのリンク動作を設定します。

手順

1. [**Configuration**] に移動し、[→] を選択します。イベント→ [**Normal Event**] を選択し、[→] を選択します。アラーム入力。

Alarm Input No.	Alarm Name	Alarm Type	Enable	Operation
Local<-1		N.O	No	
Local<-2		N.O	No	
Local<-3		N.O	No	
Local<-4		N.O	No	

図 6-20 アラーム入力



ローカルアラーム入力: ローカルアラーム入力は、ビデオレコーダーの端子台に接続された外部デバイスによってトリガーされます。

2. 目的のアラーム入力の「

Alarm Input No. Local<-1

Type N.O

Alarm Name

Settings
☒ Nonuse
☐ Input
☐ One-Key Disarming

図 6-21 アラーム入力の編集

3. アラーム名をカスタマイズします。
4. アラームタイプを **N.O**（通常開）または **N.C**（通常閉）に設定します。
5. 設定を「入力」に設定して機能を有効にします。



設定を「使用しない」に設定すると、アラーム入力が無効になります。設定を「ワンキー解除」に設定すると、アラーム入力の選択したリンク方法が無効になります。

6. アラームのスケジュールを設定します。詳細については「[アラームスケジュール設定](#)」を参照してください。
7. リンク動作を設定します。詳細については、「[アラームのリンク動作の設定](#)」を参照してください。
8. 適用をクリックします。

アラーム出力

アラームが作動したときにアラーム出力をトリガーします。

手順

1. 設定→イベント→ 通常イベント→アラーム出力]に移動します。

Alarm Output No.	Alarm Name	Dwell Time	Operation
Local->1		5s	

図 6-22 アラーム出力

2. 目的のアラーム出力の「
3. アラーム名をカスタマイズします。
4. 待機時間を選択します。



図 6-23 アラーム出力の編集

5. 設定を入力として設定して機能を有効にします。
6. アラームのスケジュールを設定します。詳細については [「アラームスケジュールの設定」](#) を参照してください。
7. 適用をクリックします。

例外

ライブビューウィンドウのイベントヒントをトリガーとして、アラーム出力やリンク動作を行うように設定できます。

手順

1. 設定→イベント→通常イベント→例外。
2. イベントヒントを設定します。設定したイベントが発生すると、アラームセンターにヒントが表示されます。
 - 1) イベントヒントを有効にします。
 - 2) ヒントを表示するイベントを選択してください。以下の選択肢から選択してください。
 - クリック  イベントヒントを設定] をクリックして、イベントを選択します。
 - クリック  アラームセンターに入り、イベントを選択します。
3. 例外タイプを選択して、そのリンク方法を設定します。

Event Hint ☒

Set Event Hint

Exception Type HDD Full ▼

☐ Normal Linkage	☐ Trigger Alarm Output
☐ Buzzer Alarm	☐ Local->1
☐ Notify Surveillance Center	
☐ Send Email	

Apply

図6-24 例外

4. リンク方法を設定します。詳細については、「[アラームのリンク動作の設定](#)」を参照してください。
5. **適用**をクリックします。

ライトアラーム出力

ライトおよびオーディオアラームカメラが接続されている場合、点滅アラームの点滅時間、点滅頻度、および点灯スケジュールを設定できます。

開始前に

ライトとオーディオアラームカメラが接続されています。

手順

1. 設定→イベント→通常のイベント→点滅ライトアラーム出力。
2. 任意の行で「」をクリックします。
3. 点滅時間と点滅頻度を設定します。
4. 武装スケジュールを設定します。詳細については「[武装スケジュールの設定](#)」を参照してください。
5. 「保存」をクリックします。

オーディオアラーム出力

光と音声アラームカメラが接続されている場合、音声アラームのパラメータと武装スケジュールを設定できます。

開始前に

光と音声アラームカメラが接続されている。

手順

1. 設定→イベント→通常イベント→点滅ライトアラーム出力。
2. 任意の行で「」をクリックします。
3. オーディオタイプを「アラーム音」、「プロンプト音」、「カスタムオーディオ」から選択します。



アラーム音を選択した場合は、アラーム音の種類も選択する必要があります。アラーム音を選択した場合は、カスタムオーディオをアップロードし、オーディオ名を入力して、カスタムオーディオのドロップダウンボックスからアップロードしたオーディオを選択する必要があります。

4. アラームの時間と音量を設定します。
5. アラーム設定スケジュールを設定します。詳細については「[アラーム設定スケジュールの設定](#)」を参照してください。
6. [保存] をクリックします。

6.4.3 境界保護

境界保護には、ラインクロス検知、侵入検知、領域入口検知、領域出口検知が含まれます。



境界保護は、特定のデバイスモデルまたはカメラモデルでのみ使用できます。

ラインクロス検出

ラインクロス検出は、設定された仮想ラインを横切る人物、車両、および物体を検出します。検出方向は、双方向、左から右、または右から左に設定できます。

手順

1. [設定] に移動します。→ [イベント] に移動します。→ [境界保護] に移動します。→ [ラインクロス] に移動します。
2. カメラを設定します。
3. 有効化をオンにします。
4. 検出ルールと検出領域を設定します。

1) 武装領域を設定します。

2) 方向を A<->B、A->B、または A<-B

に設定します。A<->B

B 側の矢印のみ表示されます。設定されたラインを両方向に横切った物体はアラームをトリガーします。

A→B

A 側から B 側へ設定したラインを横切った物体のみ検出できます。

B→A

B サイドから A サイドに設定されたラインを横切る物体のみ検出できます。

- 3) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描いて、ターゲットの最大描画領域サイズを設定します。
- 4) **最小サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描いて、ターゲットの最小描画領域サイズを設定します。
- 5) **「描画領域」**をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウに四角形を描画します。
5. **感度**を調整します。感度により、動きによってアラームが作動する感度を調整できます。値が大きいほど、動体検知が敏感になります。
6. オプション: **人間または車両を検出対象**として設定すると、人間または車両によってトリガーされなかったアラームを無視することができます。



注意

この機能は、一部のモデルでのみご利用いただけます。

7. アラームのスケジュールを設定します。詳細については [「アラームスケジュール設定」](#) を参照してください。
8. リンク方法を設定します。詳細については、[「アラームのリンク設定」](#) を参照してください。
9. **適用**をクリックします。

侵入検知

侵入検知機能は、あらかじめ設定された仮想領域に侵入したり、その領域内に留まっている人物、車両、物体を検知します。

手順

1. Go to **Configuration** → **Event** → **Perimeter Protection** → **Intrusion**.
2. 設定する**カメラ**を選択します。
3. **「有効」**をオンにします。
4. 検出ルールと検出領域を設定します。

- 1) **武装領域**を選択します。
- 2) **時間閾値と感度**を調整します。**感度**

アラームをトリガーするオブジェクトのサイズ。値が高いほど、検出アラームが作動しやすくなります。範囲は [1-100] です。

時間閾値

範囲 [1 秒～10 秒]、領域内に物体が留まっている時間のしきい値。定義された検出エリアに物体が留まっている時間が設定時間より長い場合、アラームが作動します。

- 3) オプション: **検出対象**を「**人間**」または「**車両**」に設定して、人体や車両によってトリガーされないアラームを排除します。



注意

この機能は、一部のモデルでのみご利用いただけます。

- 4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描いて、ターゲットの最大描画領域サイズを設定します。
- 5) **最小サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描いて、ターゲットの最小描画領域サイズを設定します。
- 6) 「**描画領域**」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウに四角形を描画します。
5. アラーム設定スケジュールを設定します。詳細については「[アラーム設定スケジュールの設定](#)」を参照してください。
6. リンク方法を設定します。詳細については、「[アラームのリンク動作の設定](#)」を参照してください。
7. 「**適用**」をクリックしてください。

入口検知

領域入口検知機能は、外部からあらかじめ設定された仮想領域に侵入した人物、車両、その他の物体を検知し、アラームが作動すると、特定のアクションを実行することができます。

手順

1. 設定→イベント→スマートイベント→領域の入口。
2. **カメラ**を設定します。
3. **VCAモード**を選択し

ます。**NVR**による

イベントは **NVR** によって分析されます。このデバイスは、人物や車両を含むビデオを分析することができます。車両を含むビデオを分析することができます。選択したタイプ（人間または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他のオブジェクトによって引き起こされる誤アラームを減らすことができます。

カメラによる

イベントはカメラによって分析されます。

4. オプション：自己学習機能を有効にするには、**[例による学習モード]** をチェックします。デバイスは、このイベントを2度目分析して、誤アラームを削減します。を参照してください。
5. 「**有効**」をオンにします。
6. オプション：「**VCA 画像の保存**」をチェックして、VCA 検出でキャプチャした画像を保存します。
7. 検出ルールと検出領域を設定します。
 - 1) 「**武装エリア**」を設定します。最大4つの武装エリアを選択できます。
 - 2) **感度**を調整します。**感度**：範囲 [0-100]。値が高いほど、検出アラームが簡単に作動します。
 - 3) オプション：**検出対象**を「**人間**」または「**車両**」に設定して、人体や車両によってトリガーされないアラームを排除します。
 - 4) **最大サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描いて、最大描画領域サイズを設定します。
 - 5) **最小サイズ**をクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描いて、描画領域の最小サイズを設定します。
 - 6) 「**描画領域**」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウに四角形を描画します。
8. アラーム設定スケジュールを設定します。詳細については「[アラーム設定スケジュールの設定](#)」を参照してください。

9. リンク方法を設定します。詳細については、[「アラームのリンク設定」](#)を参照してください。
10. 「適用」をクリックします。

出口検知

出口検知機能は、あらかじめ設定された仮想領域から人、車両、その他の物体が退出することを検知し、アラームが作動すると、特定のアクションを実行することができます。

手順

1. 設定→イベント→スマートイベント→出口検知。
2. カメラを設定します。
3. VCAモードを選択し

ます。NVRによる

イベントはNVRによって分析されます。このデバイスは、人物や車両を含むビデオを分析することができます。車両を含むビデオを分析できます。選択したタイプ（人物または車両）のターゲットのみがアラームをトリガーするため、他のオブジェクトによって引き起こされる誤アラームを減らすことができます。

カメラによる

イベントはカメラによって分析されます。

4. オプション：自己学習機能を有効にするには、[\[例による学習モード\]](#)をチェックします。デバイスは、誤報を減らすためにこのイベントを2回目に分析します。詳細については、[\[アラーム設定スケジュールの設定\]](#)を参照してください。
5. 「有効」をオンにします。
6. オプション：[\[VCA 画像の保存\]](#)をチェックして、VCA 検出でキャプチャした画像を保存します。
7. 検出ルールと検出領域を設定します。
 - 1) 「武装エリア」を設定します。最大4つの武装エリアを選択できます。
 - 2) 感度を調整します。感度：範囲 [0-100]。値が高いほど、検出アラームが簡単に作動します。
 - 3) オプション：検出対象を「人間」または「車両」に設定して、人体や車両によってトリガーされないアラームを排除します。
 - 4) 最大サイズをクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描いて、最大描画領域サイズを設定します。
 - 5) 最小サイズをクリックし、プレビューウィンドウに四角形を描いて、描画領域の最小サイズを設定します。
 - 6) 「描画領域」をクリックし、検出領域の4つの頂点を指定してプレビューウィンドウに四角形を描画します。
8. アラーム設定スケジュールを設定します。詳細については「[アラーム設定スケジュールの設定](#)」を参照してください。
9. リンク方法を設定します。詳細については、[「アラームのリンク設定」](#)を参照してください。
10. 「適用」をクリックします。

6.4.4 顔認識

顔認識は、キャプチャした顔（画像またはビデオストリーム）を顔画像ライブラリ内の顔と比較し、その顔が認識された場合にその人物の身元情報を返す機能です。顔認識は、人間の顔の特徴に基づいて、まず入力画像またはビデオストリームに人間の顔があるかどうかを

画像またはビデオストリームに人間の顔があるかどうかを確認します。人間の顔がある場合、顔データ（位置、サイズ、顔の特徴など）を現在の顔画像ライブラリに登録されている顔データと比較し、その人物を識別します。

開始前に

Hik Central Professional または Hik Connect で関連するパラメータを設定し、**動体検知**および**境界保護**を無効にしていることを確認してください。



注意

この機能は、一部のモデルでのみ使用できます。

顔キャプチャ

顔キャプチャは、シーン内に現れる人間の顔を検出します。人間の顔が検出されると、リンク動作をトリガーすることができます。

手順

1. 設定→イベント→**顔認識**→**顔キャプチャ**に移動します。

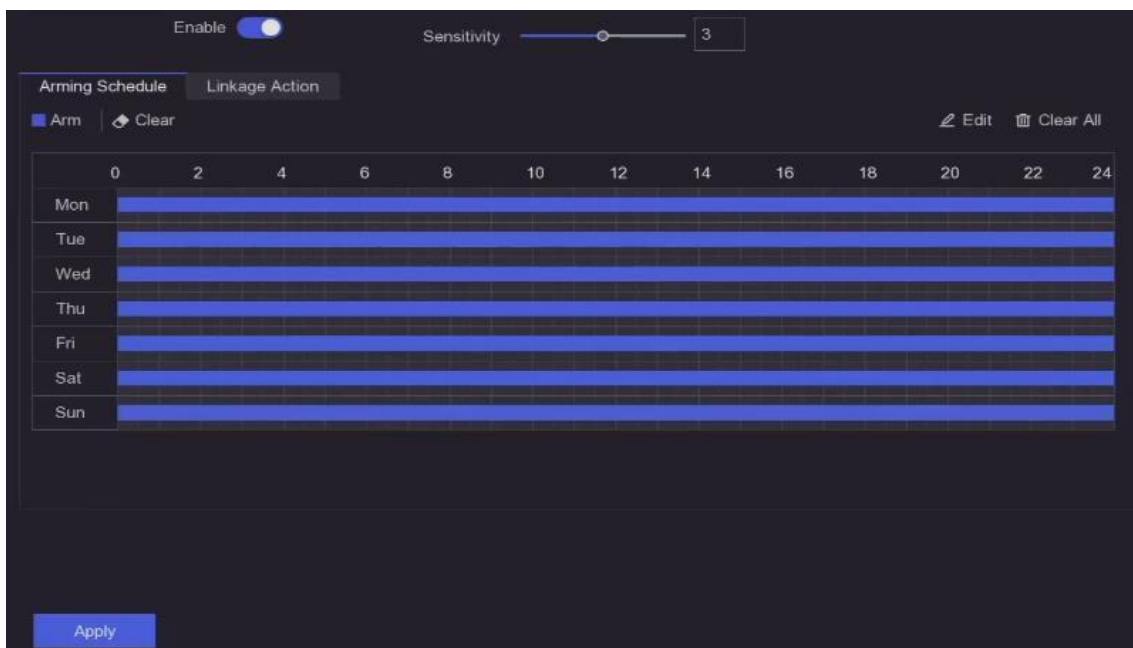


図 6-25 顔キャプチャ

2. カメラを選択します。
3. 有効をオンにします。
4. 感度を調整します。

感度

値が高いほど、ピントが合っていない画像でアラームが作動しやすくなります。

5. アラームスケジュールを設定します。詳細については [「アラームスケジュールの設定」](#) を参照してください。
6. リンク方法を設定します。詳細については、[「アラームのリンク設定」](#) を参照してください。
7. 「適用」をクリックしてください。

顔写真比較

顔写真比較では、検出した顔写真と顔写真ライブラリ内の顔写真を比較します。比較が成功すると、デバイスがアラームを鳴らします。

開始前に

顔画像ライブラリを少なくとも1つ作成し、顔画像がライブラリに追加されていることを確認してください。操作の詳細については、[「顔画像ライブラリ管理」](#)を参照してください。

手順

1. →[Configuration] (設定) に移動し、[→] (顔認識) [Face Picture Comparison] (顔写真比較) を選択します。

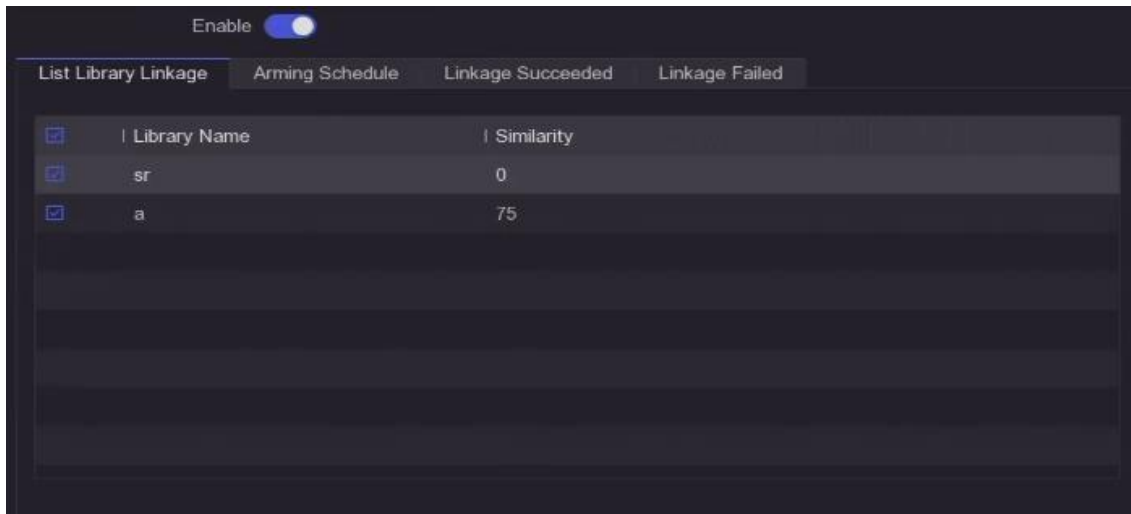


図6-26 顔画像比較

2. カメラを選択します。
3. 「有効」をオンにします。
4. 顔写真ライブラリ（または複数のライブラリ）を「ライブラリリンク方法」で選択します。
5. 顔写真ライブラリの類似度を設定します。

類似度

類似度値は0から100の範囲です。デバイスは、検出された顔画像とライブラリ内の顔画像の類似度を分析します。類似度が閾値に達すると、顔画像の比較が成功し、顔画像が認識されます。

6. 武装スケジュールを設定します。詳細については、[「武装スケジュールの設定」](#)を参照してください。
7. リンク成功およびリンク失敗のリンク動作を設定します。詳細については、[「アラームの設定」](#)リンク動作を参照してください。

リンク成功

顔写真比較が成功すると、デバイスはリンク動作を実行します。

リンク方法

顔写真比較に失敗した場合、デバイスはリンク操作を実行します。

8. 適用をクリックします。

6.4.5 アラーム設定スケジュールを設定する

手順

1. 「武装スケジュール」をクリックします。
2. 週の1日を選択し、時間枠を設定します。1日に最大8つの時間枠を設定できます。



注意

時間枠は重複したり、重なったりしないようにしてください。

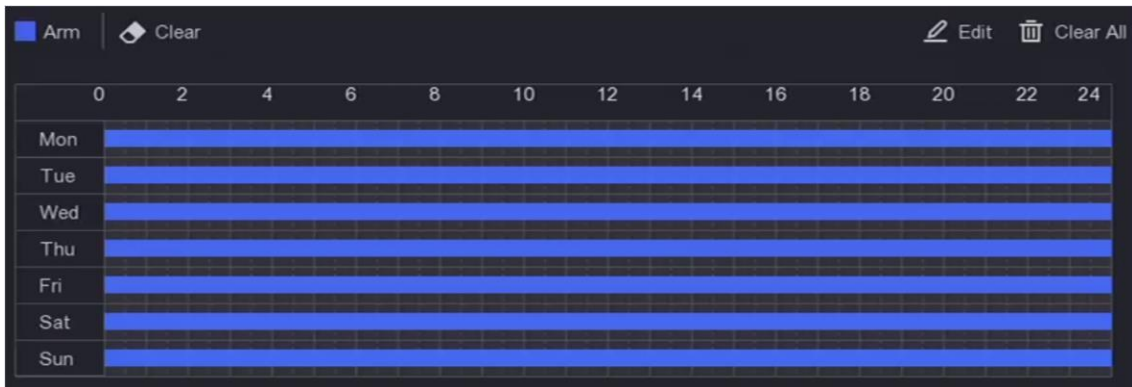


図6-27 警備スケジュールを設定

3. 適用をクリックします。

6.4.6 アラームのリンク方法の設定

アラームポップアップウィンドウの設定

アラームがトリガーされると、ローカルモニターは、フルスクリーン監視用に設定されたアラーム発生チャンネルのビデオ画像をフルスクリーンで表示します。また、複数のチャンネルで同時にアラームがトリガーされた場合、自動切り替えの待機時間を設定する必要があります。

手順

1. 設定→システム→ライブビュー→全般
2. イベント出力と待機時間を設定します。

アラームポップアップ出力

イベントビデオを表示する出力を選択します。

アラームポップアップ遅延

アラームイベント画像を表示する時間を秒単位で設定します。複数のチャンネルでアラームが同時に発生した場合、

複数のチャンネルで同時にアラームが発生した場合、フルスクリーン画像は 10 秒間隔（デフォルトのドウェル時間）で切り替わります。

3. アラーム検出の「リンク方法」をクリックします。
4. アラームポップアップウィンドウのアラームリンク動作を選択します。
5. トリガーチャンネル設定で、フルスクリーン監視にしたいチャンネルを選択します。



注意

アラームが停止すると、自動切り替えは終了し、ライブビューインターフェースに戻ります。

ブザーアラームの設定

オーディオ警告を有効にすると、アラームが検出されると、ビデオレコーダーがピープ音を鳴らします。

手順

1. 設定→システム→ライブビュー→全般
2. オーディオをオンにし、音量を設定します。
3. アラーム検出のリンクアクションインターフェースに移動します。
4. ブザーアラームのリンク動作を選択します。

監視センターに通知します。

イベントが発生すると、ビデオレコーダーはリモートアラームホストに例外またはアラーム信号を送信することができます。アラームホストとは、クライアントソフトウェア（iVMS-4200、iVMS-5200 など）がインストールされているコンピュータを指します。

手順

1. 設定→ネットワーク→全般→詳細設定
2. アラームホスト IP およびアラームホストポートを設定します。
3. アラーム検出のリンク方法インターフェースに移動します。
4. 監視センターに通知を選択します。

E メールリンクを設定します。

ビデオレコーダーは、アラームが検出されると、ユーザーにアラーム情報を記載した電子メールを送信することができます。

手順

1. [Configuration] (設定) に移動し、[→] (ネットワーク) を選択し、[→] (E メール) を選択
2. 設定を構成します。
3. アラーム検出のリンク方法インターフェースに移動します。
4. アラームのリンク方法として「E メール送信」を選択します。

アラーム出力のトリガー

アラーム出力は、通常イベントおよびスマートイベントによってトリガーされます。

手順

1. アラーム入力またはイベント検出のリンクアクションインターフェースに移動します。
2. アラーム出力のリンクをクリックします。
3. トリガーするアラーム出力を選択します。
4. Go to Configuration→ **Event**→ **Normal Event**→ **Alarm Output**.
5. リストからアラーム出力項目を選択します。詳細については、[「アラーム出力」](#)を参照してください。

PTZ リンク方法を設定する

ビデオレコーダーは、アラームイベントまたは VCA 検出イベントが発生した場合に、PTZ 動作（プリセット呼び出し、パトロール、パターンなど）をトリガーすることができます。

手順

1. アラーム入力または VCA 検出の「リンク動作」インターフェースに移動します。
2. PTZ リンク方法を選択します。
3. PTZ 動作を実行するカメラを選択します。
4. アラームイベントが発生したときに呼び出すプリセット/パトロール/パターン番号を選択します。



図 6-28 PTZ リンク方法



リンク動作には、一度に 1 つの PTZ タイプのみ設定できます。

6.5 インテリジェント検索

6.5.1 AcuSearch

選択したチャンネルでAcuSearch機能を有効にします。

手順

1. 設定→ インテリジェント検索→ Acu Search
2. 「有効」をオンにします。
3. AcuSearch機能を有効にしたいチャンネルを選択します。
4. 適用をクリックします。



再生インターフェースで AcuSearch を実行できます。詳細については、「[通常再生](#)
および [スライス再生](#)をご参照ください。

6.6 録音管理

6.6.1 録画スケジュールの設定

ビデオレコーダーは、設定されたスケジュールに従って自動的に録画を開始/停止します。

連続録画の設定

手順

1. 設定→→パラメータを記録します。
2. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
3. 設定→→Schedule に移動します。
4. 記録タイプを「連続」に選択します。

イベント録画を設定します。

ラインクロス検知、侵入検知などによってトリガーされる録画を設定できます。

手順

1. 設定→イベントに移動します。
 2. イベント検出を設定し、イベント発生時に録画をトリガーするカメラを選択します。
 3. 設定→記録→パラメータに移動します。
 4. カメラの連続メインストリーム/サブストリーム録画パラメータを設定します。
-

5. 設定→記録→スケジュールに移動します。
6. 録画タイプとして「イベント」を選択します。

スケジュールを編集します。

手順

1. 設定→記録→スケジュールに移動します。

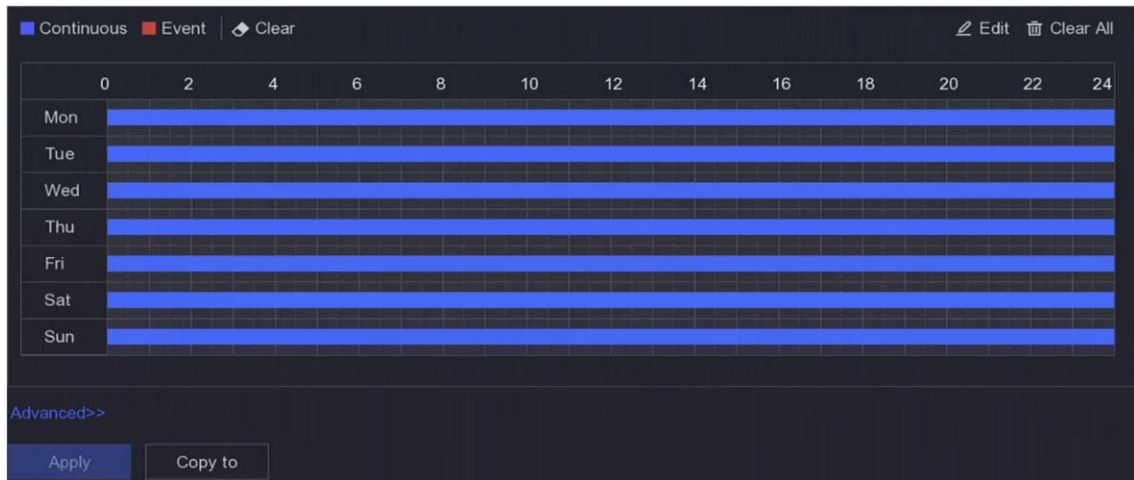


図6-29 録画スケジュール

連続

連続記録。

イベント

すべてのイベントアラームによってトリガーされる録画。

2. カメラ番号でカメラを選択します。
3. 有効をオンにします。
4. 録画スケジュールを設定します。
 - 1) 編集をクリックします。
 - 2) 「平日」で設定する日を選択します。
 - 3) 1日中の録音スケジュールを設定するには、「1日中」にチェックを入れ、スケジュールタイプを選択します。
 - 4) 他のスケジュールを設定するには、「1日中」のチェックを外し、開始/終了時間とスケジュールタイプを設定します。



注意

1日につき最大8つの期間を設定できます。また、各期間は重複して設定することはできません。

- 5) OKをクリックして設定を保存し、上位のメニューに戻ります。



スケジュールタイプを「**連続**」または「**イベント**」から選択し、目的の期間にカーソルをドラッグして色付きのバーを描画することもできます。

5. 「**詳細設定**」をクリックして、詳細なパラメーターを設定します。

オーディオを録音

オーディオがビデオファイルに録音されます。

事前録音

予定時間またはイベントの前に録画する時間を設定します。たとえば、アラームが 10:00 に録画をトリガーし、事前録画時間を 5 秒に設定した場合、カメラは 9:59:55 に録画を開始します。

事後録音

イベントまたは予定時刻の後に録画する時間を設定します。たとえば、アラームによって録画が 11:00 に終了し、録画後時間を 5 秒に設定した場合、11:00:05 まで録画されます。

ストリームタイプ

メインストリームとサブストリームは、録画時に選択できます。サブストリームを選択すると、同じストレージ容量でより長い時間録画することができます。

ビデオ/画像の有効期限

有効期限は、録画ファイルが HDD に保存される期間です。有効期限が切れると、ファイルは削除されます。有効期限を 0 に設定すると、ファイルは削除されません。ファイルの実際の保存期間は、HDD の容量によって決まります。

6. **OK**をクリックして詳細設定を保存します。

7. **適用**をクリックします。

6.6.2 記録パラメーターの設定

手順

1. Go to Configuration→ **Record**→ **Parameter** で、カメラのメインストリームおよびサブストリームのパラメータを設定します。
2. 録画パラメーターを設定します。

メインストリーム

メインストリームとは、ハードディスクドライブに記録されるデータに影響を与えるプライマリストリームのことで、ビデオの画質と画像サイズを直接決定します。サブストリームと比較すると、メインストリームはより高い解像度とフレームレートで、より高品質のビデオを提供します。

メインストリーム（連続）は、通常の記録のメインストリームを指します。**メインストリーム（イベント）**は、イベント記録のメインストリームを指します。

サブストリーム

サブストリームは、メインストリームと並行して実行される 2 番目のコーデックです。これにより、直接の録画品質を損なうことなく、送信するインターネットの帯域幅を削減することができます。サブストリームは、多くの場合、スマートフォンアプリケーションでライブビデオを表示するためにのみ使用されます。インターネットの速度に制限があるユーザーには、この設定が最も適しています。

ストリームタイプ

録画にビデオとオーディオの両方を含めるか、ビデオのみを含めるかを選択できます。

解像度

画像解像度は、デジタル画像に表現できる細部の程度を表す指標です。解像度が高いほど、細部の表現レベルが高くなります。解像度は、ピクセル列（幅）とピクセル行（高さ）の数で指定できます（例：1024 × 768）。

ビットレートタイプ

可変ビットレート：ビットレートはさまざまなシナリオに応じて調整されるため、ネットワーク帯域幅の利用効率が向上し、ストレージ容量を節約できます。**ビデオ品質は 6 段階に設定できます。ビデオエンコーディング形式として H.265 を選択すると、システムは H.265 Pro エンコーディングを採用します。固定ビットレート：最大ビットレートでエンコードします。ビデオ品質は調整できません。**

フレームレート

フレームレートとは、1 秒間にキャプチャされるフレームの数です。フレームレートが高いほど、ビデオストリームに動きがある場合に有利です。これは、画像品質が全体を通して維持されるためです。

最大ビットレートモード

全般：固定値のパラメータから選択できます。**カスタム：**最大ビットレートの値をカスタマイズします。

ビデオエンコーディング

ビデオのエンコード形式を選択します。オプションは、接続されているカメラによって決まります。

H.265+ を有効にする

H.265+ モードは、低ビットレートで高画質ビデオを保証します。これにより、帯域幅と HDD ストレージスペースの要件を効果的に削減できます。

3. 適用をクリックします。

6.6.3 ストレージデバイス

HDDの初期化

HDDを初めて使用する場合は、インストール後に初期化してください。

開始前に

ビデオレコーダーに少なくとも 1 台の HDD をインストールしてください。

手順

1. 設定→→を選択します。
2. HDDを選択します。
3. 「初期化」をクリックします。

データベースを修復します。

データベースにエラーが発生したHDDを修理してください。専門の技術サポートの支援を受けて操作してください。

ネットワークディスクの追加

割り当てられた NAS または IP SAN ディスクをビデオレコーダーに追加し、ネットワーク HDD として使用することができます。

手順

1. 設定→→の録画ストレージをクリックします。
2. 「追加」をクリックします。
3. NetHDDを設定します。
4. タイプをNASまたはIP SANに設定します。
5. NetHDD の IP アドレスを入力します。
6. 「」をクリックして利用可能なディスクを検索します。

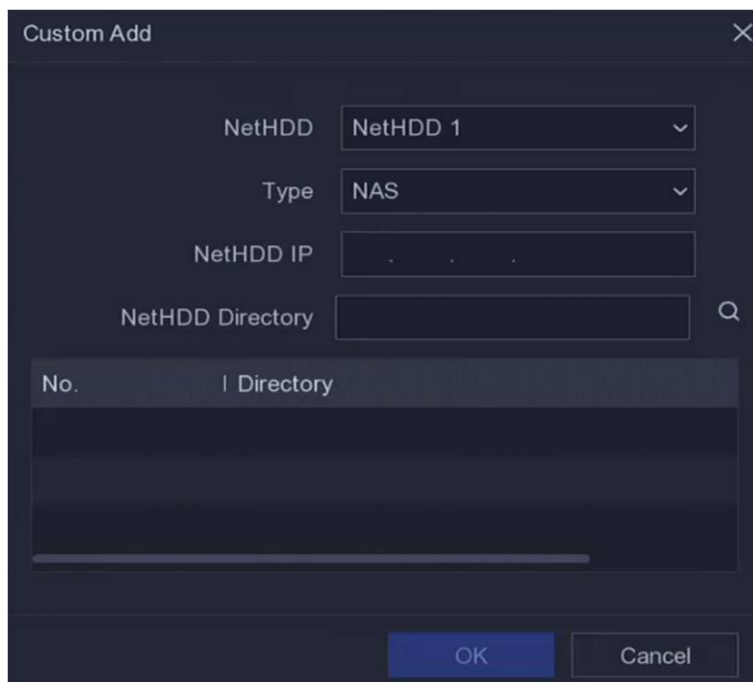


図6-30 NetHDDの追加

7. NASディスクをリストから選択するか、**NetHDD ディレクトリ**に手動でディレクトリを入力してください。
8. **OK**をクリックします。

**注意**

各ネットワークディスクには、最大 **8 TB** のストレージ容量を使用できます。

結果

追加したネットワークディスクがストレージデバイスリストに表示されます。

6.6.4 ストレージモードの設定

HDD クォータの設定

各カメラには、ビデオを保存するための割り当てクォータを設定できます。

手順**注意**

この機能は、一部のモデルでのみ使用できます。

1. **[設定]→[→][録画][ストレージモード]**に移動します。
2. モードを**クォータ**に設定します。
3. **カメラ**で、クォータを設定するカメラを選択します。

4. **記録容量**にストレージの容量を入力します。

図6-31 クォータ



クォータ容量を 0 に設定すると、すべてのカメラはビデオおよび画像用に HDD の総容量を使用します。

5. **適用**をクリックします。

6. ビデオレコーダーを再起動して、新しい設定を有効にします。

HDD グループを設定

複数の HDD をグループで管理することができます。HDD 設定により、指定したチャンネルのビデオを特定の HDD グループに録画することができます。

手順



この機能は、一部のモデルでのみご利用いただけます。

1. Go to Configuration→Record→ **Storage Mode**.
2. モードを「**グループ**」に選択します。
3. グループ番号を選択します。
4. HDD グループに録画する IP カメラを選択します。

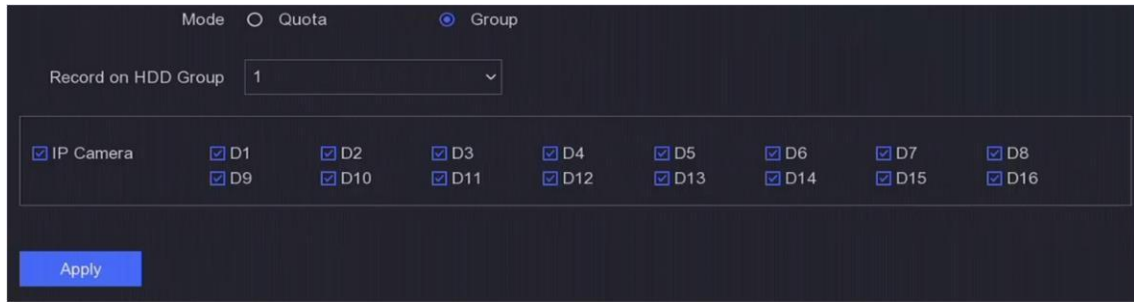


図6-32 グループ

5. **適用**をクリックします。
6. ビデオレコーダーを再起動して、新しいストレージモードの設定を有効にします。
7. 再起動後、**[Configuration] (設定) [→ (グループ) (HDD) (録画) (→) (ストレージ) (HDD) (グループ)**
8. 記録したいHDDの「」をクリックしてグループを設定します。
9. 現在のHDD用のグループ番号を選択します。
10. 「**適用**」をクリックします。



注意

HDD グループ番号が変更された場合は、HDD 用のカメラを再グループ化してください。

6.6.5 詳細設定

手順

1. Go to Configuration→Record→ **Advanced**
2. パラメーターを任意の設定に設定します。

上書き

- 無効: HDD が満杯になると、ビデオレコーダーは書き込みを停止します。
- 有効: ハードドライブが満杯になると、ビデオレコーダーは古いファイルを削除して新しいファイルの書き込みを続けます。

HDD スリープ

長時間使用されていないHDDはスリープ状態になります。

カメラ VCA データを保存

カメラVCAデータは検索できるように保存されます。



注意

カメラ VCA データの保存を無効にすると、既存のデュアル VCA および動体検知情報が削除され、デュアル VCA および動体検知情報の分析と保存が停止します。

アラームの保存

HDDの空き容量が不足した場合、スペースを節約するために無効にできますが、その場合、デバイスは

アラーム情報の保存は停止します。

画像保存

HDDの空き容量が不足した場合、スペースを節約するために無効にできますが、デバイスは画像の保存を停止します。

6.7 顔写真ライブラリ管理

顔画像ライブラリは、主に顔画像の保存と顔画像の比較に使用されます。



注

このセクションは、一部のモデルでのみご利用いただけます。

6.7.1 顔写真ライブラリを追加する

顔写真ライブラリは顔写真の保存に使用され、顔写真比較には不可欠です。

手順

1. 設定→顔写真ライブラリに移動します。
 2. 認証のため、管理者のパスワードを入力してください。
 3. 「追加」をクリックします。
 4. 顔画像ライブラリの名前を入力します。
 5. 「追加」をクリックします。
-



注意

また、[→]を検索して、検索結果を顔写真ライブラリに追加することもできます。

次にやるべきこと

顔写真ライブラリを追加した後、その名前を編集したり、削除したり、顔写真をアップロードしたりできます。

6.7.2 ライブラリに顔写真をアップロードする

単一の顔写真をアップロードするか、複数の顔写真をライブラリにインポートできます。

開始する前に

顔写真ライブラリを作成し、顔写真比較機能を有効にしていることを確認してください。

手順

1. 「設定」→「→」→「Face Picture Library」に移動します。
2. 顔写真をアップロードする顔写真ライブラリを見つけ、をクリックします。
3. 「追加」をクリックします。
4. 画像を読み込みます。



ライブラリに1つの顔写真を追加します。



複数の顔写真をライブラリに追加します。



- JPGおよびJPEG形式のみがサポートされています。
 - 各画像のサイズは1MB未満である必要があります。
 - 画像の解像度は、80×80 から 1920×1080 の間でなければなりません。
 - USBフラッシュドライブ内の画像のみがインポート可能です。
-

第7章 メンテナンス

7.1 デフォルト設定に戻す

手順

1. 画面右上にある「」をクリックします。
2. 復元タイプを選択します。

簡易復元

ネットワーク（IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、MTU、NIC 動作モード、デフォルトルート、サーバーポートなど）およびユーザーアカウントのパラメータを除く、すべてのパラメータを工場出荷時のデフォルト設定に復元します。

工場出荷時設定

すべてのパラメーターを工場出荷時設定に復元します。

非アクティブ状態に復元

デバイスを非アクティブ状態に復元し、ユーザーアカウントの復元を除き、すべての設定を変更せずに保持します。

3. はいをクリックします。デバイスが自動的に再起動します。

7.2 検索ログ

ビデオレコーダーの操作、アラーム、例外、および情報はログに保存され、いつでも表示およびエクスポートすることができます。

手順

1. 画面右上にある「」をクリックします。
2. 「More」をクリックします。
3. 「Log Information」をクリックします。
4. 検索条件を設定します。
5. 「検索」をクリックします。

7.3 システムサービス

手順

1. 画面右上にある「」をクリックします。
2. 「詳細」をクリックします。
3. システム サービスをクリックします。

4. パラメーターを任意の設定に構成します。

RTSP

RTSP 認証を設定することで、ライブビューのストリームデータを特別に保護することができます。

RTSP認証

2つの認証タイプから選択できます。**ダイジェスト**を選択した場合、ダイジェスト認証によるリクエストのみが、IP アドレス経由で RTSP プロトコルによってビデオストリームにアクセスできます。セキュリティ上の理由から、認証タイプには**ダイジェスト**を選択することをお勧めします。

ISAPI

ISAPI (Internet Server Application Programming Interface) は、HTTP ベースのオープンプロトコルで、システムデバイス (ネットワークカメラ、NVR など) 間の通信を実現します。ビデオレコーダーはサーバーとして使用され、システムはビデオレコーダーを見つけて接続することができます。

HTTP

管理者ユーザーアカウントは、GUI またはウェブブラウザから HTTP サービスを無効にすることができます。HTTP を無効にすると、ISAPI や ONVIF を含む関連するすべてのサービスも終了します。

HTTP認証

HTTP サービスを有効にする必要がある場合は、HTTP 認証を設定してアクセスセキュリティを強化することができます。2種類の認証タイプから選択できます。セキュリティ上の理由から、認証タイプには**ダイジェスト**を選択することをお勧めします。

カメラの追加検出

ネットワークカメラの状態を検出します。ネットワークカメラが別のビデオレコーダーによって追加されている場合、ネットワークカメラの状態は、[オンラインデバイス] リストに「」と表示されます。

5. 適用をクリックします。

7.4 ブザースイッチ

アラームリンクまたは例外リンクでブザーを有効または無効にすることができます。

手順

1. 画面右上にある「」をクリックします。
2. 「詳細」をクリックします。
3. Go で「**Buzzer Switch**」を選択します。
4. 「有効」をオンまたはオフに切り替えます。

7.5 デバイスマンテナンス

7.5.1 再起動スケジュール

デバイスはスケジュールに従って自動的に再起動します。

手順

1. 画面右上にある「」をクリックします。
2. 「詳細」をクリックします。
3. [デバイスのメンテナンス]に移動します。→[スケジュール再起動]を有効にします。
4. 「有効にする」をオンにします。
5. 再起動スケジュールを設定します。
6. 適用をクリックします。

7.5.2 デバイス状態

選択したチャンネルをミュートできます。

手順

1. 画面右上にある「」をクリックします。
2. 「詳細」をクリックします。
3. Go to Device Maintenance→ Device Status
4. 「ミュートと通知オフ」の列で、対応するチャンネルを選択します。

結果

選択したチャンネルがミュートされます。

7.5.3 時間同期診断

時間同期情報を表示し、時間同期例外検出を有効にします。

手順

1. 画面右上にある「」をクリックします。
2. 「詳細」をクリックします。
3. [デバイスマンテナンス]、[→]、[時刻同期診断]の順に選択します。現在の時刻同期情報を表示します。
4. 「時間同期設定」をクリックします。
5. 「時間同期例外検出を有効にする」をオンにします。



複数のタイムシンクソースの検出に対応しています。複数のタイムシンクソースが検出された場合、不要なタイムシンクソースを適時に無効化する必要があります。さもなくば、デバイスの時刻が変更され、録画に影響を与える可能性があります。RTC バッテリーの検出に対応しています。RTC バッテリーが切れた場合

、デバイスの時刻例外が発生し、ビデオの損失や録画時刻の誤動作の原因となる場合があります。メインボードのボタン電池を交換し、時刻を再度同期してください。

6. OKをクリックしてください。

7.6 アップグレード

警告

アップグレード中は、シャットダウンや電源を切らないでください。

7.6.1 ローカルアップグレード

開始前に

アップグレードファームウェアをバックアップデバイスに保存し、そのデバイスを機器に接続してください。

手順

1. クリック  右上隅のアイコンをクリックします。
2. クリック  をクリックします。
3. ローカルアップグレードをクリックします。
4. デバイス名でバックアップデバイスを選択します。
5. アップグレード用のファームウェアを選択します。
6. アップグレードをクリックします。デバイスが自動的に再起動します。

7.6.2 オンラインアップグレード

最新のオンラインファームウェアでデバイスをアップグレードします。

開始する前に

Hik-Connect が有効化されており、正しく設定されていることを確認してください。詳細については、[**Hik-Connect**](#)のマニュアルをご参照ください。

手順

1. クリック  右上隅をクリックします。
2. クリック  をクリックします。
3. オンラインアップグレードに移動します。
4. 最新のファームウェアをダウンロードします。

自動ダウンロード 最新のファームウェアを自動的に確認し、ダウンロードします。

テストアップグレード テストアップグレードをクリックして、手動で最新のファームウェアを確認しダウンロードします。

5. 新しいファームウェアバージョンが利用可能な場合は、デバイスをアップグレードしてください。デバイスは自動的に再起動します。

第8章 アラーム

イベントが発生すると、アラームセンターで詳細を確認できます。

8.1 イベントヒントの設定

アラームセンターでヒントを表示するイベントを選択します。

手順

1. 画面右上にある「」をクリックします。
2. イベントの種類を必要に応じて選択します。
3.  をクリックし、ヒントを表示するイベントを選択します。
4. 「OK」をクリックします。
選択したイベントが発生すると、アラーム情報が  （ローカルメニューの右上隅）に表示されます。

8.2 アラームセンターでアラームを表示する

手順

1. ローカルメニューの右上にある「」をクリックします。
2. 表示したいイベントの種類を選択します。

第9章 ウェブ操作

9.1 概要

ビデオレコーダーには、ウェブブラウザからアクセスできます。

以下のウェブブラウザのいずれかをご利用いただけます：Internet Explorer 11.0、Apple Safari、Mozilla Firefox、および Google Chrome。対応解像度は 1024×768 以上です。

一部のモデルでは、ウェブコンポーネントプラグインをダウンロードしてインストールする必要があります。そうしないと、一部の機能が利用できません。ダウンロードアドレスは <http://hikdownload.us7.com/web/webplugin/windows/WebComponents/standard/WebComponents.exe> です。

9.2 ログイン

インターネットにアクセスして本製品を使用する場合、ネットワークセキュリティ上のリスクが生じる可能性があることをご承知おきください。ネットワーク攻撃や情報漏洩を防ぐため、お客様ご自身で保護対策を強化してください。本製品が正常に動作しない場合は、販売店または最寄りのサービスセンターにお問い合わせください。

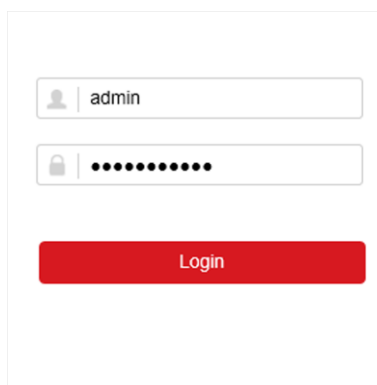
手順

1. ウェブブラウザを開き、ビデオレコーダーの IP アドレスを入力して **Enter** キーを押します。



HTTP ポートを変更した場合、アドレスバーに **http://IP アドレス:HTTP ポート** を入力してください。例: **http: 192.168.1.64:81**。

2. ログインインターフェースに **ユーザー名** と **パスワード** を入力します。
3. **ログイン** をクリックしてください。



The login form consists of two input fields and a button. The first field is for the username, containing the text 'admin'. The second field is for the password, represented by a series of dots. Below these fields is a prominent red button labeled 'Login'.

図9-1 ログイン

4. インストールプロンプトに従ってプラグインをインストールしてください。



プラグインのインストールを完了するには、ウェブブラウザを閉じる必要がある場合があります。

9.3 ライブビュー

ログイン後、ライブビューインターフェースが表示されます。



図9-2 ライブビュー

9.4 再生

再生をクリックすると、再生インターフェースが表示されます。

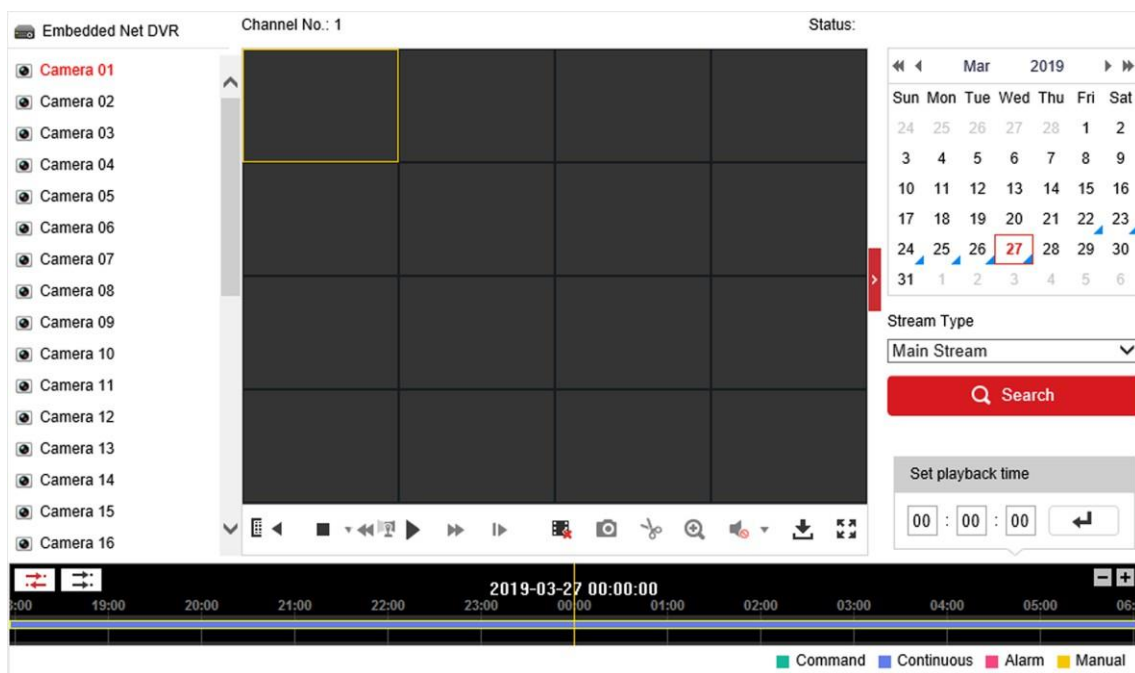


図9-3 再生

9.5 設定

[Configuration] をクリックして、設定インターフェースに入ります。

The screenshot displays the Configuration interface with a sidebar on the left and a main content area on the right. The sidebar includes a 'Local' section with a red icon and a list of categories: System, Network, Video/Audio, Image, Event, Storage, Vehicle Detection, and VCA. The main content area is divided into three sections: 'Live View Parameters', 'Record File Settings', and 'Picture and Clip Settings'. Each section contains various settings with radio buttons and text input fields.

Live View Parameters			
Protocol	☒ TCP	☐ UDP	☐ MULTICAST
Stream Type	☒ Main Stream	☐ Sub-stream	
Play Performance	☐ Shortest Delay	☒ Balanced	☐ Fluent
Rules	☐ Enable	☒ Disable	
Image Size	☒ Auto-fill	☐ 4:3	☐ 16:9
Auto Start Live View	☐ Yes	☒ No	
Image Format	☒ JPEG	☐ BMP	
Encryption Key	•••••		

Record File Settings	
Record File Size	☐ 256M ☒ 512M ☐ 1G
Save record files to	/data/record/files Browse
Save downloaded files to	/data/download/files Browse

Picture and Clip Settings	
Save snapshots in live view to	/data/snapshots/live-view Browse
Save snapshots when playback to	/data/snapshots/playback Browse
Save clips to	/data/clips Browse

図9-4 設定

9.6 ログ

手順

1. Go to Maintenance→ **System**→ Maintenance→ **Log**.
2. 検索条件を設定します。
3. **検索**をクリックします。

Local

System

System Settings

Maintenance

Security

Camera Management

User Management

Network

Video/Audio

Image

Event

Storage

Vehicle Detection

VCA

Upgrade & Maintenance

Online Upgrade

Log

Diagnose

Major Type

All Types

Minor Type

All Types

Start Time

2019-03-27 00:00:00

End Time

2019-03-27 23:59:59

Search

Log List

Export

No.	Time	Major Type	Minor Type	Channel No.	Local/Remote User	Remote Host IP

Total 0 Items

<< < 0/0 > >>

図9-5 ログ

第10章 付録

10.1 用語集

デュアルストリーム

デュアルストリームは、高解像度のビデオをローカルに録画しながら、低解像度のストリームをネットワーク経由で送信するための技術です。2つのストリームは DVR によって生成され、メインストリームの最大解像度は 1080P、サブストリームの最大解像度は CIF です。

DVR

デジタルビデオレコーダーの略語。DVR は、アナログカメラからのビデオ信号を受信し、その信号を圧縮してハードドライブに保存するデバイスです。

HD

ハードディスクドライブ（Hard Disk Drive）の略称。磁気表面を持つプラッタにデジタル形式でデータを記録する記憶装置。

DHCP

ダイナミックホスト構成プロトコル（DHCP）は、デバイス（DHCP クライアント）がインターネットプロトコルネットワークで動作するための構成情報を取得するために使用するネットワークアプリケーションプロトコルです。

HTTP

ハイパーテキスト転送プロトコルの略称。ネットワーク上で、サーバーとブラウザ間でハイパーテキストの要求や情報を転送するためのプロトコル。

PPPoE

PPPoE（Point-to-Point Protocol over Ethernet）は、Point-to-Point Protocol（PPP）フレームをイーサネットフレーム内にカプセル化するためのネットワークプロトコルです。主に、個々のユーザーがイーサネットを介して ADSL トランシーバー（モデム）に接続する ADSL サービスや、プレーンメトロイーサネットネットワークで使用されます。

DDNS

ダイナミック DNS は、インターネットプロトコルスイートを使用するルーターやコンピュータシステムなどのネットワーク接続デバイスが、ドメインネームサーバーに、DNS に保存されているホスト名、アドレス、その他の情報のアクティブな DNS 設定をリアルタイム（アドホック）で変更するよう通知する機能、プロトコル、またはネットワークサービスです。

ハイブリッドDVR

ハイブリッドDVRは、DVRとNVRを組み合わせた装置です。

NTP

ネットワークタイムプロトコルの略称。ネットワーク上のコンピュータのクロックを同期させるために設計されたプロトコル。

NTSC

National Television System Committeeの略称。NTSCは、アメリカ合衆国や日本などにおいて使用されるアナログテレビ放送の規格です。NTSC信号の1フレームには、60Hzで525本の走査線が含まれます。

NVR

ネットワークビデオレコーダーの略称。NVRは、IPカメラ、IPドーム、その他のDVRの集中管理および保存に使用される、PCベースまたは組み込み型のシステムです。

PAL

Phase Alternating Line（位相変調）の略語。PALは、世界の大半のテレビ放送システムで使用されているもう1つのビデオ規格です。PAL信号は、50Hzで625走査線を含みます。

PTZ

パン、チルト、ズームの頭文字。PTZカメラは、カメラを左右にパン、上下にチルト、ズームイン、ズームアウトできる電動式システムです。

USB

Universal Serial Bus（ユニバーサル・シリアル・バス）の略語。USBは、デバイスをホストコンピュータに接続するためのプラグアンドプレイのシリアルバス規格です。